

久慈市埋蔵文化財調査報告書 第12集

久慈市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ

1990.3

岩手県久慈市教育委員会

久慈市埋蔵文化財調査報告書 第12集

久慈市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ

1990.3

岩手県久慈市教育委員会

序

先人の築いた文化遺産はその地方の歴史を解明するうえで、貴重なものです。

遺跡など、地中に埋蔵されている文化遺産を埋蔵文化財と総称します。

近年、各種開発による土木工事等に伴い、埋蔵文化財の発掘調査が増加しています。

この度、遺跡の分布状況、内容等を把握し、遺跡台帳を整え、開発事業と埋蔵文化財保護との調整を図るため、市内遺跡詳細分布調査を4年次計画で実施することとしました。

平成元年度は4年次計画の初年度で、麦生・半崎・夏井地区を対象として調査を実施しました。調査の結果、多くの遺跡が発見され大きな成果を挙げました。

本書はその成果をまとめたものであり、今後、埋蔵文化財保護を進めるうえでの一助となれば幸いです。

平成2年3月

久慈市教育委員会

教育長 長内俊雄

例 言

- 1 本書は、平成元年度文化財保護事業として国庫及び県費補助を受けて久慈市教育委員会が実施した遺跡詳細分布調査の報告書である。
- 2 調査は久慈市教育委員会が主体となり実施した。
- 3 調査体制は次のとおりである。

事務局	社会教育課長	中新井田	正蔵
	郷土文化係長	坂本	治雄
	文化財調査員	千葉	啓蔵
調査員	千葉	啓蔵	
屋外作業員	神田 喜美栄	西川 ヨシ	和野 ツヤ
屋内作業員	神田 喜美栄	西川 ヨシ	
- 4 石質鑑定は新田康夫氏（久慈市立山根中学校長）に依頼した。
- 5 屋外調査に際し、舛森栄一郎氏、森岩勝也氏、中塚是昭氏、向省吾氏の協力を得た。記して感謝したい。
- 6 本書の編集、原稿執筆、図版作成、写真撮影等は千葉が担当した。
- 7 調査に関する資料は久慈市教育委員会が一括して保管してある。

目 次

序	
例 言	
第 I 章 分布調査の概要	1
第 II 章 調査結果	4
A 踏査結果	
1. 本波地区	4
2. 麦生地区	8
3. 滝合地区	28
4. 半崎地区	32
5. 田中・宇津目・閉伊口・鼻館地区	38
6. 大崎・源道・旭町地区	44
B 試掘調査結果	
1. 麦生 I 遺跡	49
2. 麦生 X X I 遺跡	64

図 版 目 次

第 1 図 平成元年度分布調査対象範囲図	第 18 図 麦生地区古絵図
第 2 図 本波地区遺跡分布図	第 19 図 麦生 X X II 遺跡砲台場跡平面図
第 3 図 本波地区表採遺物	第 20 図 麦生 X X III 遺跡砲台場跡平面図
第 4 図 麦生地区遺跡分布図	第 21 図 滝合地区遺跡分布図
第 5 図 麦生 III 遺跡表採遺物 (1)	第 22 図 滝合 I 遺跡発掘調査区遺構配置図
第 6 図 麦生 III 遺跡表採遺物 (2)	第 23 図 滝合 II・III・IV・V 遺跡表採遺物
第 7 図 麦生 I・III 遺跡表採遺物	第 24 図 滝合 II・IV・V 遺跡表採遺物
第 8 図 麦生 IV・V 遺跡表採遺物	第 25 図 半崎地区遺跡分布図
第 9 図 麦生 VI 遺跡表採遺物 (1)	第 26 図 半崎 I・II・III・IV・V 遺跡表採遺物
第 10 図 麦生 VI 遺跡表採遺物 (2)	第 27 図 半崎 VI 遺跡表採遺物 (1)
第 11 図 麦生 VI 遺跡表採遺物 (3)	第 28 図 半崎 VI 遺跡表採遺物 (2)
第 12 図 麦生 IX・X 遺跡表採遺物 (1)	第 29 図 半崎 VII・半崎南 V 遺跡表採遺物
第 13 図 麦生 IX・X 遺跡表採遺物 (2)	第 30 図 田中・宇津目・閉伊口・鼻館地区遺跡分布図
第 14 図 麦生 XI 遺跡表採遺物	第 31 図 田中 IV 遺跡発掘調査区遺構配置図
第 15 図 麦生 X IV・X V・X VI 遺跡表採遺物	第 32 図 田中 I・IV・V 遺跡、鼻館跡表採遺物
第 16 図 麦生 X X 遺跡表採遺物	第 33 図 鼻館跡窠跡位置図
第 17 図 砲台場跡位置図	第 34 図 大崎・源道・旭町地区遺跡分布図

- | | | | |
|------|-----------------------------------|------|---------------------------------------|
| 第35図 | 新城館跡平面図 | 第46図 | 麦生 I 遺跡 5 グリッド出土遺物 |
| 第36図 | 左峠館跡平面図 | 第47図 | 麦生 I 遺跡 6 グリッド |
| 第37図 | 新城館跡、金比羅遺跡、昼場沢遺跡、
旭町 II 遺跡表採遺物 | 第48図 | 麦生遺跡 6 グリッド出土遺物 |
| 第38図 | 麦生 I 遺跡試掘調査区位置図 | 第49図 | 麦生 I 遺跡 6 グリッド・
R A 0 0 1 出土遺物 (1) |
| 第39図 | 麦生 I 遺跡グリッド配置図 | 第50図 | 麦生 I 遺跡 6 グリッド・
R A 0 0 1 出土遺物 (2) |
| 第40図 | 麦生 I 遺跡 1 ~ 3 グリッド | 第51図 | 麦生 X X I 遺跡試掘調査区位置図 |
| 第41図 | 麦生 I 遺跡 2・3 グリッド出土遺物 | 第52図 | 麦生 X X I 遺跡グリッド配置図 |
| 第42図 | 麦生 I 遺跡 4・5 グリッド | 第53図 | 麦生 X X I 遺跡 1 ~ 3 グリッド |
| 第43図 | 麦生 I 遺跡 4 グリッド出土遺物 | 第54図 | 麦生 X X I 遺跡 1 ~ 3 グリッド出土遺物 |
| 第44図 | 麦生 I 遺跡 4・5 グリッド出土遺物 | 第55図 | 麦生 X X I 遺跡 3 グリッド出土遺物 |
| 第45図 | 麦生 I 遺跡 5 グリッド出土遺物 | | |

写真図版目次

- | | |
|--------|--------------------------|
| 第 1 図版 | 本波地区航空写真 |
| 第 2 図版 | 麦生地区航空写真 |
| 第 3 図版 | 麦生 XI 遺跡表採遺物 |
| 第 4 図版 | 麦生 X X II・X X III 遺跡砲台場跡 |
| 第 5 図版 | 麦生地区 |
| 第 6 図版 | 滝合地区航空写真 |
| 第 7 図版 | 半崎地区航空写真 |
| 第 8 図版 | 田中・宇津目・閉伊口・鼻館地区航空写真 |
| 第 9 図版 | 田中 III 遺跡鼻館跡 |
| 第10図版 | 鼻館跡窯跡出土遺物 (1) |
| 第11図版 | 鼻館跡窯跡出土遺物 (2) |
| 第12図版 | 鼻館跡窯跡 |
| 第13図版 | 大崎・源道・旭町地区航空写真 |
| 第14図版 | 麦生 I 遺跡試掘調査状況 |
| 第15図版 | 麦生 X X I 遺跡試掘調査状況 |
| 第16図版 | 麦生 I 遺跡試掘調査出土遺物 |
| 第17図版 | 麦生 I・X X I 遺跡試掘調査出土遺物 |

第I章 分布調査の概要

岩手県久慈市は北上山地北東部に位置する。経緯度は、東経 141度38分～ 141度52分、北緯 40度00分～40度17分である。広さは、東西21km、南北33km、面積は325,66km²である。九戸郡種市町・大野村・山形村・野田村及び下閉伊郡岩泉町に接し、東は太平洋に面する。久慈湾に注ぐ久慈川、長内川、夏井川流域、野田湾に注ぐ宇部川流域に主な集落が形成され、市域の約82%が山林原野で、気候は夏は涼しく、冬は温暖である。人口は約4万人である。

久慈市内においては、現在約200箇所の遺跡が確認されている。主に、畑地などに利用されている箇所において遺跡が確認されており、山林地が大半を占めているため、未確認の遺跡が多く存在するものと予想される。

近年、当市においてバイパス建設等各種道路整備、企業の誘致建設、国家石油備蓄基地建設などの他、民間企業における宅地開発が急増しており、それに伴う発掘調査件数も増加している。これらの各種開発と埋蔵文化財保護との調整を図るため遺跡台帳を整備し、遺跡の保護に資することを目的とし、平成元年度から国庫補助を導入し遺跡詳細分布調査を実施した。

平成元年度は、国家石油備蓄基地、高規格道路、公共施設、学校等の建設が予定されている侍浜町本波・麦生地区、夏井町半崎・田中・閉伊口・宇津目・鼻館・大崎地区、源道・旭町地区を分布調査の対象とした。

調査方法は踏査を主体とし、2箇所において試掘を行なった。分布調査の結果、対象地においては、新発見の遺跡は23箇所、周知の遺跡43箇所と合わせて遺跡数は66箇所となった。山林地については確認が不可能な箇所もあったため、さらに遺跡数は増加するものと思われる。

試掘調査を行なった箇所はいずれも麦生地区で、1箇所は学校建設用地の候補地となった山林地で、遺跡台帳には登録されていない場所であった。平坦な地形で遺跡の存在する可能性が高かったが、試掘調査を実施した結果、縄文時代晩期の遺物が出土するとともに、竪穴住居跡も検出された。

もう1箇所は踏査の結果、縄文時代前期前半の土器が多量に散布する麦生I遺跡で、土器類と一緒に貝類の散布が認められ、表採遺物に伴う貝塚が存在すれば、当市においては最も古い時期に属する貝塚となる可能性があったため、貝層の存在の確認及び、その時期等を把握するため試掘調査を実施した。調査の結果、貝層は検出されたものの貝層の形成時期は、近世から近代にかけてのものであることが判明した。しかしながら、試掘箇所において縄文時代前期初頭の竪穴住居跡が検出されており、遺物の出土量、地形的条件から集落跡が存在するものと推定される。

今回の分布調査の対象地の大半が山林であり、遺物の採集が不可能な箇所が多かったため、確認できなかった遺跡があるものと思われる。

調査の結果は、分布調査カードに記載し、市教育委員会で保管している。

第Ⅱ章 調 査 結 果

A. 踏 査 結 果

1. 本 波 地 区

久慈湾北側の侍浜地区は、海岸線に沿って帯状に海岸段丘が認められ、その海岸段丘が大小の河川によって開析されている。大半が山林であるため、遺物の表面採集が不可能な箇所が多く、遺跡の存在を確認することが困難である。しかしながら、山林であっても地形が平坦な箇所においては遺跡が存在することが予想される。特に、海岸線寄りには広大な平坦面が認められ、大規模な遺跡が存在する可能性が高い。

本波Ⅰ～Ⅳ遺跡は、西から東へ流れる沢すじに開けた小規模な平坦地に所在し、遺跡の規模はさほど大きくないものと推定される。

本波Ⅰ遺跡は、北側に沢が流れ、南側は山が迫っている狭い範囲に所在する。畑地として利用されているが、縄文土器及び土師器の破片が表採される。

本波Ⅱ遺跡は、本波Ⅰ遺跡と沢を挟んだ向かいに位置する。遺跡の北側は上部の段丘面から下ってくる急傾斜地となっており、沢と急傾斜地の間の狭い範囲に分布する。現在は家畜の放牧地となっており、柵が巡らされているが、縄文土器の散布地として遺跡台帳に登録されている。

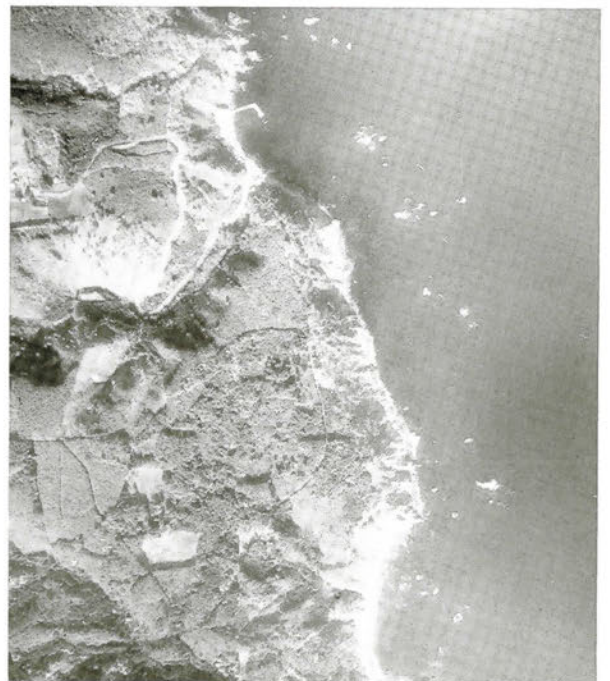
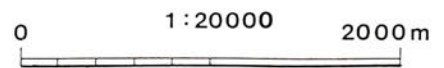
本波Ⅲ・Ⅳ遺跡は、本波Ⅱ遺跡の南東方向に位置し、本波Ⅱ遺跡と同様、狭い範囲に分布する。現況は畑地で、縄文時代後期に属する遺物の散布が認められる。

本波Ⅴ～Ⅹ遺跡は、本波Ⅰ～Ⅳ遺跡の所在地の北側の段丘面上に立地し、遺跡の規模も比較的大きいものと推定される。段丘面はさらに北側に広がっており、遺跡の範囲は北側に広がるものと予想される。

番号	遺 跡 名	県遺跡コード	種 別	遺 構 ・ 遺 物	所 在 地	備 考
1	本波Ⅰ遺跡	J G10.0351	散布地	縄文土器、土師器	侍浜町本波9-15-5	
2	本波Ⅱ遺跡	J G10.0352	散布地	縄文土器	侍浜町本波	
3	本波Ⅲ遺跡	J G10.0353	散布地	縄文土器	侍浜町本波11-71	
4	本波Ⅳ遺跡	J G10.0364	散布地	縄文土器、土師器	侍浜町本波11-22	
5	本波Ⅴ遺跡	J G11.0025	散布地	縄文土器	侍浜町本波12-39	
6	本波Ⅵ遺跡	J G10.0339	散布地	縄文土器(前期)	侍浜町本波	
7	本波Ⅶ遺跡	J G10.0305	散布地	縄文土器	侍浜町本波	
8	本波Ⅷ遺跡	J G10.0332	散布地	縄文土器(前期)	侍浜町本波	新発見
9	本波Ⅸ遺跡	J G10.0335	散布地	縄文土器	侍浜町本波	新発見
10	本波Ⅹ遺跡	J G10.0021	散布地	縄文土器(前期)	侍浜町本波	新発見
11	本波Ⅺ遺跡	J G10.0048	集落跡?	縄文土器(後期)	侍浜町本波	新発見



第2図 本波地区遺跡分布図



第1図版 本波地区航空写真

(昭和59年11月8日 久慈市道路台帳整備事業に伴い撮影)

本波V遺跡は、南側及び北側に沢が東流しており、沢に開析され東に張り出した地形を呈する段丘の先端部に位置する。現況は畑地で一部荒地となっている。ほぼ平坦な地形で、遺物の分布密度は少ないが、縄文時代の遺物が表採される。

本波VI遺跡は、本波V遺跡の西側約600mに位置し、南側は沢に向かい急傾斜する。現況は畑地で、縄文時代前期の遺物が表採される。

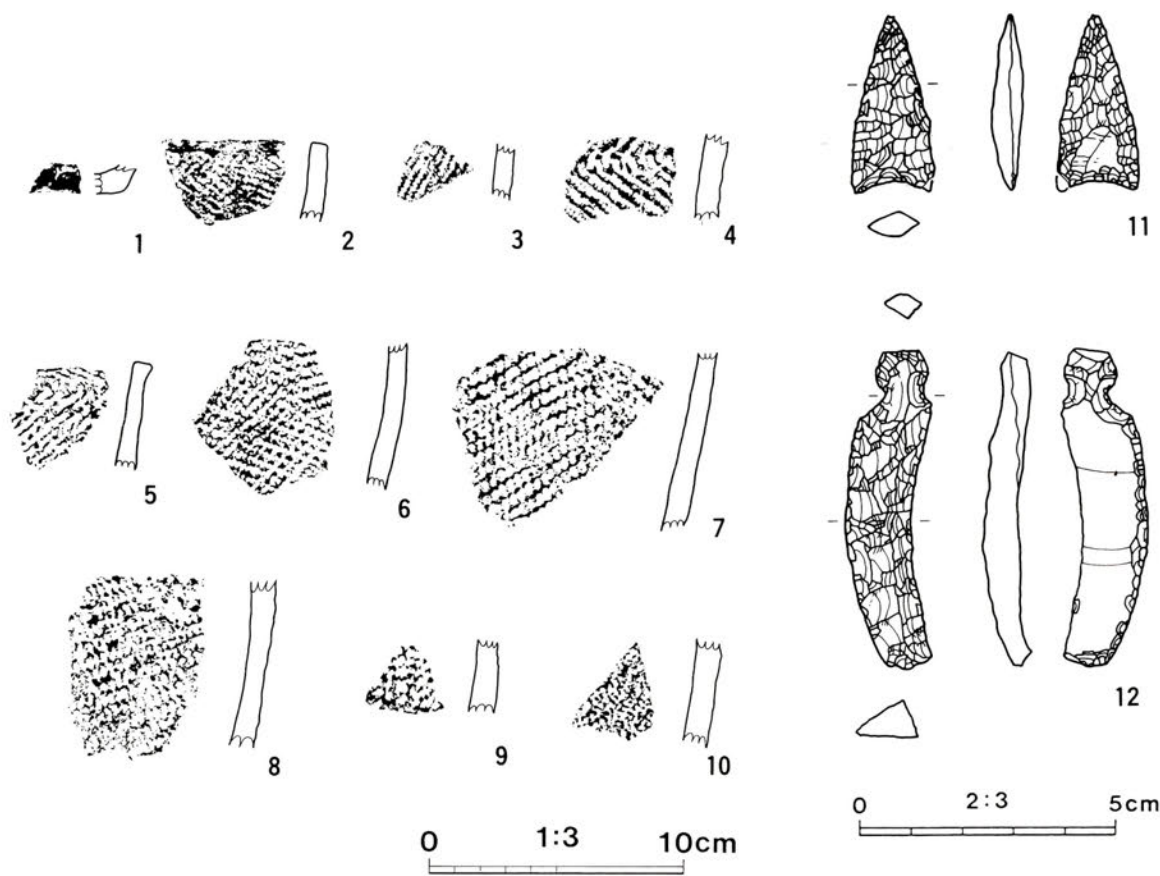
本波VII遺跡は北側及び南側を沢によって開析され、東側に張り出した地形の基部に所在する。侍浜段丘に相当し、現況は畑地である。広く平坦面が形成されており、遺跡の規模は大きいものと予想される。縄文時代の遺物が表採される。

本波VIII遺跡は、本波VII遺跡の南西側に位置する。東西に長い独立した小高い丘陵状の地形を呈し、侍浜段丘より一段高い九戸段丘に相当する。現況は山林で一部木材置場として利用されている。木材置場をつくる際に削土がなされており、そのカット面において遺物が含まれていることを確認できる。削土は地山まで達しており、約1mにわたり黒色土の堆積が認められる。カット面においては遺構の存在は認められず、遺物が含まれているのみであるが、付近に遺構が存在するものと推定される。含まれている遺物は縄文時代前期に属する。

本波IX遺跡は、本波VIII遺跡の東側に立地する。現況は畑地である。縄文時代前期に属する遺物が表採される。

本波X遺跡は、本波VI遺跡の北東部に位置し、侍浜段丘に相当する。地形的には本波VI遺跡と同一の遺跡と考えられる。縄文時代前期に属する遺物が表採される。

本波XI遺跡は、本波地区を東流する沢の南側の海岸線に近い麦生段丘面に立地する。現況は山林であるが、林道を通す際に削土がなされた箇所において遺物がわずかではあるが表採される。山林であるため、遺物の表採される量は少ないものの、太平洋に面し広大な平坦面が形成されており、大規模な遺跡が存在する可能性が高いものと予想される。表採された遺物は縄文時代に属するものである。



番号	遺跡名	器種	文 様	備 考
1	本波IV遺跡	土師器甕	ミガキ調整	
2	本波VI遺跡	深鉢	L R 単節	
3	本波VI遺跡	深鉢	L R 単節	
4	本波VI遺跡	深鉢	結束羽状縄文	繊維含
5	本波VII遺跡	深鉢	結束羽状縄文	繊維含
6	本波VII遺跡	深鉢	L R 単節	繊維含
7	本波VII遺跡	深鉢	L R 単節	繊維含
8	本波IX遺跡	深鉢	L R 単節	繊維含
9	本波IX遺跡	深鉢	L R 単節	繊維含
10	本波X遺跡	深鉢	L R 単節	繊維含

()は欠損品の現存値

番号	遺跡名	器種	形 態	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量、単位g	石 質	備 考
1	本波VI遺跡	石 鏃	凹基無茎	3.5、(1.7)、0.7	(2.5)	硬質頁岩	
2	本波IX遺跡	石 匙	縦 形	6.3、1.7、0.7	6.8	硬質頁岩	

第3図 本波地区表採遺物

2. 麦生地区

麦生地区は久慈湾に面し、海岸線は断崖となっている。麦生地区東半の断崖の上面では海岸段丘がよく残っており、標高約60～110m前後にわたり平坦な地形が広く形成されている。平坦面には現在集落が営まれており、海岸線沿いを除いて主に畑地に利用されている。縄文時代に属する遺物の散布密度が濃く、地区の住民からの聞きとり調査によると、毎年畑を耕作した後の強風により、多量の土器、石器が露出することによることである。現に、畑地の境界には、礫石器が山と積まれている箇所が多く認められた。遺物の密度については濃い箇所と薄い箇所が認められるが、集落周辺の平坦面はほぼ全域を麦生遺跡群として捉えることができる。特に麦生Ⅰ・Ⅲ・Ⅵ遺跡においては遺物の散布密度が濃い。

麦生地区西半は、主に山林で大小の沢によって海岸段丘が開析され、張り出し状の地形が連続しており、その張り出し部に遺跡が所在している。

麦生Ⅰ遺跡は、北から南に下る緩斜面に立地し、縄文時代前期前半の土器が多く散布しているが、それらと共に貝の散布が認められることから市内では最も古い時期の貝塚となる可能性があった。現況は畑地及び荒地であるため、荒地の部分において貝層の存在の有無及び、存在した場合はその時期の確認を目的とし、6箇所のグリットを設定し、試掘調査を実施した。そ

番号	遺跡名	県遺跡コード	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	麦生Ⅰ遺跡	J G11.1052	集落跡	縄文土器(前・後期)、土師器	侍浜町麦生6-8	試掘調査実施
2	麦生Ⅱ遺跡	J G11.1074	散布地	縄文土器(前期)	侍浜町麦生	
3	麦生Ⅲ遺跡	J G11.1077	散布地	縄文土器(前・後期)	侍浜町麦生	
4	麦生Ⅳ遺跡	J G11.1099	散布地	縄文土器(後期)	侍浜町麦生1-2-8	土偶出土
5	麦生Ⅴ遺跡	J G11.1058	散布地	縄文土器(後期)、土師器	侍浜町麦生4-36-10	
6	麦生Ⅵ遺跡	J G11.2018	集落跡	縄文土器(後期)	侍浜町麦生1-22	
7	麦生Ⅶ遺跡	J G11.1160	散布地	縄文土器(前期)	侍浜町麦生4-36-22	
8	麦生Ⅷ遺跡	J G11.1045	散布地	縄文土器(後期)	侍浜町麦生	
9	麦生Ⅸ遺跡	J G11.1086	散布地	縄文土器(後期)、弥生土器	侍浜町麦生3-29-2	
10	麦生Ⅹ遺跡	J G11.2013	散布地	縄文土器(前・後期)	侍浜町麦生	自然崩壊進行中
11	麦生Ⅺ遺跡	J G10.2230	散布地	縄文土器、弥生土器	侍浜町麦生	
12	麦生Ⅻ遺跡	J G10.2215	散布地	縄文土器(後期)	侍浜町麦生	
13	麦生Ⅼ遺跡	J G10.2216	散布地	縄文土器(後期)	侍浜町麦生	
14	麦生Ⅽ遺跡	J G10.2322	散布地	縄文土器(中期末～後期)、弥生土器	侍浜町麦生	
15	麦生Ⅾ遺跡	J G11.1063	散布地	縄文土器(後期)	侍浜町麦生	新発見
16	麦生Ⅿ遺跡	J G11.1089	散布地	縄文土器(前・後期)、弥生土器、鉄滓	侍浜町麦生	新発見
17	麦生ⅰ遺跡	J G11.2014	散布地	縄文土器(後期)、鉄滓	侍浜町麦生	新発見
18	麦生ⅱ遺跡	J G10.1358	散布地	縄文土器(前・中・後期)	侍浜町麦生	新発見
19	麦生ⅲ遺跡	J G10.1351	散布地	縄文土器	侍浜町麦生	新発見
20	麦生ⅳⅩ遺跡	J G10.2313	散布地	縄文土器(後期)	侍浜町麦生	新発見
21	麦生ⅳⅪ遺跡	J G10.1338	集落跡	縄文時代集落跡	侍浜町麦生	新発見、試掘調査実施
22	麦生ⅳⅫ遺跡	J G11.2111	砲台場跡	藩政時代	侍浜町麦生	新発見
23	麦生ⅳⅬ遺跡	J G11.2130	砲台場跡	藩政時代	侍浜町麦生	新発見

の結果については後述する。

麦生Ⅱ遺跡は、麦生小中学校北西側の畑地で、北西から南東に下る緩斜面に立地する。遺物の散布密度は薄いですが、縄文時代の遺物が表採される。

麦生Ⅲ遺跡は、麦生遺跡群のほぼ中心部に位置し、凹地となっている。凹地中央部には黒色土が厚く堆積しているが、凹地縁辺部では、地山が露出している箇所もあり、毎年の耕作と強風によって表土が凹地に堆積しているものと思われる。縄文時代前期・後期に属する遺物が多量に表採される。

麦生Ⅳ遺跡は、ほぼ平坦な地形で宅地及び畑地である。遺物は縄文時代が主体で、散布密度は濃く、以前宅地造成した際に縄文時代後期に属する土偶が出土している。

麦生Ⅴ遺跡は、麦生遺跡群の北東部、西から東に下る緩斜面に立地する。現況は畑地で、遺物が表採されるが、北東部は山林であるため遺物の表採は不可能である。しかしながら、遺跡の範囲は、その山林地まで広がるものと推定される。

麦生Ⅵ遺跡は、海岸線に近接した標高約50mの平坦面に立地する。遺物の散布密度が極めて濃く、30分もあれば約20×30cmのビニール袋で20袋以上は採集できるほどである。フレイク類も多く採集されることから、石器の製作加工遺跡となる可能性が高いものと推定される。遺跡の推定範囲は約35,000m²と広く、重要な遺跡である。

麦生Ⅸ遺跡は、麦生小中学校の南側の畑地で北西から南東に下る緩斜面に立地する。遺物の散布密度は薄いですが、縄文時代に属する遺跡である。

麦生Ⅹ遺跡は、麦生地区集落より沢を隔てた南西方向の海岸線近くに立地する。現況は山林であるが、地滑り地帯となっており、海岸線の崖面に遺物が流出している。付近の地盤が軟弱であるため、降雨の後は時々地滑りが発生し、自然崩壊が進行している状況である。縄文時代に属する遺物が表採される。

麦生Ⅺ遺跡は、夏井町半崎地区寄りの海岸線近くに立地する。現況は山林であるが、弥生時代を主体とする土器が表採される。

麦生ⅩⅤ遺跡は、麦生Ⅱ遺跡の北西部に位置する。東から西に下る傾斜面に立地する。現況は畑地である。

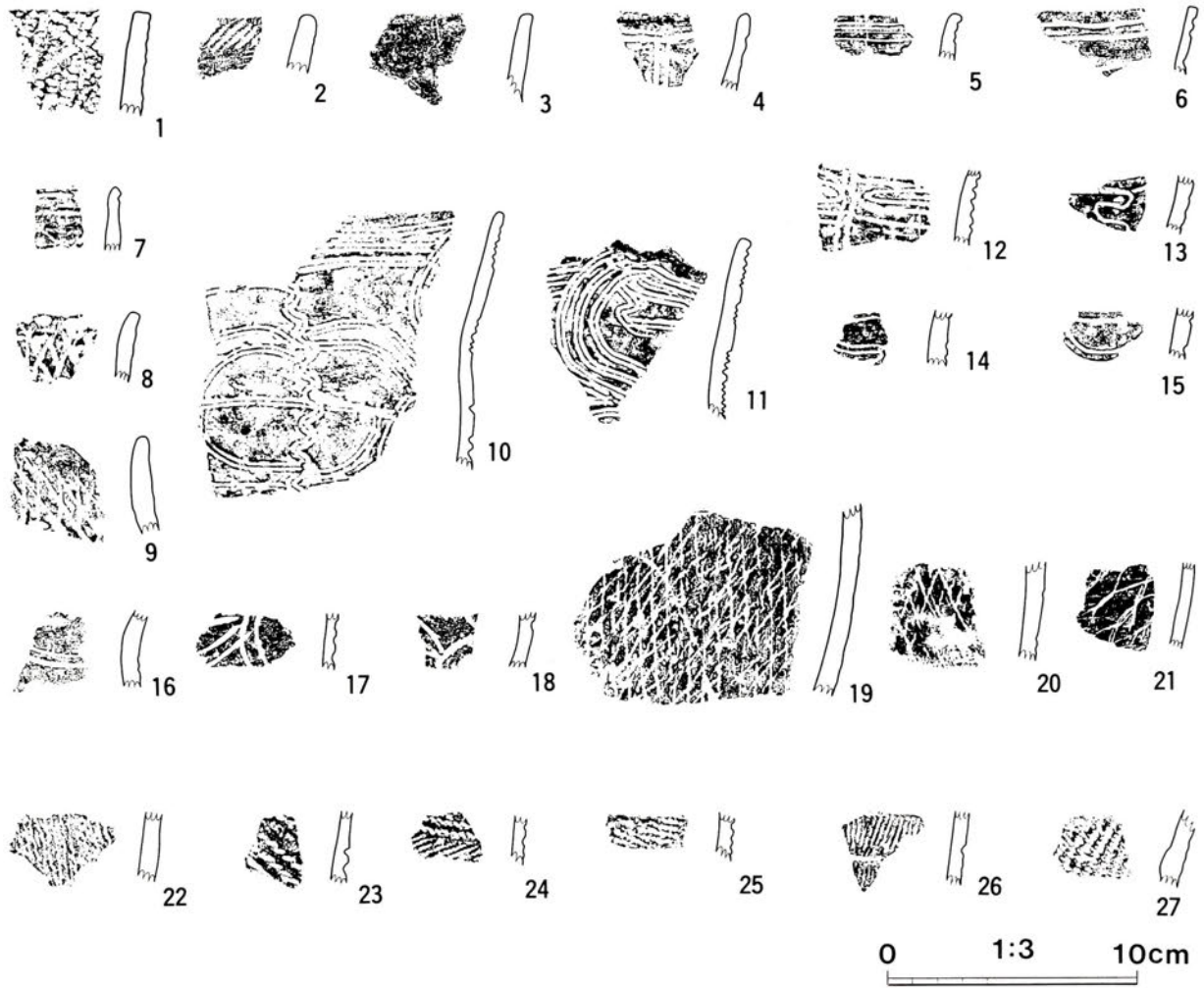
麦生ⅩⅥ遺跡は、西から東に流れる沢すじに立地する。現況は山林であるが、道路法面に弥生時代を主体とする遺物が包含されている。また、鉄滓が多く表採され、近世～近代にかけての製鉄遺跡が存在するものと推定される。

麦生ⅩⅦ遺跡は、麦生Ⅹ遺跡の東側に所在する。東方に沢が流れ現況は山林である。縄文時代の遺物と共に付近には鉄滓が多く散布している。土が小高くいくつも盛り上げられている地形を呈し、人工的なものと思われる。近世～近代にかけての製鉄遺跡が存在するものと推定される。

麦生ⅩⅧ遺跡は、北側に沢が流れており、現況は山林である。林道法面において縄文時代の遺物が散布している。

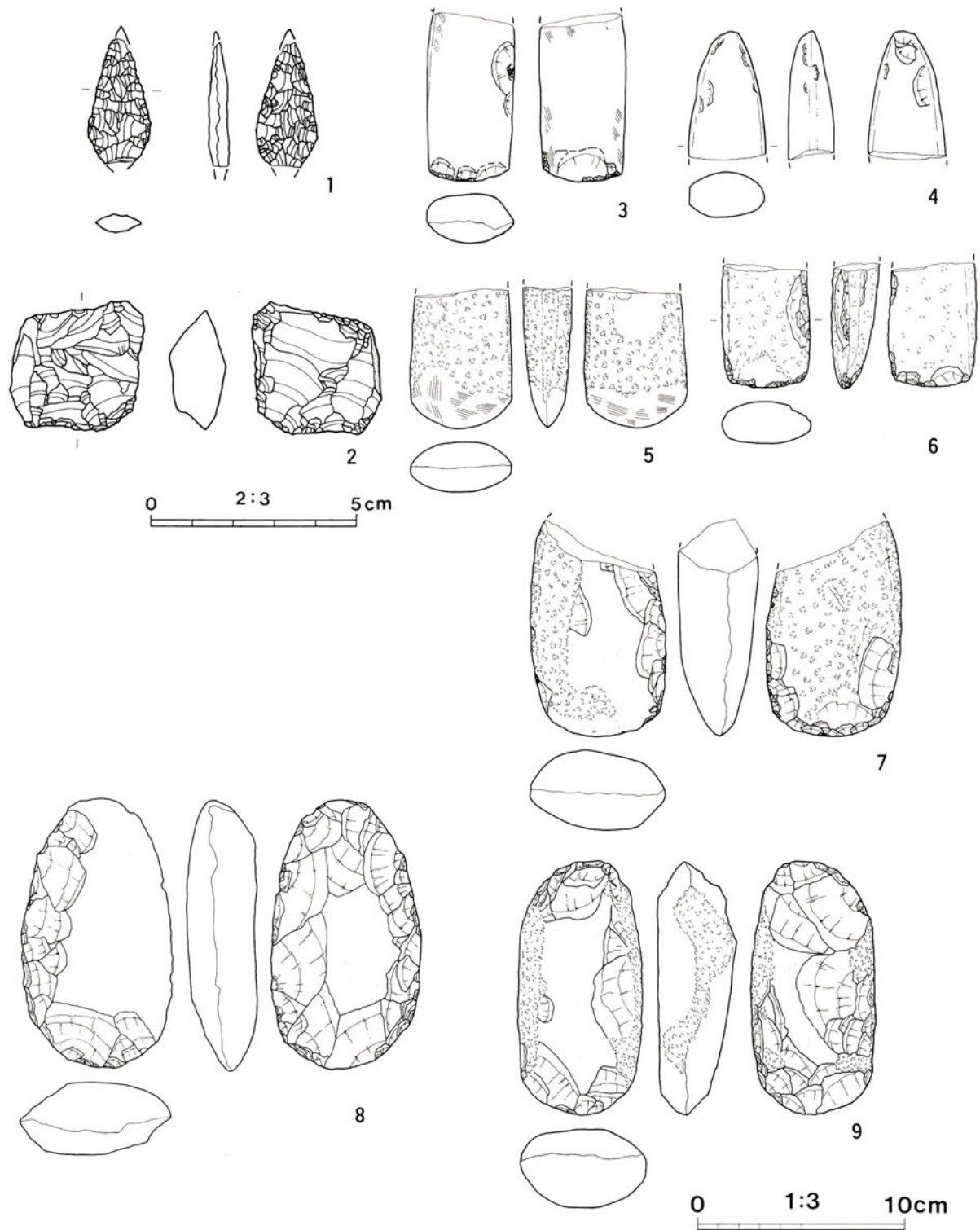
麦生ⅩⅨ遺跡は、平坦面が広く形成されており、その平坦面の南東側縁辺部において縄文時代の遺物の散布が認められる。遺跡の範囲は北東側に広がる可能性が高い。

麦生ⅩⅩ遺跡は、北から南に張り出した小丘陵状地形の先端部に立地し、現況は山林である。



番号	遺跡名	器種	文 様	備 考
1	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	複節	纖維含
2	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	L R単節	
3	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	無文	
4	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	沈線文	
5	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	沈線文	
6	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	沈線文	
7	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	沈線文	
8	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	網目状燃糸文	
9	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	網目状燃糸文	
10	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	沈線文	
11	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	沈線文	
12	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	沈線文	
13	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	沈線文	
14	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	沈線文	
15	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	沈線文	
16	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	沈線文	
17	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	沈線文	
18	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	沈線文	
19	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	網目状燃糸文	
20	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	網目状燃糸文	
21	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	網目状燃糸文	
22	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	燃糸文	
23	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	R L単節	
24	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	原体圧痕文・R L単節	
25	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	沈線文、L R単節	
26	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	L無節、沈線文、原体圧痕	
27	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	L R単節	

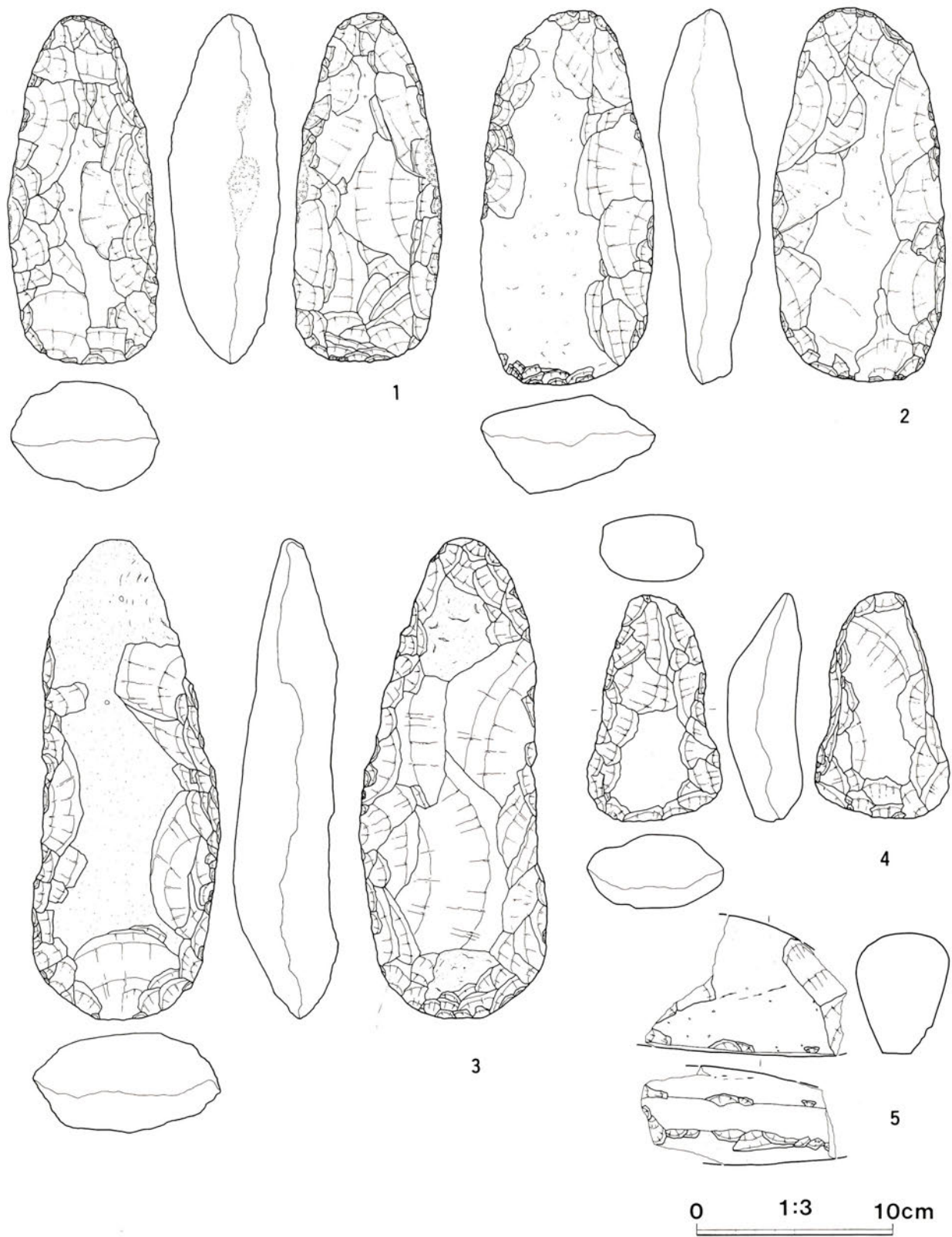
第5図 麦生Ⅲ遺跡表採遺物(1)



()は欠損品の現存値

番号	遺跡名	器種	形態	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量、単位g	石質	備考
1	麦生Ⅲ遺跡	石 鏃	凸基有茎?	(3.0)、1.5、0.5	(2.0)	硬質頁岩	
2	麦生Ⅲ遺跡	石 片		3.2、3.2、1.4	5.7	硬質頁岩	
3	麦生Ⅲ遺跡	磨製石斧		(8.2)、4.2、2.4	(134.5)	砂 岩	
4	麦生Ⅲ遺跡	磨製石斧	撥 形	(6.3)、(3.7)、(2.2)	(73.1)	砂 岩	
5	麦生Ⅲ遺跡	磨製石斧		(6.8)、5.0、(2.4)	(121.7)	硬 砂 岩	
6	麦生Ⅲ遺跡	打製石斧		(6.0)、4.3、(2.3)	(98.2)	砂 岩	
7	麦生Ⅲ遺跡	打製石斧		(10.6)、6.6、(3.9)	(372.3)	流 紋 岩	
8	麦生Ⅲ遺跡	打製石斧		13.1、7.3、3.4	448.0	硬 砂 岩	
9	麦生Ⅲ遺跡	打製石斧		12.4、6.0、3.9	457.1	粗粒砂岩	

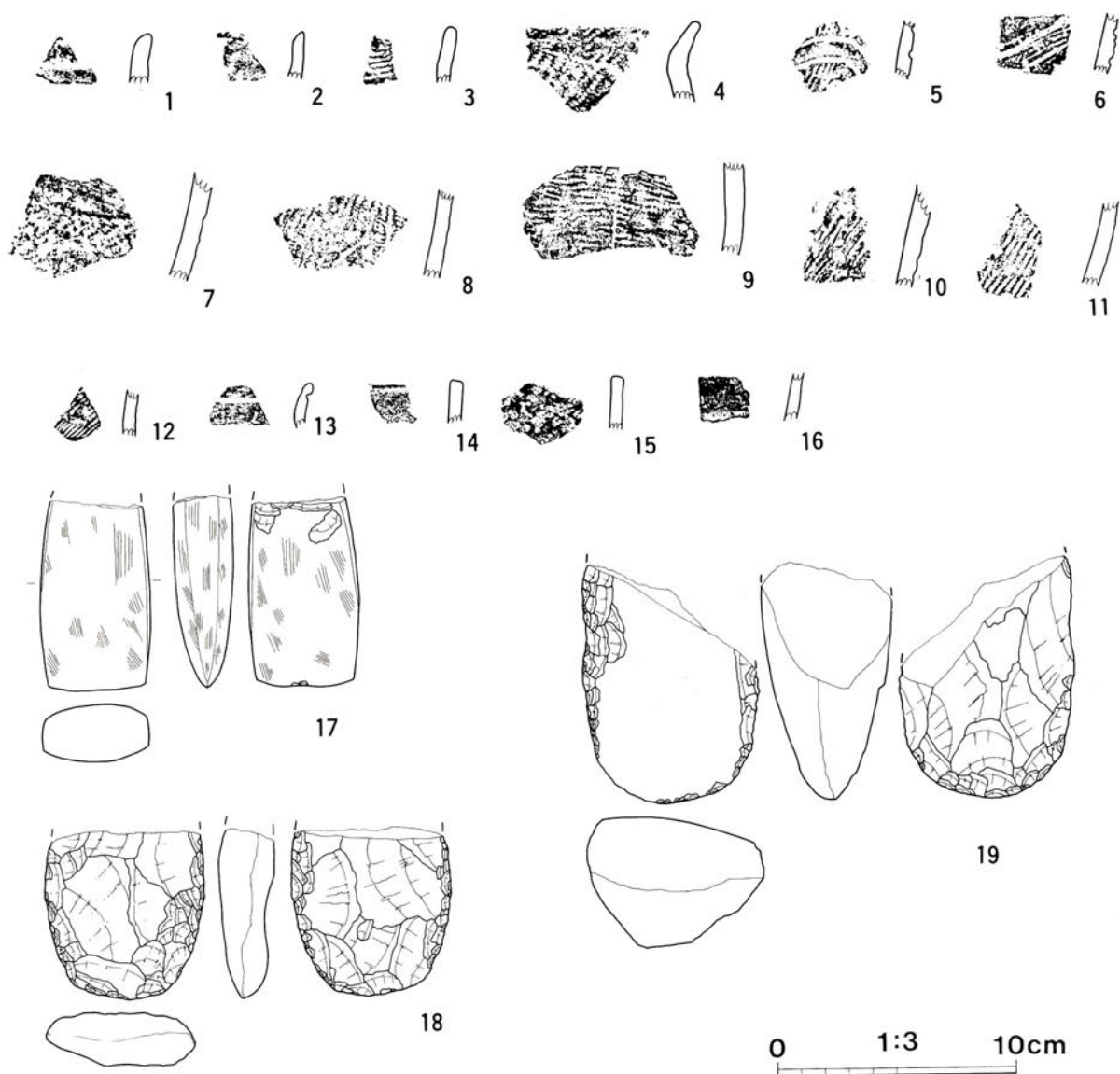
第6図 麦生Ⅲ遺跡表採遺物(2)



()は欠損品の現存値

番号	遺跡名	器種	形態	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量、単位g	石質	備考
1	麦生Ⅲ遺跡	打製石斧		17.9、7.6、5.2	1036.3	礫岩	
2	麦生Ⅲ遺跡	打製石斧		19.2、8.9、5.2	1078.7	礫岩	
3	麦生Ⅰ遺跡	打製石斧		24.7、9.6、5.4	1605.8	粗粒砂岩	
4	麦生Ⅲ遺跡	打製石斧		11.7、7.0、3.3	376.4	砂岩	
5	麦生Ⅰ遺跡	磨石		(7.1)、(10.2)、(4.7)	(354.3)	硬砂岩	

第7図 麦生Ⅰ・Ⅲ遺跡表採遺物

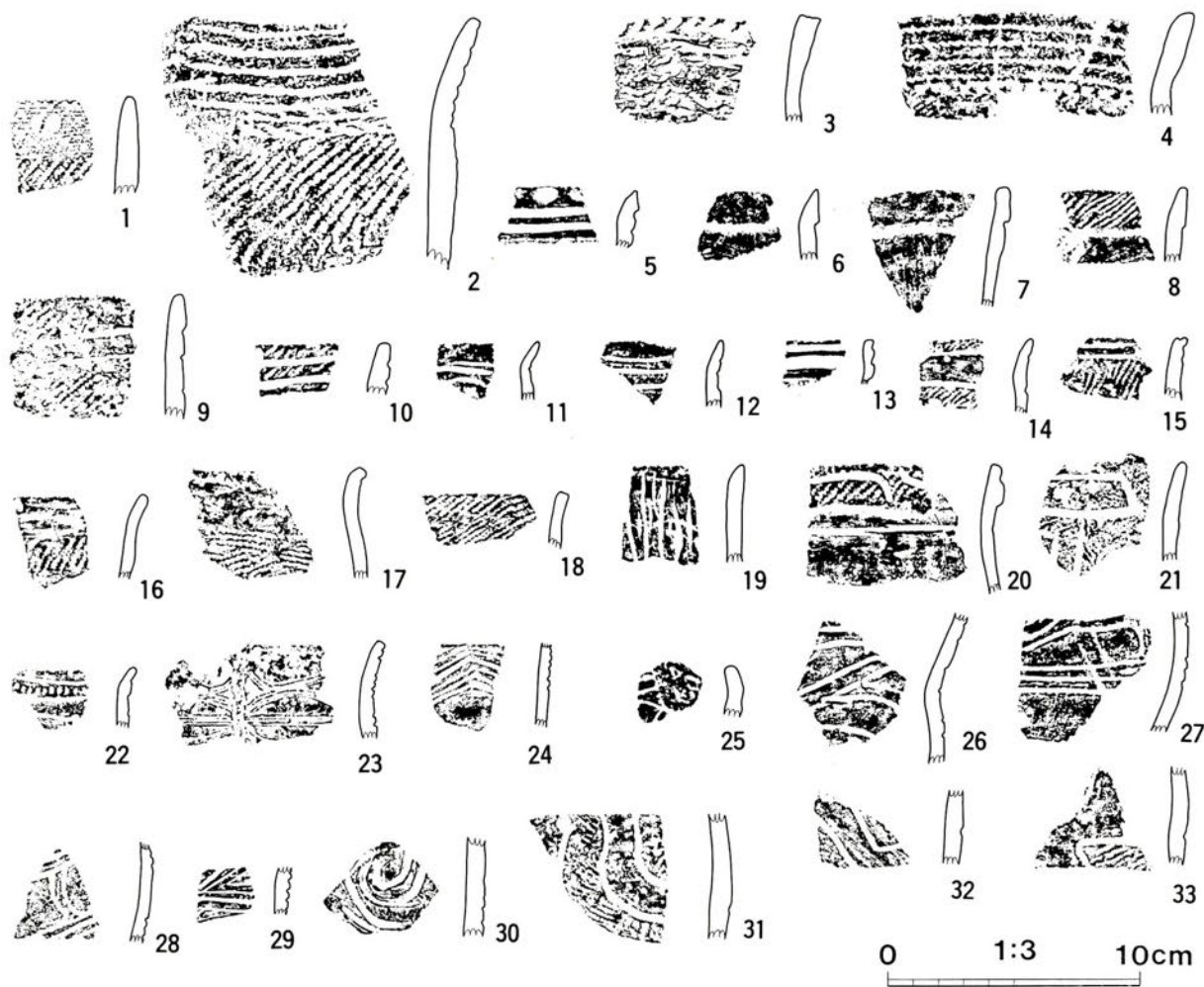


番号	遺跡名	器種	文 様	備 考
1	麦生Ⅳ遺跡	深鉢	折り返し口縁	
2	麦生Ⅳ遺跡	深鉢	無文	
3	麦生Ⅳ遺跡	深鉢	L無節	
4	麦生Ⅳ遺跡	深鉢	L R単節	
5	麦生Ⅳ遺跡	深鉢	L R単節	
6	麦生Ⅳ遺跡	深鉢	L無節	
7	麦生Ⅳ遺跡	深鉢	原体圧痕、L R単節	
8	麦生Ⅳ遺跡	深鉢	L R単節	
9	麦生Ⅳ遺跡	深鉢		
10	麦生Ⅳ遺跡	深鉢	撚糸文	
11	麦生Ⅳ遺跡	深鉢	L R単節	
12	麦生Ⅳ遺跡	深鉢	R L単節	
13	麦生Ⅴ遺跡	深鉢	裏面沈線	
14	麦生Ⅴ遺跡	深鉢		
15	麦生Ⅴ遺跡	深鉢	無文、液状口縁	
16	麦生Ⅴ遺跡	深鉢	沈線文	

()は欠損品の現存値

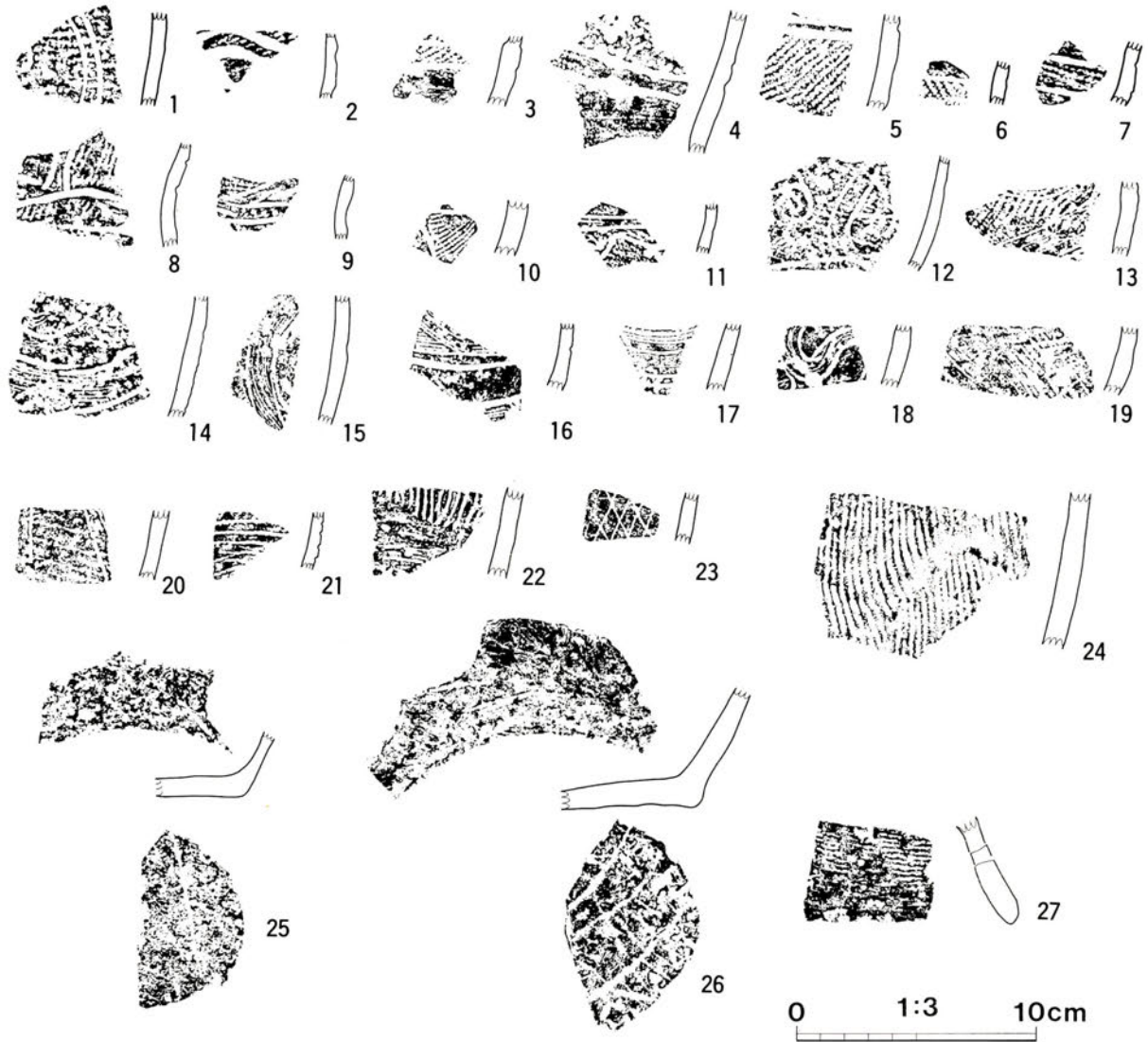
番号	遺跡名	器種	形 態	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量、単位g	石 質	備 考
17	麦生Ⅳ遺跡	磨製石斧		(8.2)、4.7、2.5	(175.5)	硬砂岩	
18	麦生Ⅳ遺跡	打製石斧		(7.2)、(6.8)、(2.4)	(139.8)	ホルンフェルス	
19	麦生Ⅳ遺跡	打製石斧		(10.2)、(7.5)、(5.5)	(466.9)	花崗閃緑岩	

第 8 図 麦生Ⅳ・Ⅴ遺跡表採遺物



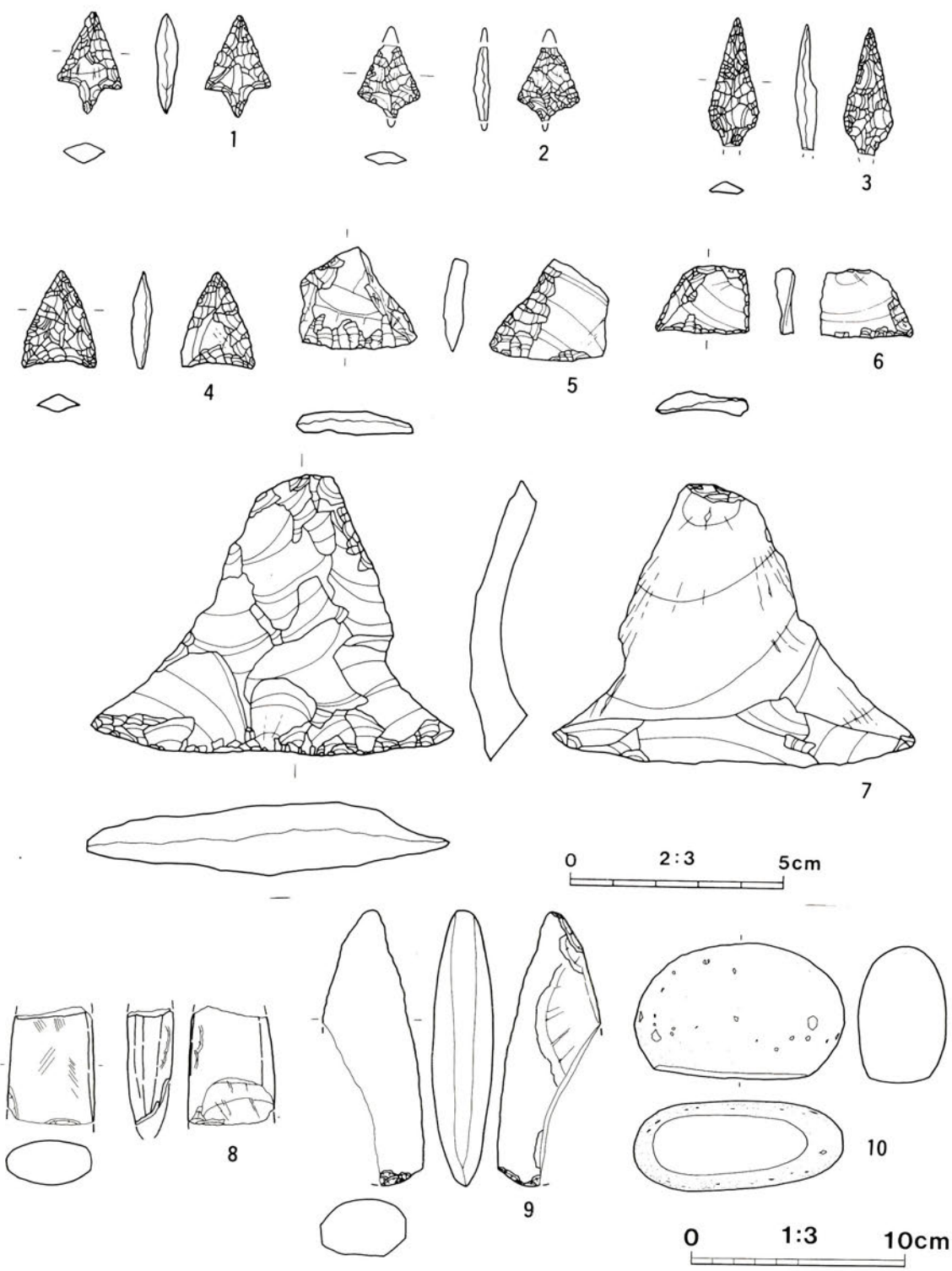
番号	遺跡名	器種	文 様	備 考
1	麦生VI遺跡	深鉢	口唇状刻み、沈線文、刺突文、LR単節	
2	麦生VI遺跡	深鉢	原体圧痕、LR単節	
3	麦生VI遺跡	深鉢	口唇状刻み、結絡文	
4	麦生VI遺跡	深鉢	原体圧痕、連続刺突文	
5	麦生VI遺跡	深鉢	平行沈線文、口唇指頭圧痕	
6	麦生VI遺跡	深鉢	折り返し口縁	
7	麦生VI遺跡	深鉢	折り返し口縁	
8	麦生VI遺跡	深鉢	折り返し、R無節	
9	麦生VI遺跡	深鉢	平行沈線文、LR単節	
10	麦生VI遺跡	深鉢	平行沈線文、LR単節	
11	麦生VI遺跡	鉢	沈線文	
12	麦生VI遺跡	鉢	沈線文	
13	麦生VI遺跡	鉢	平行沈線文	
14	麦生VI遺跡	鉢	LR単節	
15	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文、RL単節	
16	麦生VI遺跡	深鉢	LR単節	
17	麦生VI遺跡	深鉢	LR単節、原体圧痕	
18	麦生VI遺跡	深鉢	RL単節	
19	麦生VI遺跡	深鉢	撚糸文	
20	麦生VI遺跡	深鉢	折り返し口縁、LR単節、沈線文	
21	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文、LR単節、円形刺突文	
22	麦生VI遺跡	鉢	沈線文、刺突文	
23	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文	
24	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文	
25	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文、波状口縁、ボタン状貼り付け上刺突	
26	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文	
27	麦生VI遺跡	鉢	沈線文	
28	麦生VI遺跡	鉢	沈線文	
29	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文	
30	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文	
31	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文、LR単節	
32	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文	
33	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文、LR単節	

第9図 麦生VI遺跡表採遺物(1)



番号	遺跡名	器種	文 様	備 考
1	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文、LR単節	
2	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文、LR単節	
3	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文、LR単節	
4	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文	
5	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文、LR単節	
6	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文、RL単節	
7	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文、RL単節	
8	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文、RL単節	
9	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文、RL単節	
10	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文、LR単節	
11	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文、LR単節	
12	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文	
13	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文、LR単節	
14	麦生VI遺跡	深鉢	集合沈線	
15	麦生VI遺跡	深鉢	集合沈線	
16	麦生VI遺跡	深鉢	集合沈線	
17	麦生VI遺跡	深鉢	集合沈線	
18	麦生VI遺跡	深鉢	集合沈線	
19	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文	
20	麦生VI遺跡	深鉢	沈線文	
21	麦生VI遺跡	深鉢	撚糸文	
22	麦生VI遺跡	深鉢	撚糸文	
23	麦生VI遺跡	深鉢	網目状撚糸文	
24	麦生VI遺跡	深鉢	L無節	
25	麦生VI遺跡	深鉢	底部木葉痕	
26	麦生VI遺跡	深鉢	底部木葉痕	
27	麦生VI遺跡	台付鉢	L無節、補修孔	

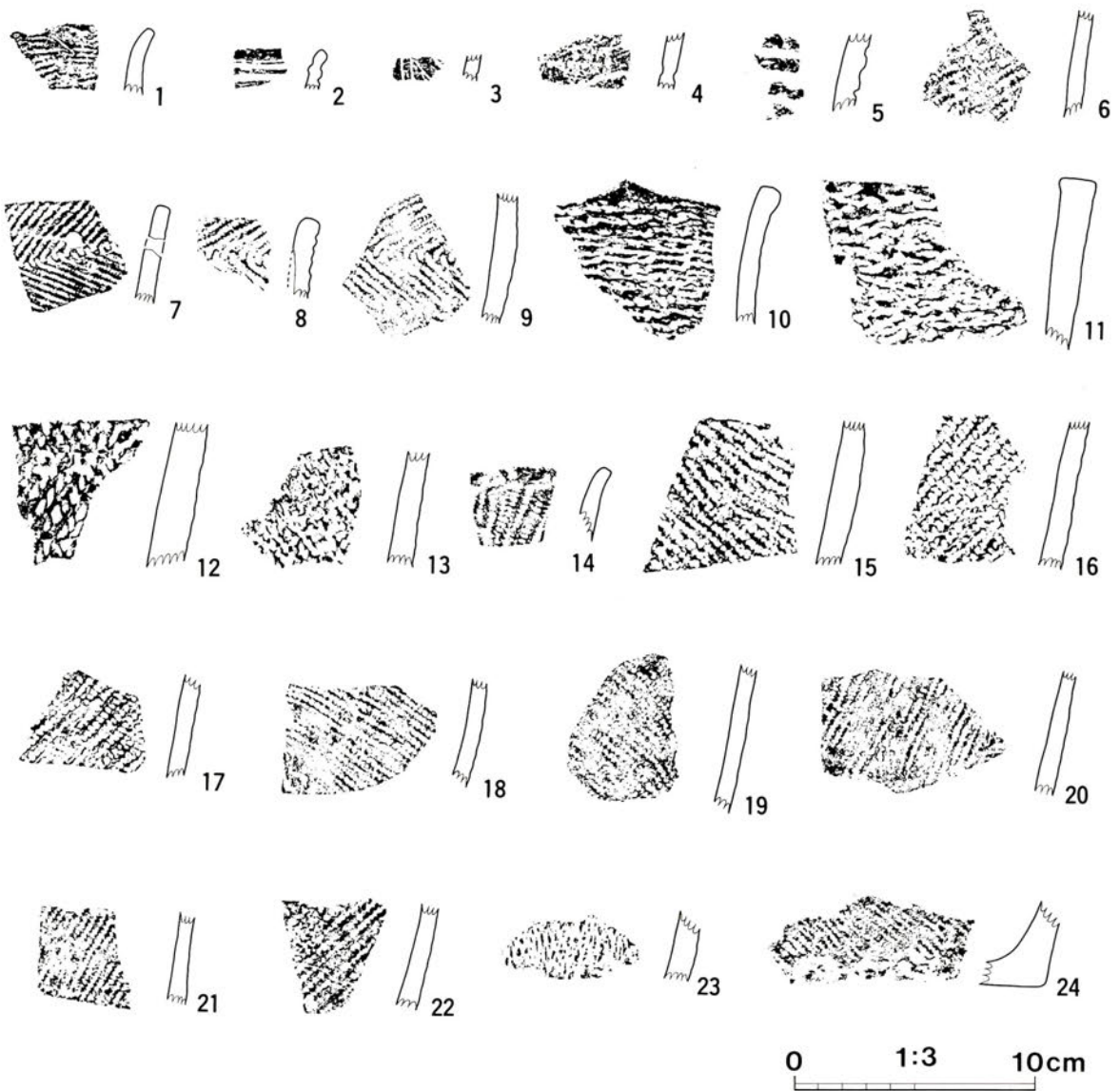
第10図 麦生VI遺跡表採遺物(2)



()は欠損品の現存値

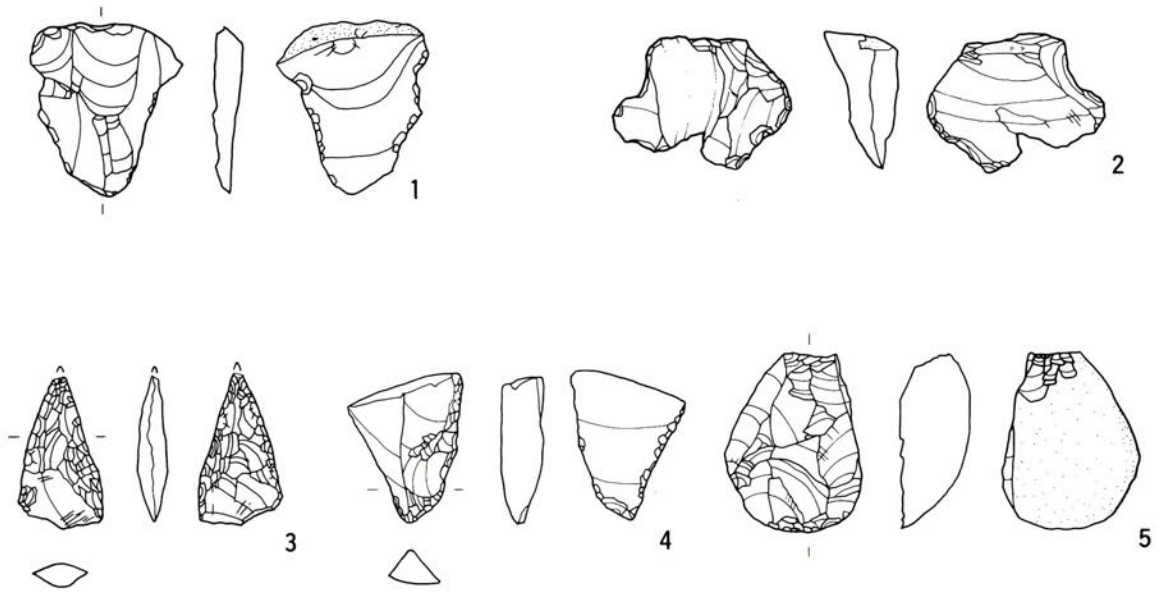
番号	遺跡名	器種	形態	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量、単位g	石質	備考
1	麦生VI遺跡	石 鏃	平基有茎	2.4、1.5、0.5	1.1	硬質頁岩	
2	麦生VI遺跡	石 鏃	凸基有茎	(1.7)、1.5、0.4	(0.6)	硬質頁岩	
3	麦生VI遺跡	石 鏃	凸基有茎	(3.0)、1.1、0.5	(1.1)	硬質頁岩	
4	麦生VI遺跡	石 鏃	凹基無茎	2.3、1.7、0.4	1.1	硬質頁岩	
5	麦生VI遺跡	スクレイパー		2.4、2.8、0.5	3.1	硬質頁岩	
6	麦生VI遺跡	スクレイパー		1.6、2.2、0.4	1.5	硬質頁岩	
7	麦生VI遺跡	スクレイパー		6.5、8.5、1.8	40.0	頁岩	
8	麦生VI遺跡	磨製石斧		(5.6)、(4.1)、(2.2)	(85.2)	玄武岩	
9	麦生VI遺跡	磨製石斧		(12.9)、(4.8)、2.8	(184.9)	流紋岩	
10	麦生VI遺跡	磨石		6.4、9.8、4.1	426.7	花崗閃緑岩	

第11図 麦生VI遺跡表採遺物 (3)

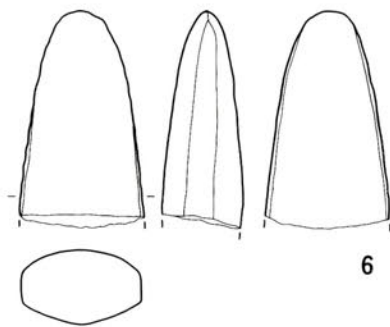


番号	遺跡名	器種	文 様	備 考
1	麦生Ⅱ遺跡	深鉢	L R 単節	
2	麦生Ⅱ遺跡	鉢	平行沈線文	
3	麦生Ⅱ遺跡	深鉢	平行沈線文	
4	麦生Ⅱ遺跡	深鉢	沈線文	
5	麦生Ⅱ遺跡	深鉢	平行沈線文	
6	麦生Ⅱ遺跡	深鉢	R L 単節	
7	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	結束羽状縄文、補修孔	繊維含
8	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	結束羽状縄文、補修孔	繊維含
9	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	結束羽状縄文、補修孔	繊維含
10	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	波状口縁、結絡文	繊維含
11	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	波状口縁、結絡文	繊維含
12	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	撚糸文	
13	麦生Ⅲ遺跡	深鉢		
14	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	R L 単節	
15	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	L R 単節	繊維含
16	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	R L 単節 R L 単節	繊維含
17	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	L R 単節	
18	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	R L 単節	
19	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	R L 単節	
20	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	R L 単節	
21	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	R L 単節	
22	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	R L 単節	
23	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	撚糸文	繊維含
24	麦生Ⅲ遺跡	深鉢	L R 単節	

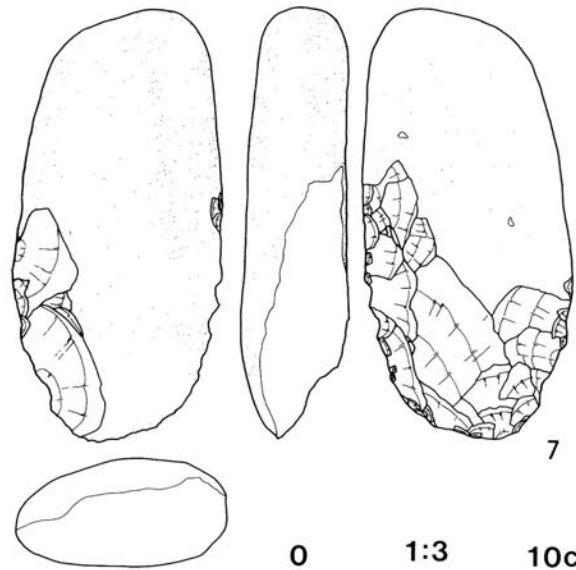
第12図 麦生Ⅱ・Ⅲ遺跡表採遺物(1)



0 2:3 5cm



6



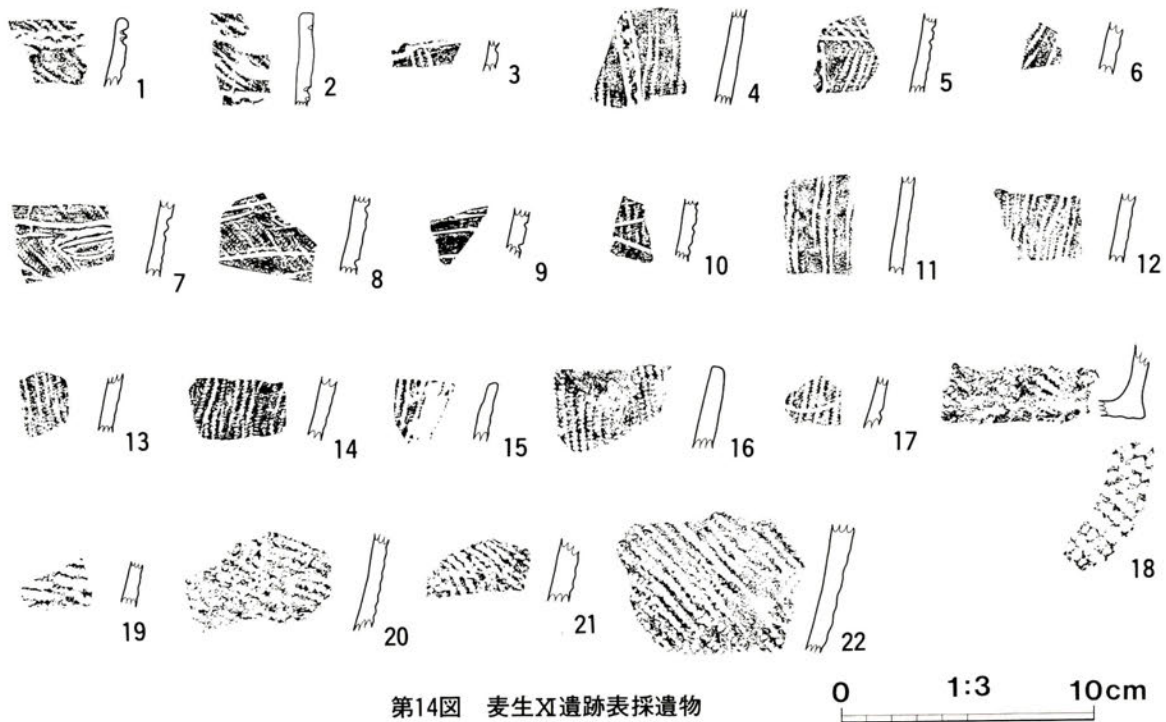
7

0 1:3 10cm

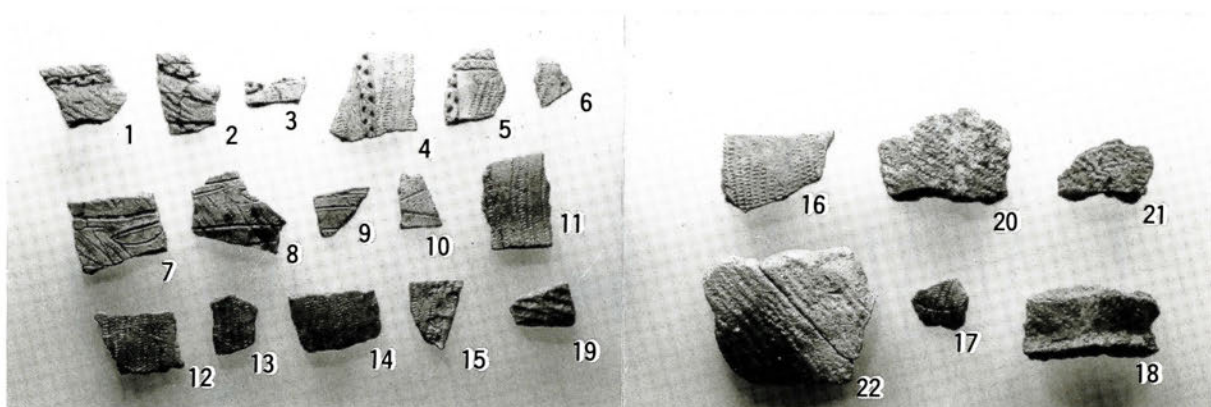
()は欠損品の現存値

番号	遺跡名	器種	形態	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量、単位g	石質	備考
1	麦生K遺跡	フレイク	使用痕有	3.4、3.0、0.5	5.5	硬質頁岩	
2	麦生K遺跡	フレイク		2.7、3.6、1.4	8.2	硬質頁岩	
3	麦生X遺跡	石 鏃	凸基無茎	(3.0)、1.7、0.6	(2.0)	硬質頁岩	
4	麦生X遺跡	フレイク	使用痕有	3.0、2.2、0.8	4.4	頁 岩	
5	麦生X遺跡	コア		3.5、2.7、1.4	10.6	硬質頁岩	
6	麦生K遺跡	磨製石斧		(8.6)、(5.0)、(3.2)	(193.3)	花崗閃緑岩	
7	麦生K遺跡	礫 器		17.1、8.4、4.3	900.9	硬 砂 岩	

第13図 麦生区・X遺跡表採遺物(2)

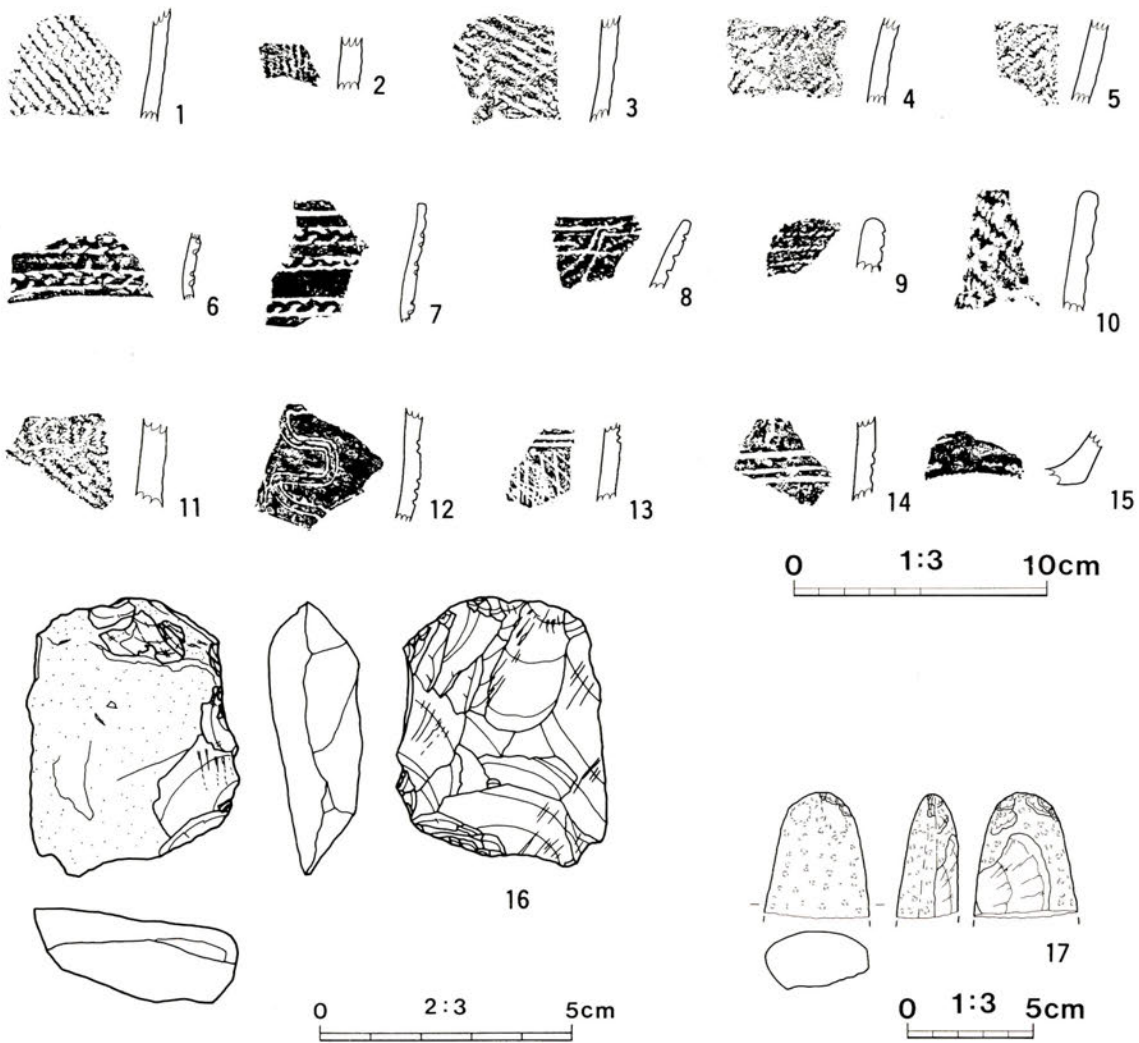


第14図 麦生XI遺跡表採遺物



第3図版 麦生XI遺跡表採遺物

番号	遺跡名	器種	文 様	備 考
1	麦生XI遺跡	深鉢	口唇上縄文、平行沈線文、交互刺突文、RL単節	
2	麦生XI遺跡	深鉢	口唇上縄文、平行沈線文、交互刺突文、RL単節	
3	麦生XI遺跡	深鉢	平行沈線文、交互刺突文、RL単節	
4	麦生XI遺跡	深鉢	平行沈線文、交互刺突文、RL単節	
5	麦生XI遺跡	深鉢	平行沈線文、交互刺突文、RL単節	
6	麦生XI遺跡	深鉢	平行沈線文、交互刺突文、RL単節	
7	麦生XI遺跡	深鉢	沈線文、RL単節	
8	麦生XI遺跡	深鉢	沈線文、RL単節	
9	麦生XI遺跡	深鉢	平行沈線文	
10	麦生XI遺跡	深鉢	沈線文、RL単節	
11	麦生XI遺跡	深鉢	RL単節	
12	麦生XI遺跡	深鉢	RL単節	
13	麦生XI遺跡	深鉢	RL単節	
14	麦生XI遺跡	深鉢	RL単節	
15	麦生XI遺跡	深鉢	RL単節	
16	麦生XI遺跡	深鉢	RL単節	
17	麦生XI遺跡	深鉢	沈線文、RL単節	
18	麦生XI遺跡	深鉢	底部網代痕、RL単節	
19	麦生XI遺跡	深鉢	LR単節	
20	麦生XI遺跡	深鉢	LR単節	
21	麦生XI遺跡	深鉢	LR単節	
22	麦生XI遺跡	深鉢	LR単節	

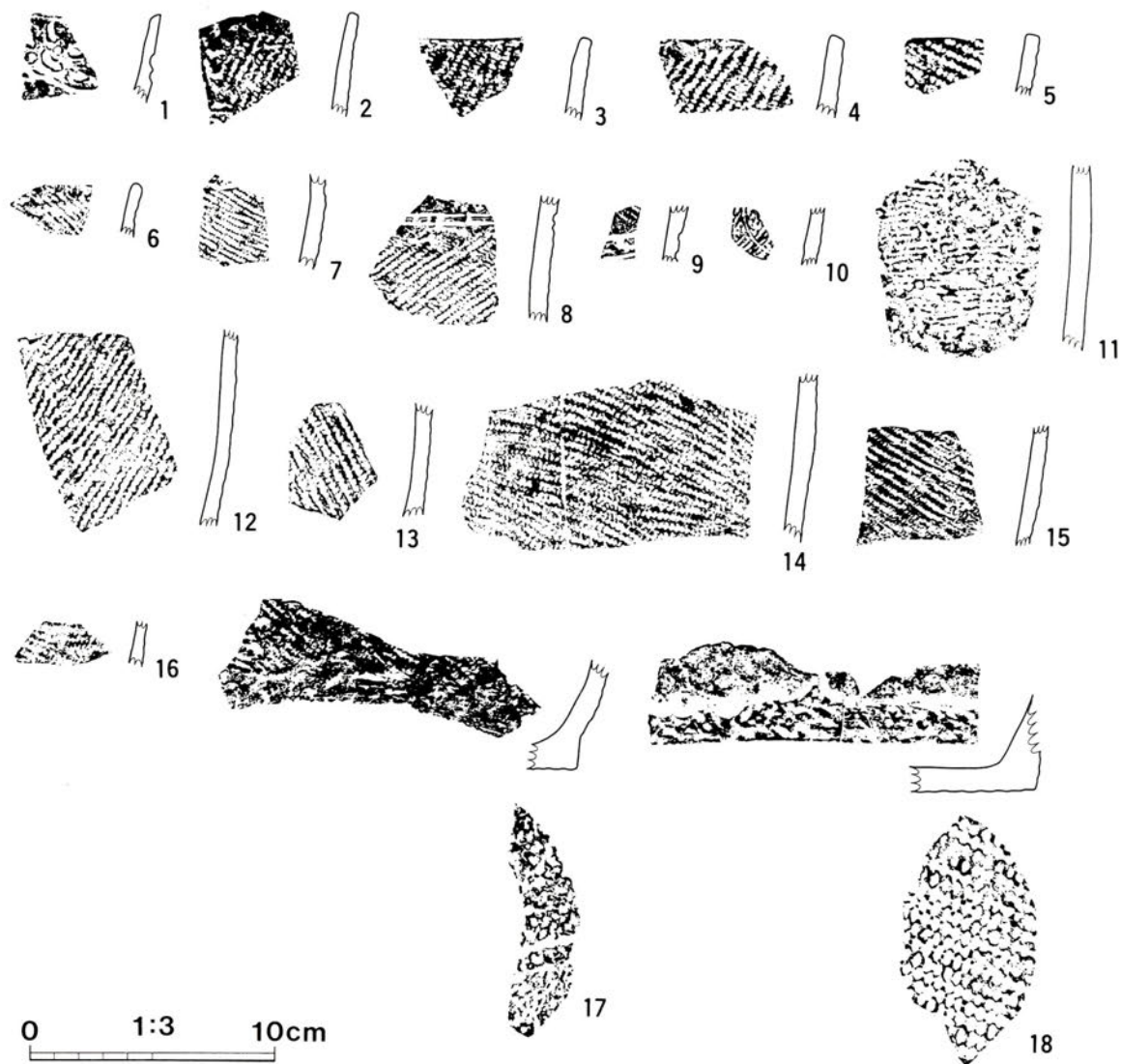


番号	遺跡名	器種	文様	備考
1	麦生XV遺跡	深鉢	R L単節	繊維含
2	麦生XV遺跡	深鉢	L R単節	
3	麦生XV遺跡	深鉢	L無節	
4	麦生XV遺跡	深鉢	R L単節	
5	麦生XV遺跡	深鉢	R L単節	
6	麦生XI遺跡	深鉢	平行沈線文、交互刺突文	
7	麦生XI遺跡	深鉢	平行沈線文、交互刺突文、口唇上縄文	
8	麦生XI遺跡	深鉢	沈線文	
9	麦生XI遺跡	深鉢	原体圧痕文	
10	麦生XI遺跡	深鉢	R L単節、縄先端刺突	繊維含
11	麦生XI遺跡	深鉢	R L単節、羽状縄文	繊維含
12	麦生XI遺跡	深鉢	沈線文	
13	麦生XI遺跡	深鉢	沈線文、網目状捺糸文	
14	麦生XI遺跡	深鉢	平行沈線文	
15	麦生XI遺跡	深鉢	無文	

()は欠損品の現存値

番号	遺跡名	器種	形態	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量、単位g	石質	備考
16	麦生XI遺跡	コテ		5.5、4.2、1.8	40.1	頁岩	
17	麦生XI遺跡	打製石斧		(5.0)、(4.2)、(2.5)	(60.7)	花崗閃緑岩	

第15図 麦生XM・XV・XI遺跡表採遺物



番号	遺跡名	器種	文様	備考
1	麦生XX遺跡	深鉢	爪形刺突文、沈線文	
2	麦生XX遺跡	深鉢	LR単節	
3	麦生XX遺跡	深鉢	RL単節	
4	麦生XX遺跡	深鉢	RL単節	
5	麦生XX遺跡	深鉢	LR単節	
6	麦生XX遺跡	深鉢	LR単節	
7	麦生XX遺跡	深鉢	RL単節	
8	麦生XX遺跡	深鉢	押し引き沈線文、RL単節	
9	麦生XX遺跡	深鉢	平行沈線文、刺突文	
10	麦生XX遺跡	深鉢	沈線文、L無節	
11	麦生XX遺跡	深鉢	沈線文、L無節	
12	麦生XX遺跡	深鉢	RL単節	
13	麦生XX遺跡	深鉢	RL単節	
14	麦生XX遺跡	深鉢	LR単節	
15	麦生XX遺跡	深鉢	LR単節	
16	麦生XX遺跡	深鉢	LR単節	
17	麦生XX遺跡	深鉢	LR単節、底部網代痕	
18	麦生XX遺跡	深鉢	縄文、底部網代痕	

第16図 麦生XX遺跡表採遺物

林道法面に縄文時代を主体とした遺物の散布が認められる。

麦生XXI遺跡は、麦生地区集落より北西方向約500mに位置する。標高約130～140mで麦生遺跡群より一段高い侍浜段丘面（標高130～150m）に立地する。西側及び東側に沢が流れており、沢によって開析され南に張り出した地形を呈する。張り出し部上面はほぼ平坦である。本地区は麦生小中学校建設用地の候補地となり、それまでは遺跡台帳に登録されていない箇所であった。現況は山林で、遺物の表採は不可能であったが、地形等から遺跡が存在する可能性があったため、遺跡の有無を確認するため3箇所のグリッドを設定し、試掘調査を実施した。調査の結果、縄文時代晩期の竪穴住居跡が検出され、遺跡の存在が確認された。試掘結果の詳細については後述する。

麦生地区の南東部の張り出し先端部に巖島神社が祀られており、さらにその南東方向には牛島がある。北西から南東にやや長い島で、以前は、巖島神社より下り、牛島に通じる歩道があり渡ることが可能であったが、現在は歩道が整備されていないため渡ることが不可能である。巖島神社に通じる参道から両側に、崖線に沿って山林を踏み分けて行くと、土塁状の遺構が存在していることを確認できる。八戸市立図書館に所蔵されている麦生地区の藩政時代の古絵図（第18図）から藩政時代の砲台場跡と思われ、麦生XXII・麦生XXIII遺跡として取り扱うこととした。

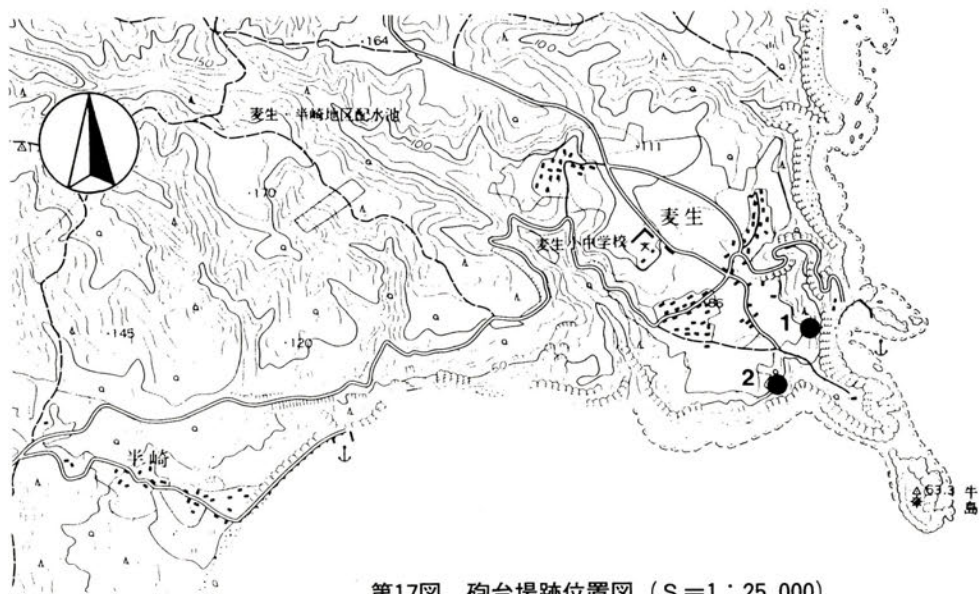
麦生XXII遺跡砲台場跡は西から東に下る緩傾斜面に立地する。断崖線に沿って南北方向にやや長い長方形を呈し、南西コーナー部は途切れている。規模は、東西9m、南北10mを測る。土塁は幅1.7～2.5m、高さ0.4～0.9mを測る。海岸に向かって土塁は、高さ0.8mを測り、しっかりと造られているが、二箇所においては途切れており、その部分は砲身を置いたものと思われる。土塁によって囲まれた中央部は高く盛り上げられており、土塁と中央部の盛り上がりの間は深く溝状に掘られている。砲台場跡と断崖線の間径2.7m、埋没しているものと思われるが深さ0.6mを測る円形の穴跡があるが、狼煙穴跡と推定される。また、そのすぐ北側に径1.3m、深さは現状で約0.5mを測る円形の穴跡が認められるが機能は不明である。

麦生XXIII遺跡砲台場跡は西から東に下る緩傾斜面に立地し、断崖線付近はやや高まる。断崖線に沿って北東から南西方向に長い長方形を呈する。規模は、北東～南西38m、北西～南東23mを測る。土塁は幅2.5～5.0m、高さ0.2～1.2mを測る。砲台場跡を縦断するように現在小径が通っており、北東及び南西の土塁が壊されたものと思われ途切れている。海岸に向かって南東の土塁はほぼ中央部が途切れており、砲身を置いたものと推定される。北西側の土塁は高さ0.2mでさほど高くなく中央部は途切れている。西コーナー部付近には土塁は認められず、掘り込まれた状況である。

また、本遺構の南西方向約40mにも長さ15mの土塁状の遺構が認められるが、砲台場跡と関連するものであるかは不明である。さらにそれより南西方向約10mの崖線がやや突出した箇所に径3.7m、深さは現状で0.7mを測る円形の穴跡があり狼煙穴跡と推定される。

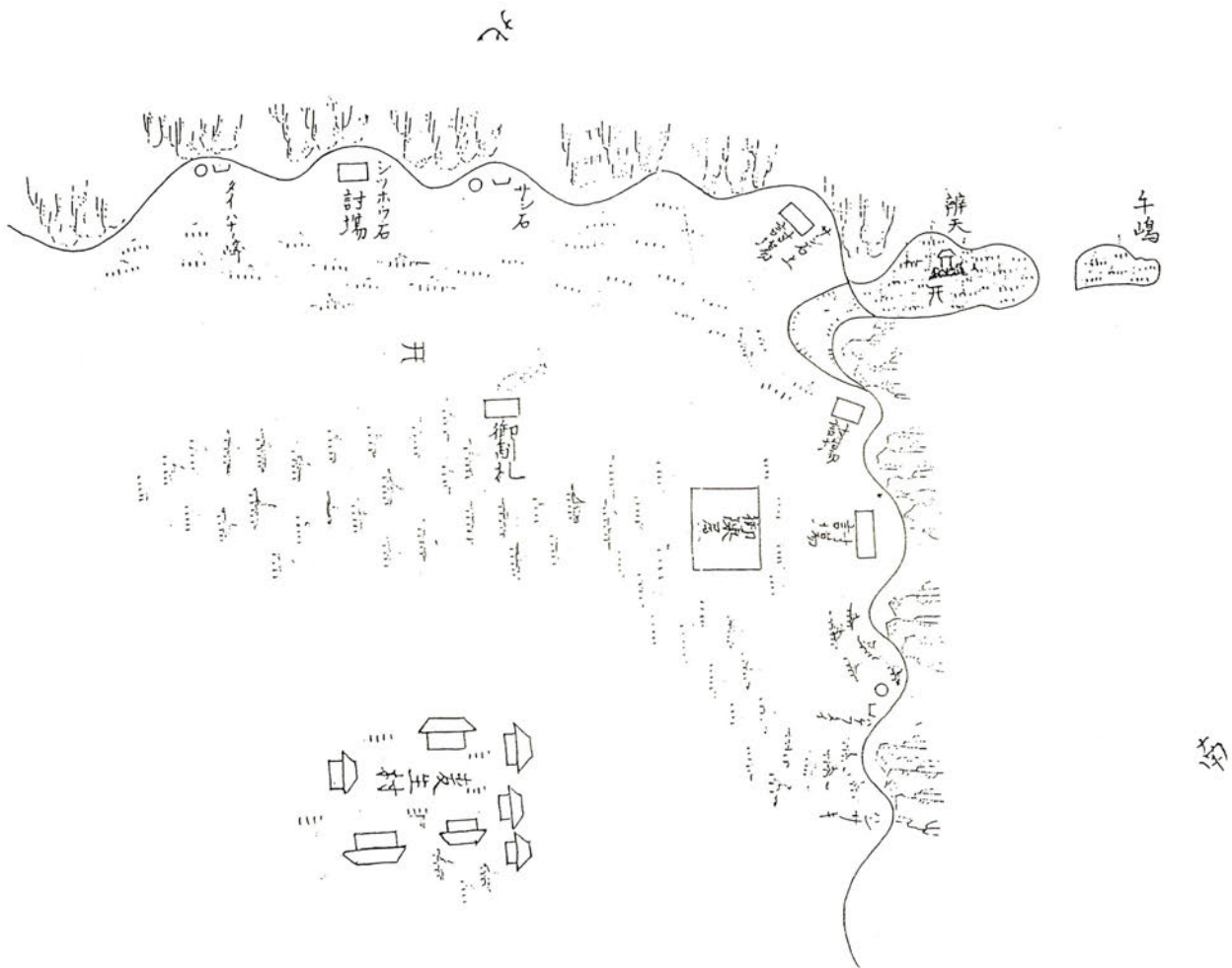
参考文献

佐々木和久・面代民義「麦生III遺跡出土の土偶」『九戸文化』第2号 九戸郷土研究会 1985年

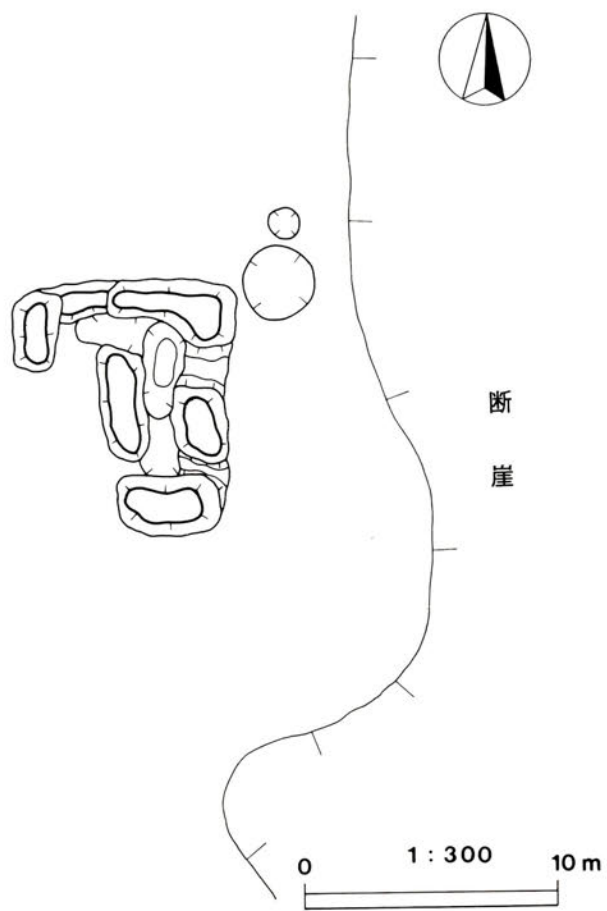


第17図 砲台場跡位置図 (S=1:25,000)

1. 麦生XXII遺跡、2. 麦生XXIII遺跡



第18図 麦生地区古絵図 (八戸市立図書館所蔵)



第19図 麦生XXII遺跡砲台場跡平面図

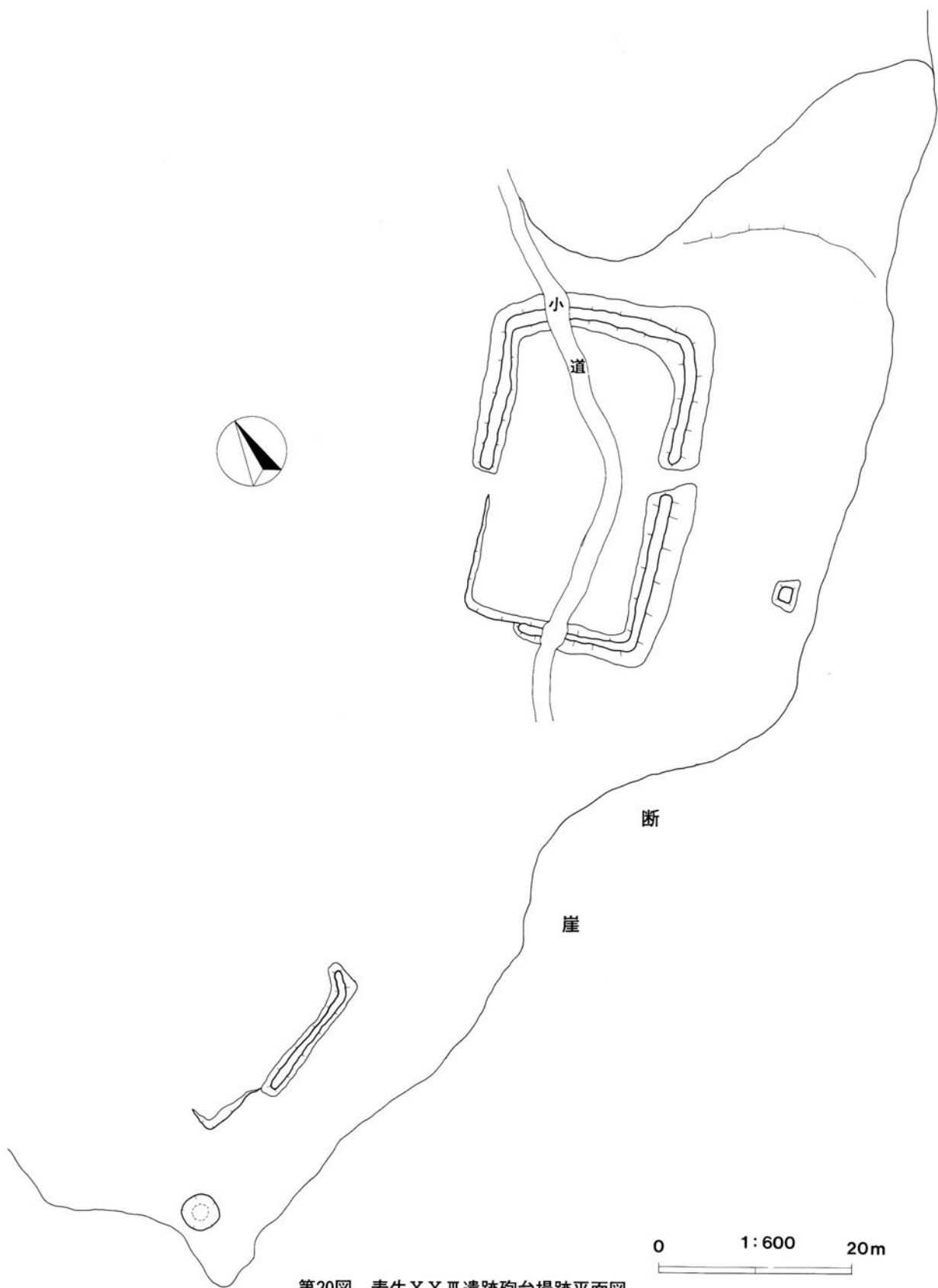


麦生XXII遺跡砲台場跡(北より)写真左方向が海岸



麦生XXII遺跡砲台場跡(北西より)写真奥が海岸

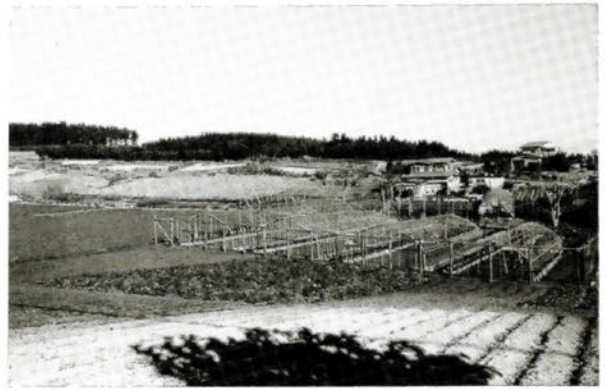
第4図版 麦生XXII・XXIII遺跡砲台場跡



第20图 麦生XXIII遺跡砲台場跡平面図



麦生Ⅲ遺跡付近近景（南西より）



同 左



麦生Ⅱ・Ⅲ遺跡付近近景（北より）



麦生Ⅴ遺跡近景（西より）



麦生Ⅵ遺跡近景（東より）



麦生Ⅵ遺跡遺物散布状況（西より）



麦生Ⅷ遺跡近景（北西より）



麦生Ⅷ遺跡近景（西より）

3. 滝合地区

滝合地区は、平成元年度の分布調査範囲の中では、高位海岸段丘である九戸段丘（標高150～220m）に相当する。大小の河川によって開析され、複雑で急峻な地形を呈している。ほとんどが山林となっているが傾斜の緩やかな張り出した地形及び、尾根状の地形を呈する箇所において遺跡の存在が認められる。

なお、本地区は侍浜町と夏井町の境界に相当し、本来は侍浜町本波地区あるいは夏井町田中地区・半崎地区に含まれるべき地区であるが、各地区の厳密な境界が判然としないため、過去にこの地区を発掘調査した際に滝合遺跡と命名したことから、そのまま滝合地区として取り扱うこととした。

滝合Ⅰ遺跡は、昭和62年度に、国家石油備蓄基地建設工事に係る火薬庫建設に伴い久慈市教育委員会が発掘調査を実施しており、竪穴住居跡1棟（縄文時代前期）、竪穴状遺構1基（縄文時代前期）、陥し穴状遺構3基（縄文時代）、土壇1基（時期不明）が検出されている。

（第22図参照）

滝合Ⅱ遺跡は、滝合Ⅰ遺跡の南方に位置し、滝合Ⅰ遺跡とは標高差が10mあり、さらに南には沢が流れ、谷地的な地形に立地しているため、滝合Ⅰ遺跡とは区別した。縄文時代前期に属する遺跡である。

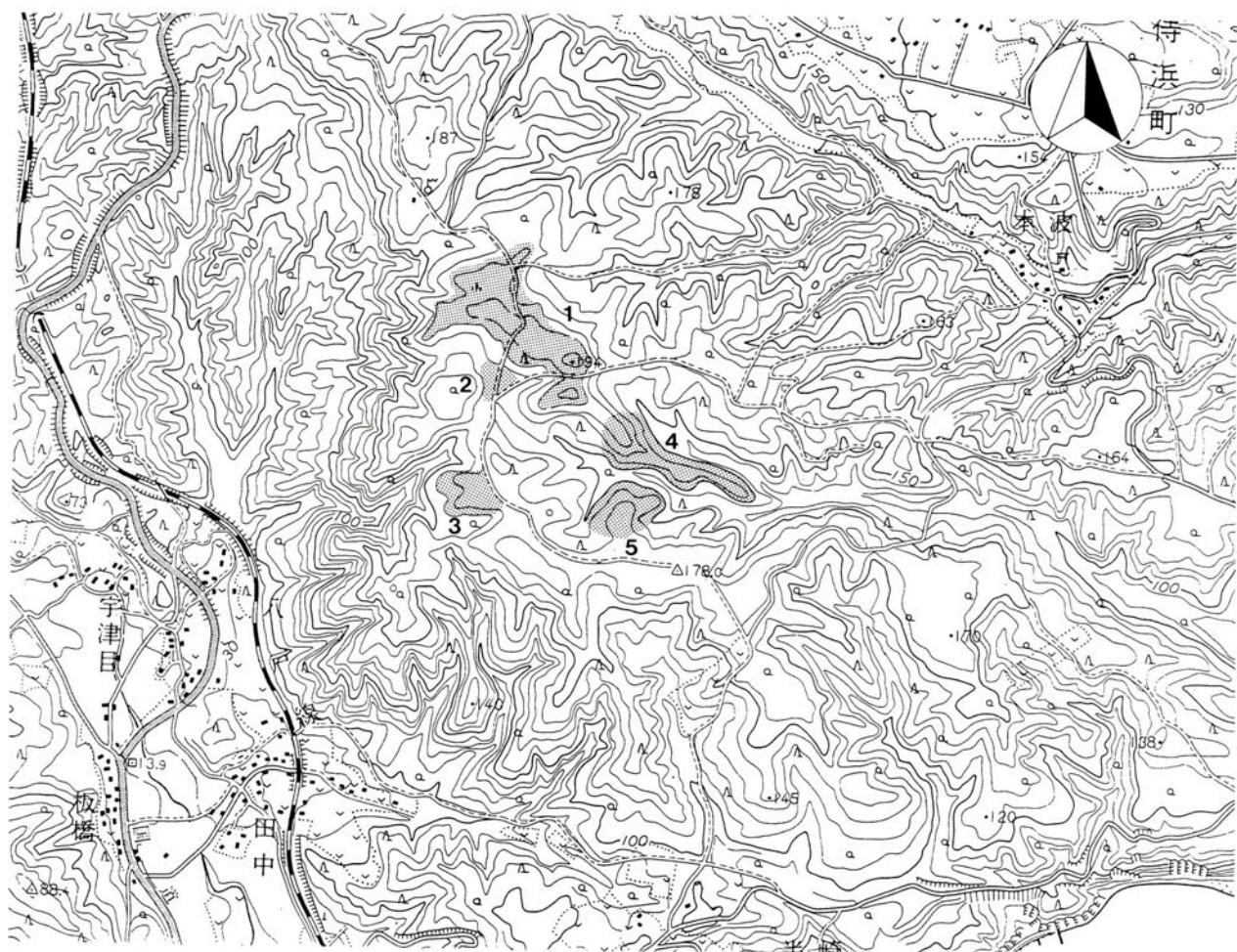
滝合Ⅲ遺跡は、西側に張り出した、東から西へ下る緩傾斜面に位置する。

滝合Ⅳ遺跡は、南側及び北側を沢によって開析され、西から東へ延びる尾根状を呈する地形に立地する。現況は山林であり、尾根に沿って林道が設けられ表土が若干削土されており、その林道に遺物が散布している。

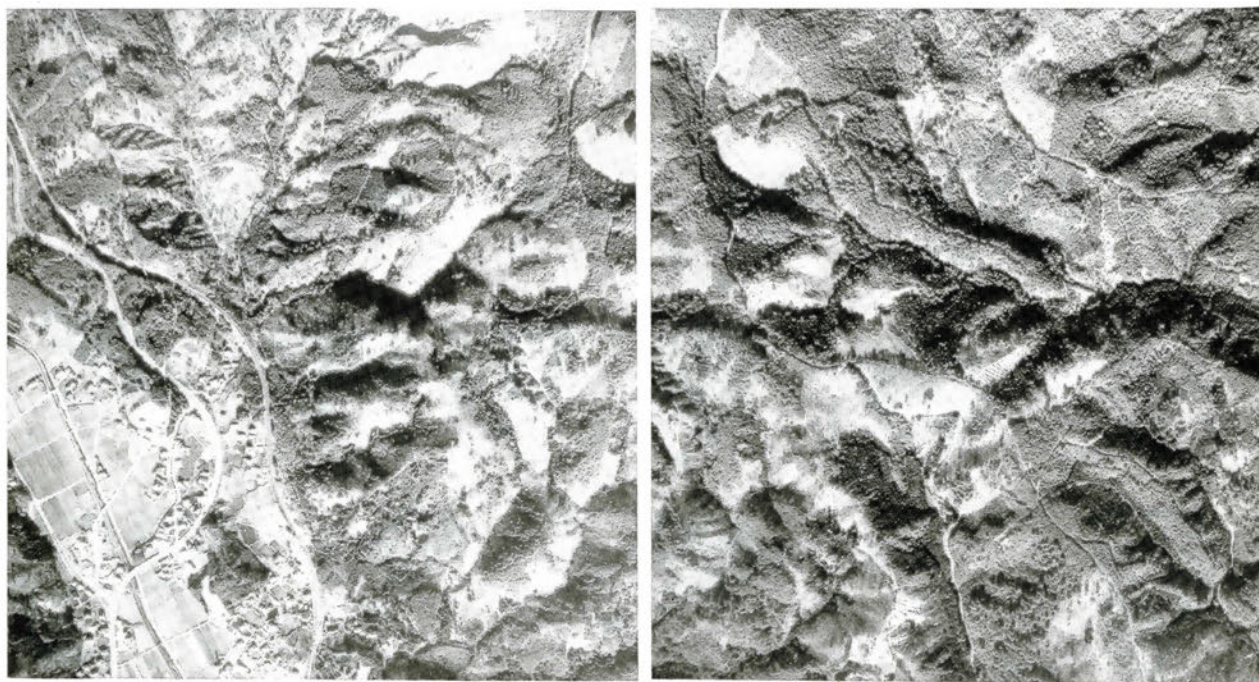
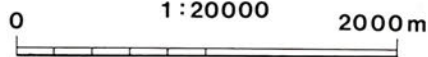
滝合Ⅴ遺跡は、滝合Ⅳ遺跡と沢を挟んで南側に位置し、南から北へ張り出した地形に立地する。北側には沢が認められ、張り出しの裾部の沢近くに遺物が散布している。張り出し中央部は松が植栽されて、遺物の表採は不可能であるが、遺跡の範囲として捉えられる。

本地区はほとんど全面が山林であり、踏査のみでは遺跡の所在を確認することが不可能な地区であり、さらに多くの遺跡が存在するものと思われる。

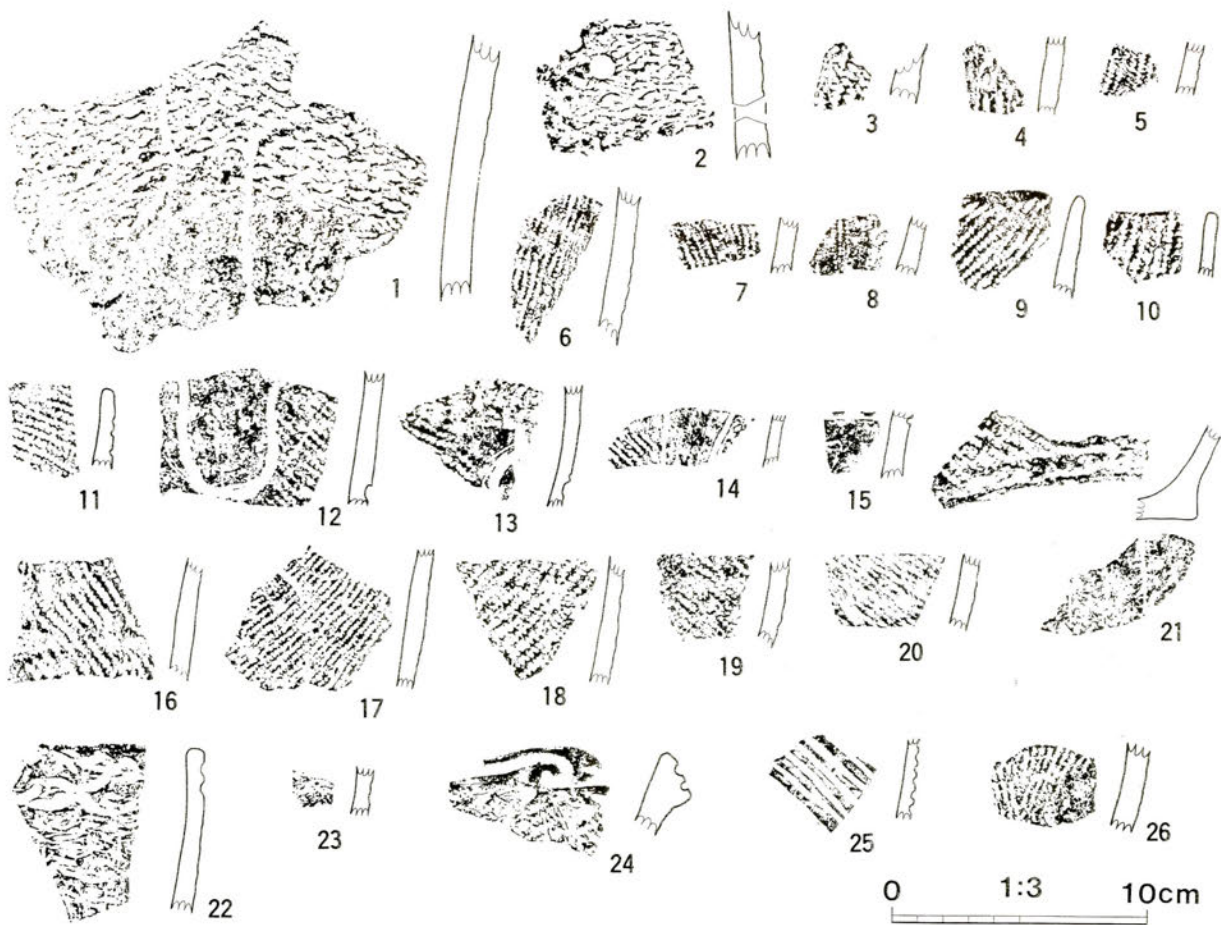
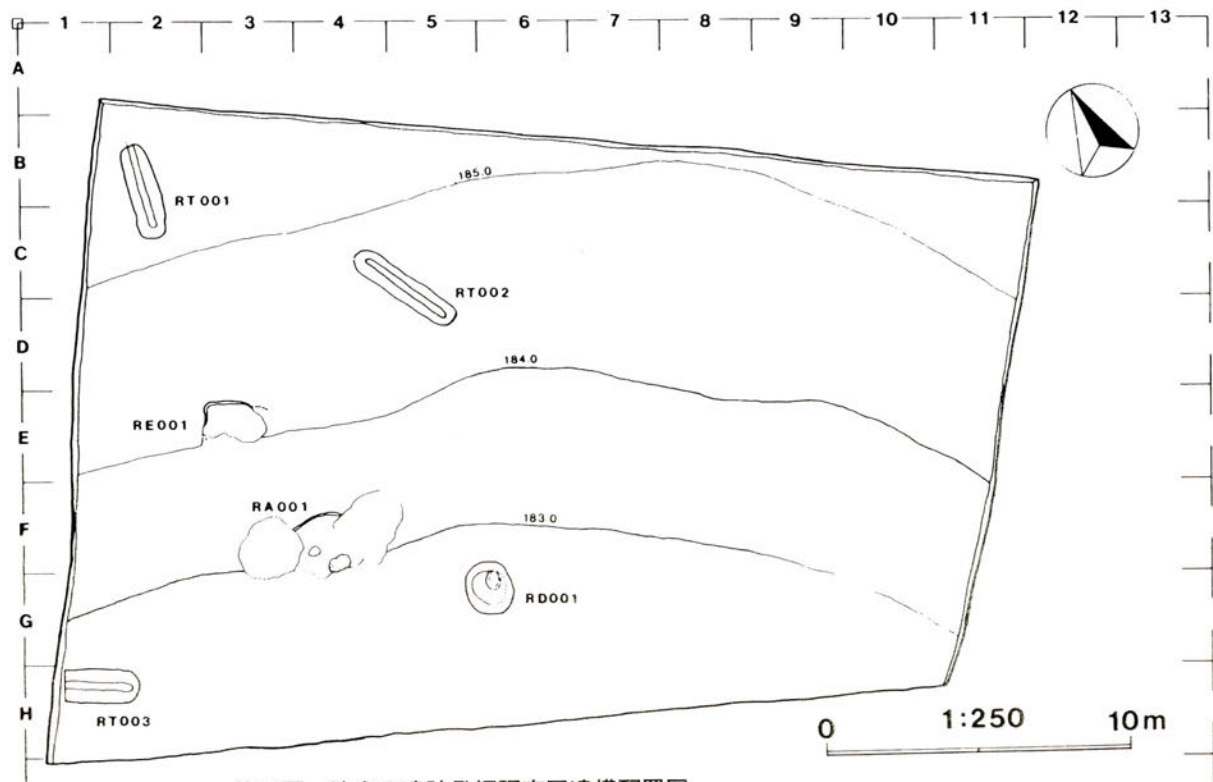
番号	遺跡名	県遺跡コード	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	滝合Ⅰ遺跡	J G10.0189	散布地	縄文前期初、陥し穴状遺構	侍浜町本波	昭和62年度発掘調査
2	滝合Ⅱ遺跡	J G10.1200	散布地	縄文土器（前期）	侍浜町本波	新発見
3	滝合Ⅲ遺跡	J G10.1139	散布地	縄文土器（前期）	侍浜町本波	新発見
4	滝合Ⅳ遺跡	J G10.1214	散布地	縄文土器（後期）	侍浜町本波	新発見
5	滝合Ⅴ遺跡	J G10.1234	散布地	縄文土器	侍浜町本波	新発見

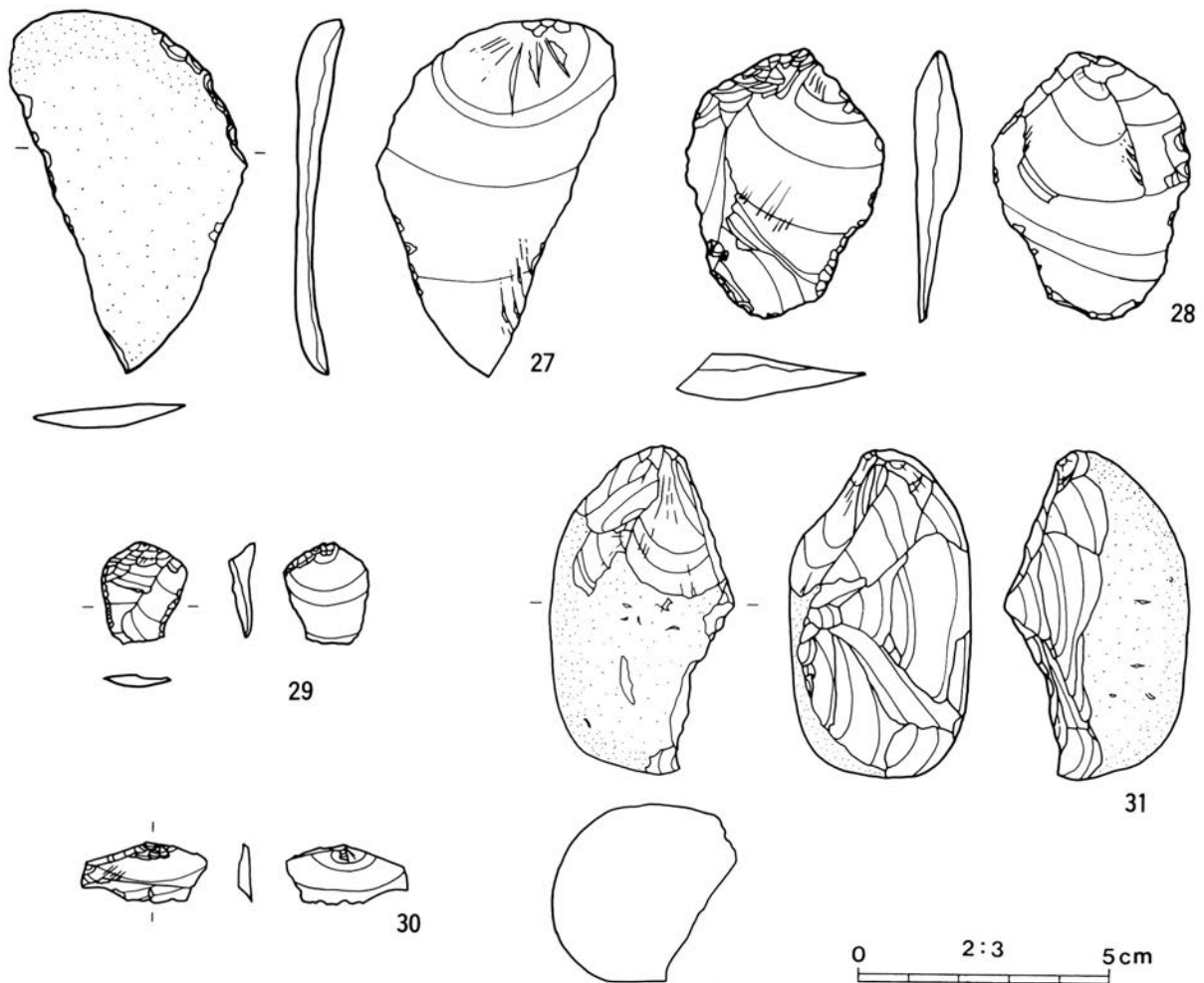


第21図 滝合地区遺跡分布図



第6図版 滝合地区航空写真





番号	遺跡名	器種	文 様	備 考
1	滝合Ⅱ遺跡	深鉢	綾絡文	繊維含
2	滝合Ⅱ遺跡	深鉢	綾絡文、補修孔	繊維含
3	滝合Ⅱ遺跡	深鉢	L R単節	
4	滝合Ⅱ遺跡	深鉢	網目状燃糸文	
5	滝合Ⅱ遺跡	深鉢	L R単節	
6	滝合Ⅲ遺跡	深鉢	R L単節	
7	滝合Ⅲ遺跡	深鉢	R L単節	繊維含
8	滝合Ⅲ遺跡	深鉢	R L単節	繊維含
9	滝合Ⅳ遺跡	深鉢	L R単節	
10	滝合Ⅳ遺跡	深鉢	R L単節	
11	滝合Ⅳ遺跡	深鉢	L R単節	
12	滝合Ⅳ遺跡	深鉢	沈線文、L R単節	
13	滝合Ⅳ遺跡	深鉢	沈線文、L R単節	
14	滝合Ⅳ遺跡	深鉢	沈線文、L R単節	
15	滝合Ⅳ遺跡	深鉢	沈線文	
16	滝合Ⅳ遺跡	深鉢	L R単節	
17	滝合Ⅳ遺跡	深鉢	R L単節	
18	滝合Ⅳ遺跡	深鉢	R L単節	
19	滝合Ⅳ遺跡	深鉢	L R単節	
20	滝合Ⅳ遺跡	深鉢	L無節	
21	滝合Ⅳ遺跡	深鉢	底部木葉痕、L R単節	
22	滝合Ⅴ遺跡	深鉢	不整沈文	
23	滝合Ⅴ遺跡	深鉢	原体圧痕文	
24	滝合Ⅴ遺跡	深鉢	沈線文、R L単節	
25	滝合Ⅴ遺跡	深鉢	沈線文	繊維含
26	滝合Ⅴ遺跡	深鉢	L R単節	繊維含

()は欠損品の現存値

番号	遺跡名	器種	形 態	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量、単位g	石 質	備 考
27	滝合Ⅱ遺跡	フレイク		7.2、4.7、0.9	10.8	硬質頁岩	
28	滝合Ⅳ遺跡	フレイク	使用痕有	5.4、3.9、0.9	10.4	硬質頁岩	
29	滝合Ⅴ遺跡	フレイク	使用痕有	2.0、1.7、0.5	1.0	硬質頁岩	
30	滝合Ⅴ遺跡	フレイク		1.2、2.5、0.3	0.6	黒曜石	
31	滝合Ⅴ遺跡	コ ア		6.6、3.7、3.6	96.9	硬質頁岩	

第24図 滝合Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ遺跡表採遺物

4. 半崎地区

半崎地区は、南東に久慈湾を臨み、南側は久慈川河口となっており湾には一部砂浜が形成されている。海岸線は地滑り地帯となっており、年々侵食が進んでいる状況である。湾では漁業が営まれており、漁港に通じる道路近くに集落が形成されているが、近年、国家石油備蓄基地建設に伴い、港湾の埋め立てや道路建設などにより、様相が急変している地区である。

半崎漁港に通じる道路の南側は、緩やかな地形となっており、その北側に半崎遺跡群、南側に半崎南遺跡群が分布する。

半崎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡は、標高100m前後の平坦面に立地しており、遺跡の規模も大きいものと推定される。縄文時代を主体とする遺跡である。

半崎Ⅳ遺跡は、集落の形成されている傾斜地にあたり、フレイクが畑地より数点表採される。

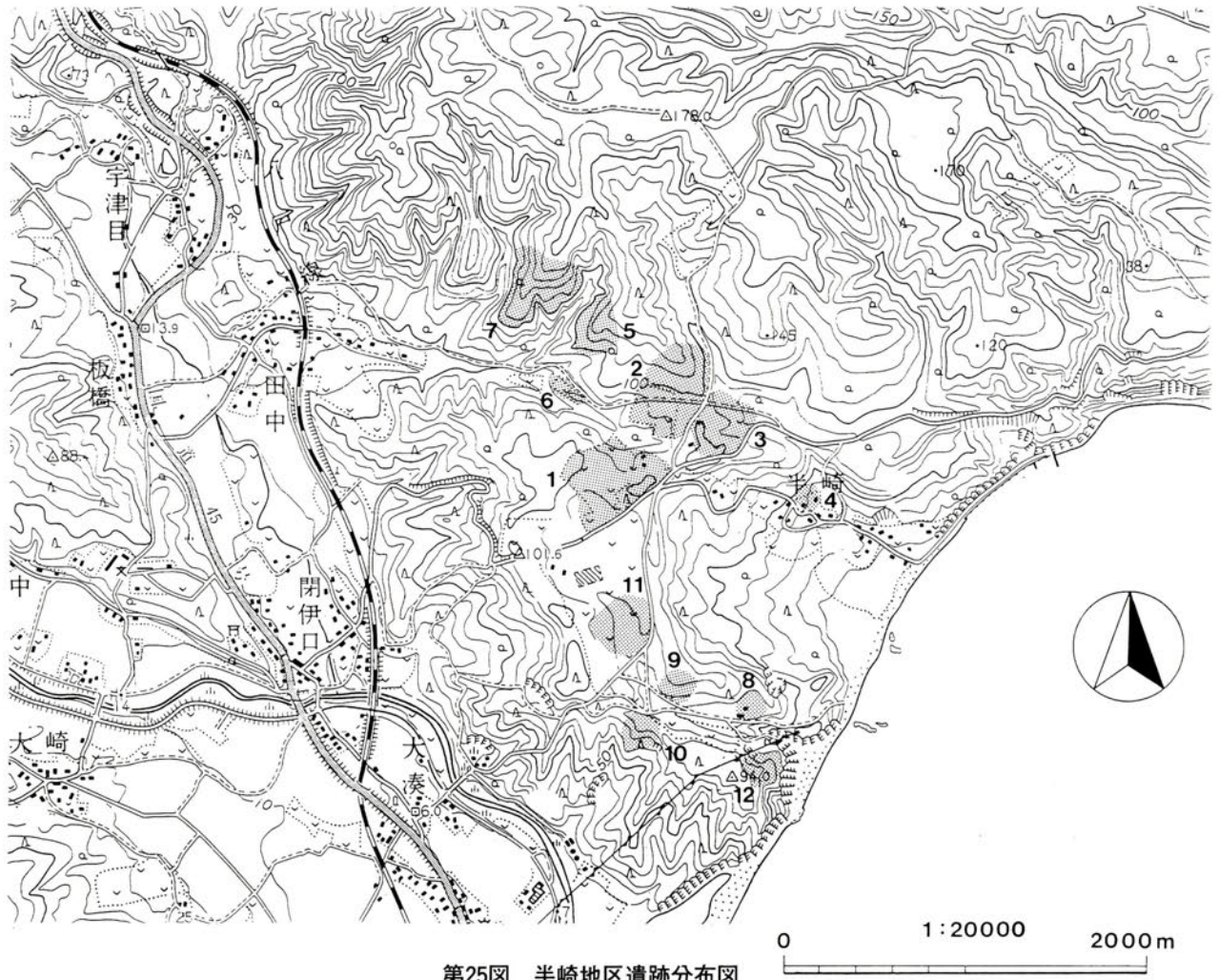
半崎Ⅴ・Ⅶ遺跡は、南へ張り出した地形にそれぞれ立地する。縄文時代を主体とする遺跡である。半崎Ⅶ遺跡は資材置場として一部造成されており、その法面カット面より遺物が出土している。

半崎Ⅵ遺跡は、南側に沢が流れる小規模な緩傾斜地に立地しているが、遺物の散布密度は濃い。縄文時代を主体とする遺物が散布している。

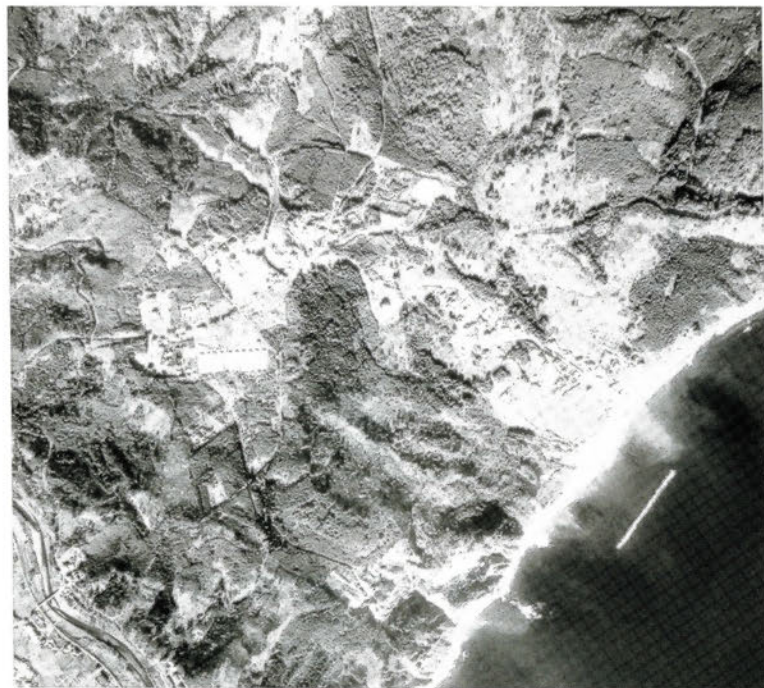
半崎南Ⅰ～Ⅳ遺跡は、現在植林がなされているため遺物の表採は不可能であるが、以前は開墾されており、縄文時代を主体とする遺物が出土していたとのことである。

半崎南Ⅴ遺跡は、現在、粘土採掘場が経営されている南側にあたる。東に張り出した西から東に下る傾斜面に立地しており、縄文時代の遺物とともに弥生式土器の散布が認められる。図面上に示した範囲は、さらに南西側に拡大する可能性がある。

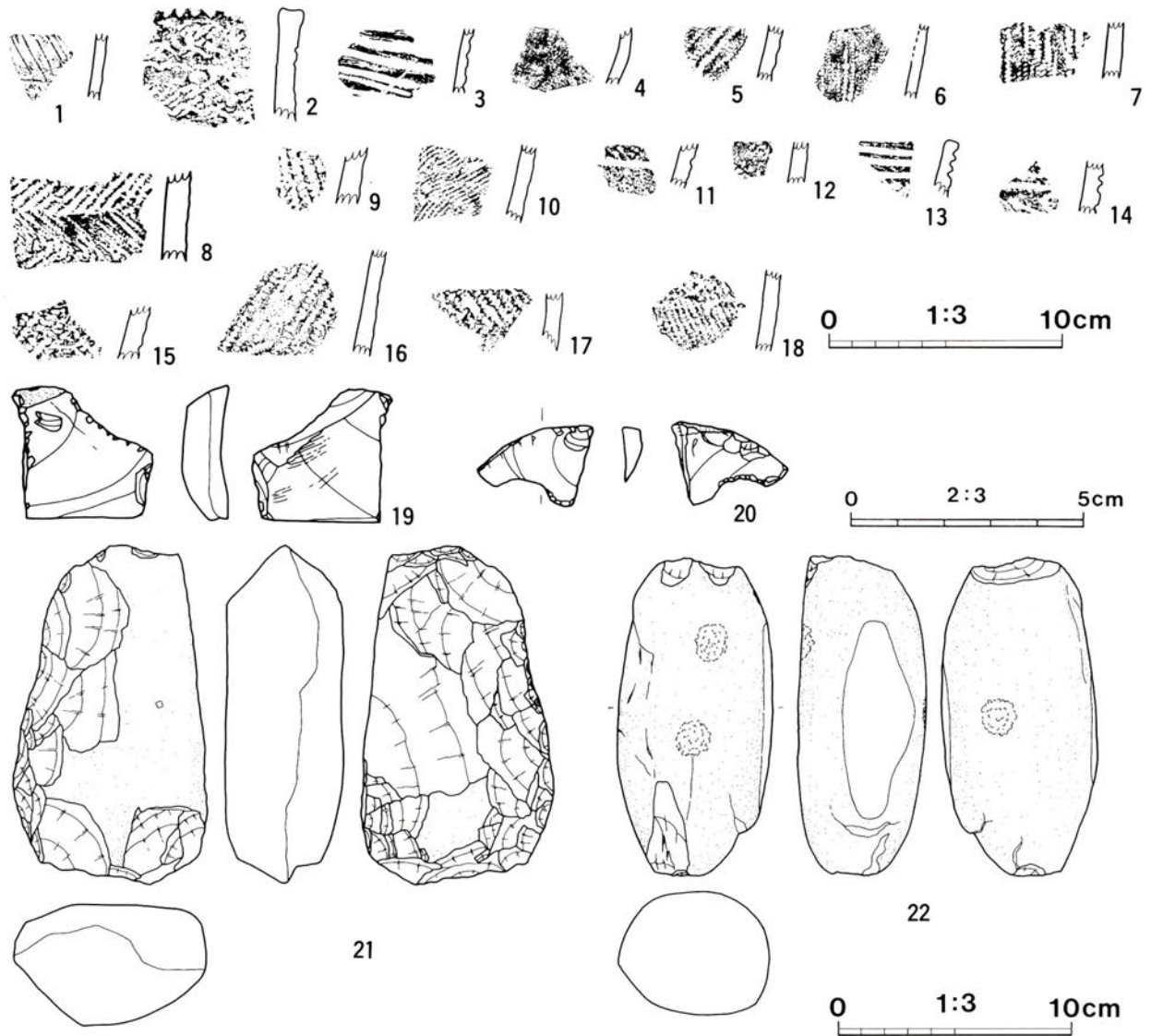
番号	遺跡名	県遺跡コード	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	半崎Ⅰ遺跡	J G 10. 2254	散布地	縄文土器(前・後期)、弥生土器	夏井町半崎	
2	半崎Ⅱ遺跡	J G 10. 2235	散布地	縄文土器(前期)	夏井町半崎	
3	半崎Ⅲ遺跡	J G 10. 2236	散布地	縄文土器(後期)	夏井町半崎	新発見
4	半崎Ⅳ遺跡	J G 10. 2259	散布地	縄文土器(前・後期)	夏井町半崎	新発見
5	半崎Ⅴ遺跡	J G 10. 2213	散布地	縄文土器	夏井町半崎	新発見
6	半崎Ⅵ遺跡	J G 10. 2222	散布地	縄文土器(前・中・後期)、弥生土器	夏井町半崎	新発見
7	半崎Ⅶ遺跡	J G 10. 1291	散布地	縄文土器(早・前・後期)	夏井町半崎	新発見
8	半崎南Ⅰ遺跡	J G 20. 0218	散布地	須恵器、縄文土器、フレイク	夏井町半崎	
9	半崎南Ⅱ遺跡	J G 20. 0206	散布地	製塩土器	夏井町半崎	
10	半崎南Ⅲ遺跡	J G 20. 0224	散布地	縄文土器(前期前半)、フレイク	夏井町半崎	
11	半崎南Ⅳ遺跡	J G 10. 2283	散布地	縄文土器	夏井町半崎	
12	半崎南Ⅴ遺跡	J G 20. 0237	散布地	弥生土器	夏井町半崎	新発見



第25図 半崎地区遺跡分布図



第7図版 半崎地区航空写真

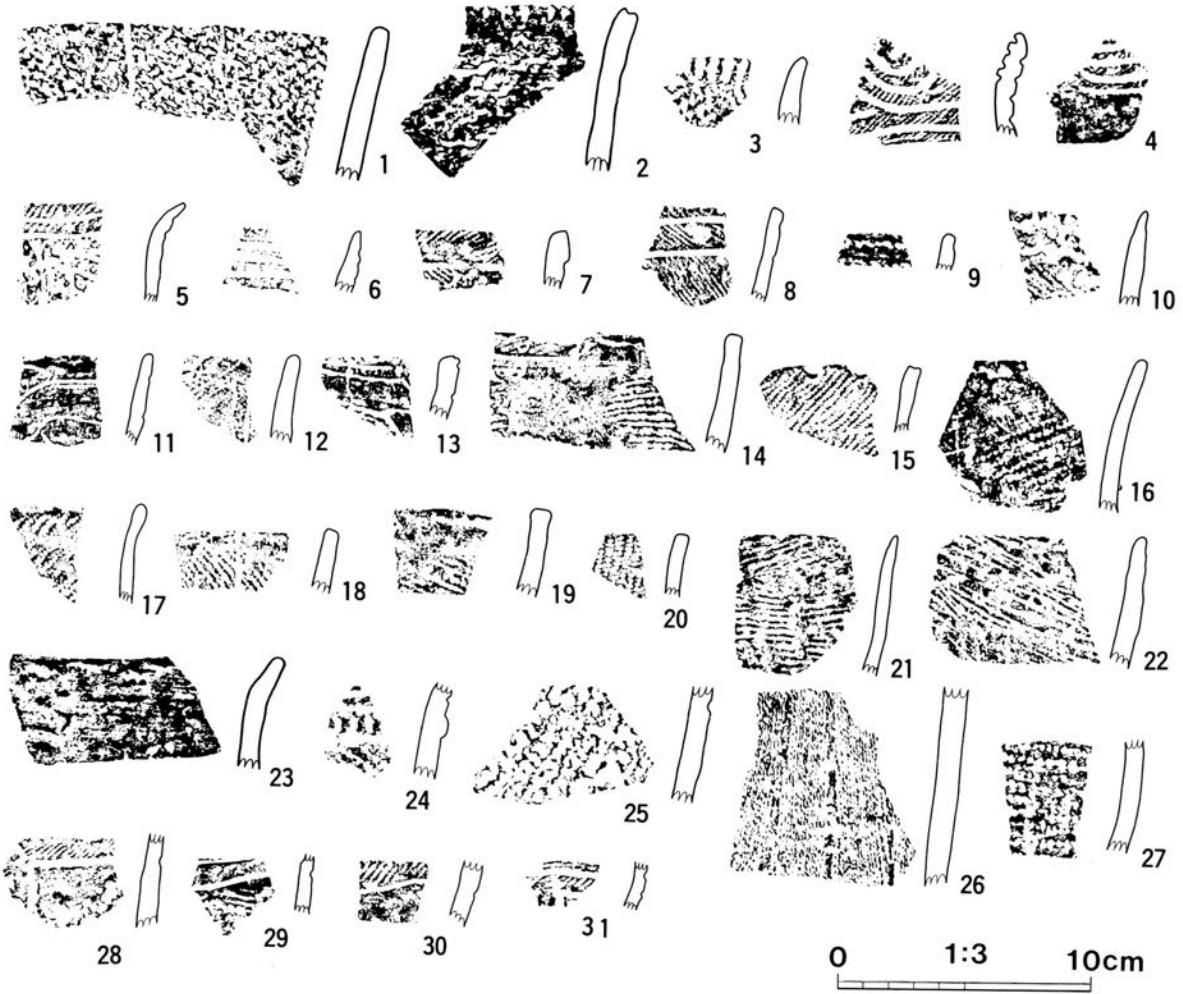


番号	遺跡名	器種	文 様	備 考
1	半崎 I 遺跡	深鉢	隆起線文	
2	半崎 I 遺跡	深鉢	口唇刻み、綾結文、RL単節	
3	半崎 I 遺跡	深鉢	平行沈線文	
4	半崎 I 遺跡	鉢	無文	
5	半崎 I 遺跡	深鉢	RL単節	
6	半崎 I 遺跡	深鉢	RL単節	
7	半崎 I 遺跡	深鉢	RL単節	
8	半崎 II 遺跡	深鉢	結束羽状縄文	繊維含
9	半崎 II 遺跡	深鉢	複節	
10	半崎 II 遺跡	深鉢	L無節	繊維含
11	半崎 III 遺跡	深鉢	沈線文、RL単節	
12	半崎 III 遺跡	深鉢	沈線文、RL単節	
13	半崎 IV 遺跡	深鉢	押し引き沈線文	繊維含
14	半崎 IV 遺跡	深鉢	原体圧痕、ループ文	繊維含
15	半崎 IV 遺跡	深鉢	RL単節	繊維含
16	半崎 IV 遺跡	深鉢	RL単節	
17	半崎 V 遺跡	深鉢	RL単節	
18	半崎 V 遺跡	深鉢	LR単節	

()は欠損品の現存値

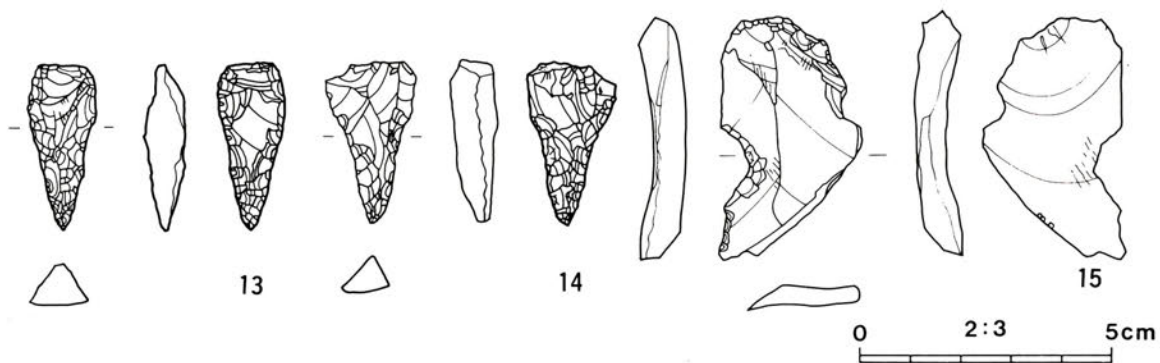
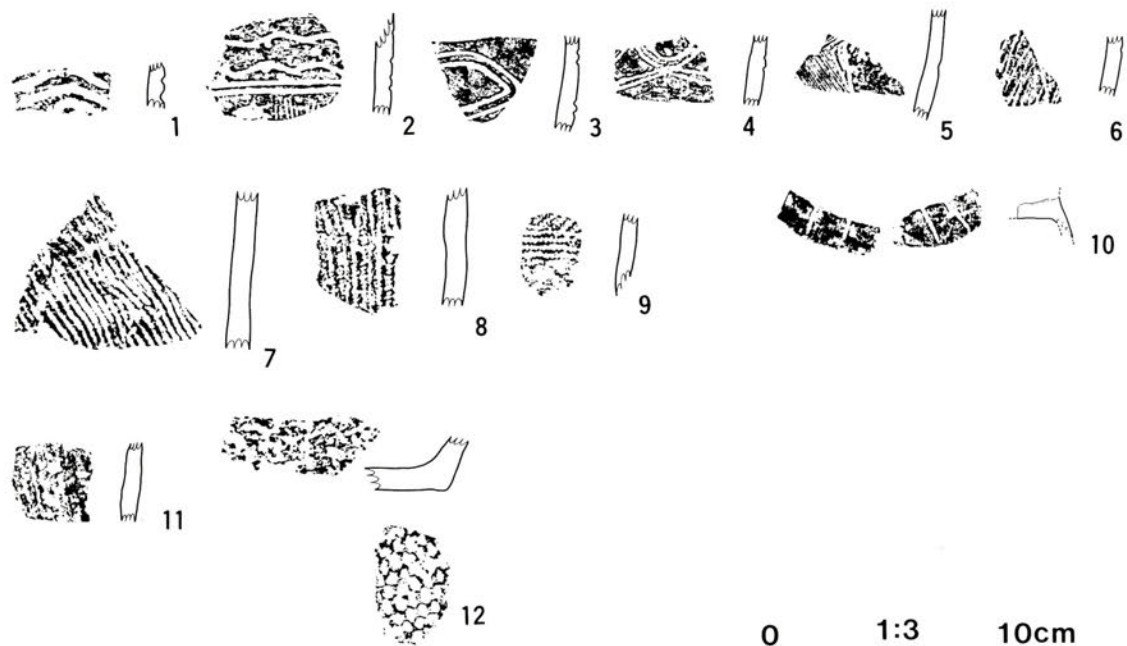
番号	遺跡名	器種	形 態	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量、単位g	石 質	備 考
19	半崎 I 遺跡	フレイク	使用痕有	2.9、3.0、1.0	3.7	頁 岩	
20	半崎 I 遺跡	フレイク	使用痕有	1.7、2.4、0.4	1.5	硬質頁岩	
21	半崎 I 遺跡	折製石斧		14.1、8.3、5.1	893.7	砂 岩	
22	半崎 IV 遺跡	敲 石	3ヶ所凹み側面磨痕	13.7、6.7、5.5	717.3	硬砂岩	

第26図 半崎 I・II・III・IV・V遺跡表採遺物



番号	遺跡名	器種	文 様	備 考
1	半崎VI遺跡	深鉢	粗紐	繊維含
2	半崎VI遺跡	深鉢	口唇上刻目、綾絡文、	繊維含
3	半崎VI遺跡	深鉢	口唇上刻目、LR単節	繊維含
4	半崎VI遺跡	深鉢	沈線文、LR単節、突起	
5	半崎VI遺跡	深鉢	沈線文、LR単節	
6	半崎VI遺跡	深鉢	平行沈線分	
7	半崎VI遺跡	深鉢	折り返し口縁、LR単節	
8	半崎VI遺跡	深鉢	平行沈線文、LR単節	
9	半崎VI遺跡	深鉢	原体圧痕	
10	半崎VI遺跡	深鉢	原体圧痕、L無節	
11	半崎VI遺跡	深鉢	沈線文	
12	半崎VI遺跡	深鉢	沈線文	
13	半崎VI遺跡	深鉢	沈線文	
14	半崎VI遺跡	深鉢	LR単節	
15	半崎VI遺跡	深鉢	口唇上刻目、LR単節	
16	半崎VI遺跡	深鉢	口唇上刻目、LR単節	
17	半崎VI遺跡	深鉢	口唇上刻目、LR単節	
18	半崎VI遺跡	深鉢	口唇上刻目、LR単節	
19	半崎VI遺跡	深鉢	口唇上刻目、L無節	
20	半崎VI遺跡	深鉢	口唇上刻目、RL単節	
21	半崎VI遺跡	深鉢	口唇上刻目、L無節	繊維含
22	半崎VI遺跡	深鉢	撚糸文	繊維含
23	半崎VI遺跡	深鉢	無文	
24	半崎VI遺跡	深鉢	隆帯上原体圧痕刻目、RL単節	
25	半崎VI遺跡	深鉢	円形刺突文、合撚り	繊維含
26	半崎VI遺跡	深鉢	木目状撚糸文	繊維含
27	半崎VI遺跡	深鉢	RL単節	
28	半崎VI遺跡	深鉢	沈線文、RL単節	
29	半崎VI遺跡	深鉢	沈線文、LR単節	
30	半崎VI遺跡	深鉢	沈線文、LR単節	
31	半崎VI遺跡	深鉢	沈線文、LR単節	

第27図 半崎VI遺跡表採遺物(1)

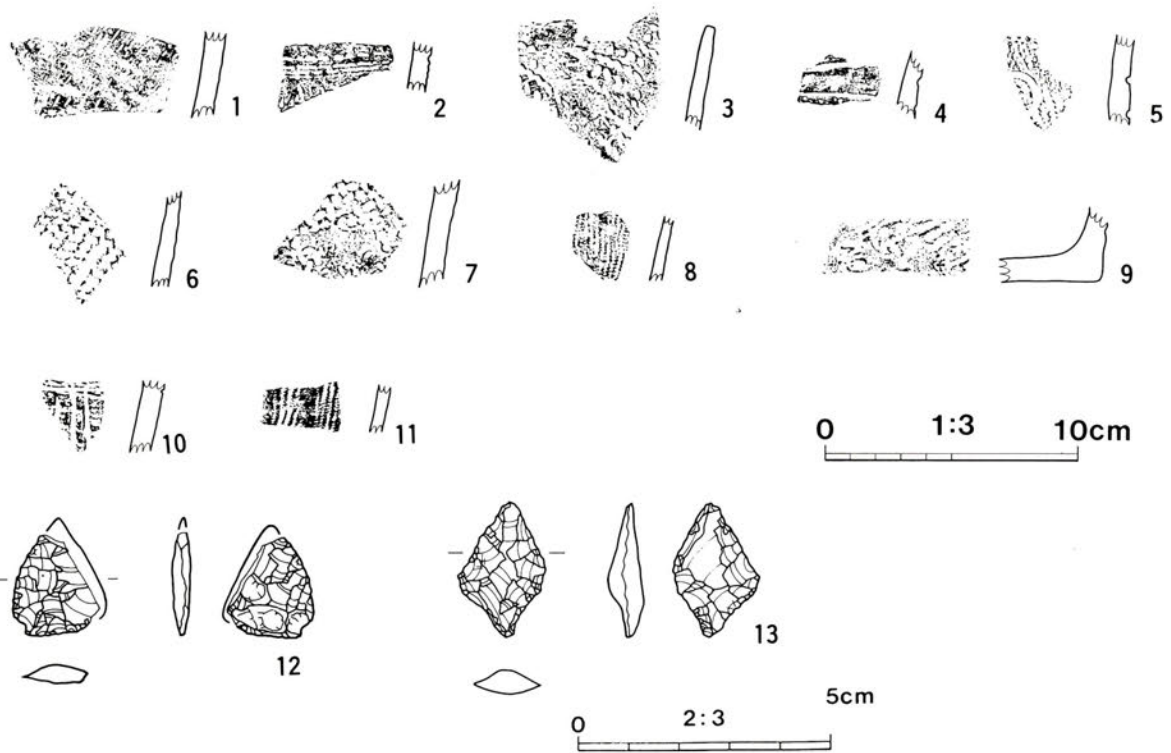


番号	遺跡名	器種	文 様	文 様
1	半崎VI遺跡	深鉢	沈線文	
2	半崎VI遺跡	深鉢	沈線文、R.L.単節	
3	半崎VI遺跡	深鉢	沈線文	
4	半崎VI遺跡	深鉢	沈線文	
5	半崎VI遺跡	深鉢	集合沈線文	
6	半崎VI遺跡	深鉢	沈線文、撚糸文	
7	半崎VI遺跡	深鉢	L.無節	
8	半崎VI遺跡	深鉢	R.L.単節	繊維含
9	半崎VI遺跡	深鉢	L.R.単節	
10	半崎VI遺跡	台付鉢	沈線文	
11	半崎VI遺跡	深鉢	撚糸文	
12	半崎VI遺跡	深鉢	表面剝落、底部網代痕	

()は欠損品の現存値

番号	遺跡名	器種	形 態	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量、単位g	石 質	備 考
13	半崎VI遺跡	石 錐		3.3、1.3、0.8	2.6	硬質頁岩	
14	半崎VI遺跡	石 錐		3.2、1.8、0.9	3.5	硬質頁岩	
15	半崎VI遺跡	フレイク	使用痕有	4.9、2.8、0.9	7.7	頁 岩	

第28図 半崎VI遺跡表採遺物(2)



番号	遺跡名	器種	文 様	備 考
1	半崎Ⅵ遺跡	深鉢	貝殻腹縁文	繊維含
2	半崎Ⅵ遺跡	深鉢	押し引き沈線文、貝殻腹縁文	繊維含
3	半崎Ⅵ遺跡	深鉢	口唇上刻目、燃糸文	繊維含
4	半崎Ⅵ遺跡	深鉢	沈線文	
5	半崎Ⅵ遺跡	深鉢	沈線文、RL単節	
6	半崎Ⅵ遺跡	深鉢	沈線文、RL単節	繊維含
7	半崎Ⅵ遺跡	深鉢	組紐文	
8	半崎Ⅵ遺跡	深鉢	RL単節	
9	半崎Ⅵ遺跡	深鉢	LR単節	
10	半崎南Ⅴ遺跡	深鉢	沈線文	
11	半崎南Ⅴ遺跡	深鉢	RL単節、編繩文	

()は欠損品の現存値

番号	遺跡名	器種	形 態	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量、単位g	石 質	備 考
12	半崎Ⅵ遺跡	石 鏃	平甚無茎	(2.0)、(1.7)、0.4	(1.1)	硬質頁岩	
13	半崎Ⅵ遺跡	石 鏃	凸基有茎	2.7、1.7、0.7	2.0	チャート	

第29図 半崎Ⅵ・半崎南Ⅴ遺跡表採遺物

5. 田中・宇津目・閉伊口・鼻館地区

田中地区は、国道45号線東側にあたり鳥谷川左岸に形成された低位段丘面に相当する。

田中Ⅰ～Ⅴ遺跡の現況は畑地及び一部山林で、縄文時代を主体とする遺物が散布しているが、密度は薄い。

田中Ⅳ遺跡は、昭和61年度に国家石油備蓄基地建設関連道路新設に伴い発掘調査が2,920㎡にわたり実施され、縄文時代の陥し穴状遺構14基、土壌1基が検出されている。(第31図)

閉伊口館跡(別称田中館跡)は、南東に張り出した地形に立地している。標高約35mである。西側が土砂採取場となっており、およそ半分は破壊されている。中～近世に属する城館跡と推定されているが、城主等は不明である。

鳥谷川と夏井川に挟まれ、南東に延びる丘陵状地形の北東斜面低位段丘面に宇津目Ⅰ・Ⅱ遺跡は立地する。現況は畑地及び山林で、縄文時代及び古代に属する遺物が散布する。

鳥谷川と夏井川に挟まれた丘陵の先端部に鼻館跡が所在する。中～近世にかけての城館跡と推定されている。現況は、丘陵の先端部に若宮八幡宮が存在し、若宮八幡宮裏にあたる北西側は山林及び畑地となっている。丘陵の縁は急斜面となっているが、中央部はほぼ平坦で、全面において縄文時代の遺物及び土師器が散布している。

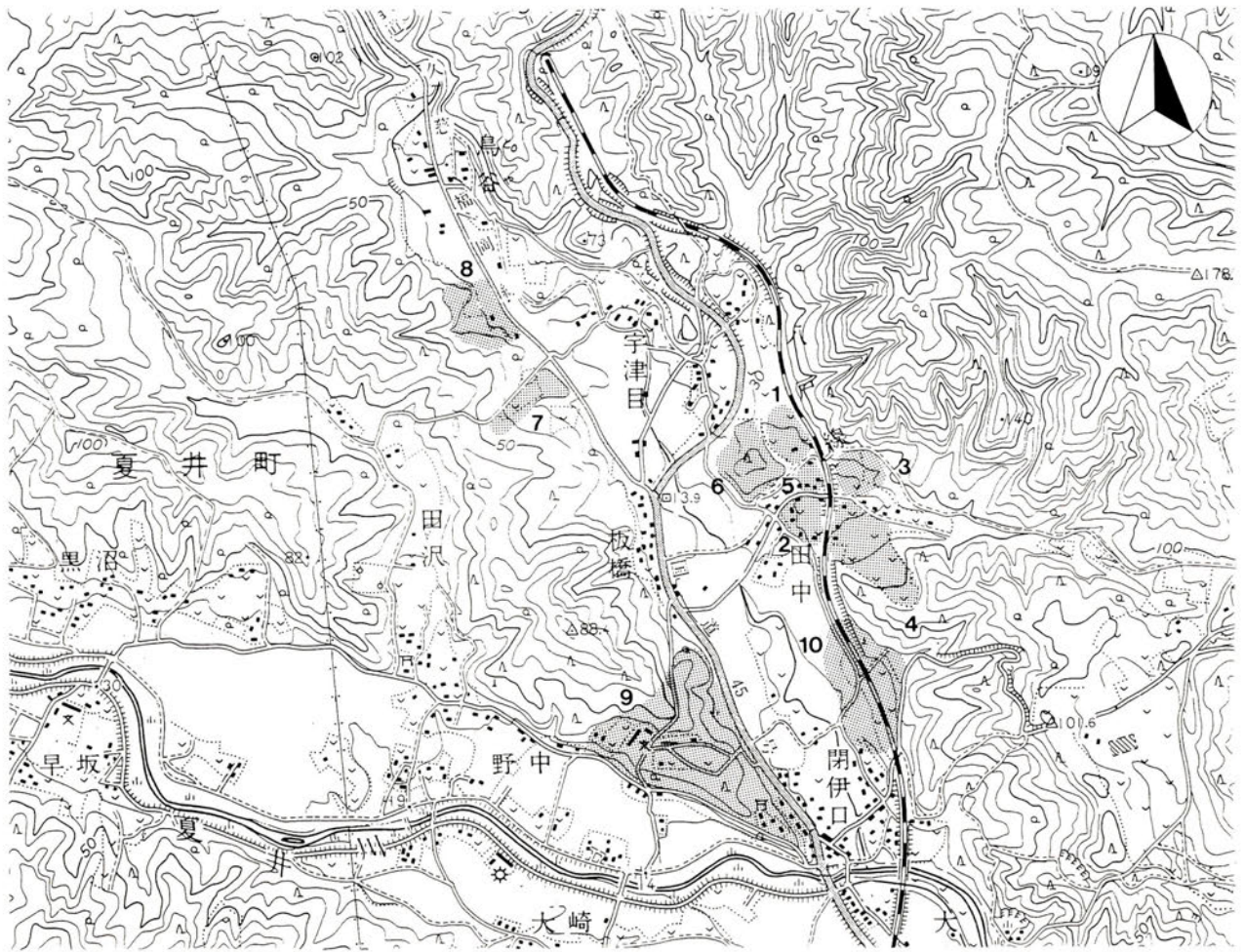
また、遺跡の北西部にあたる本波長松氏宅裏には近世～近代にかけての窯跡が1基存在し、平山窯跡と呼ばれている。窯は長さ約12m、幅約6mの登り窯である。樹木が生い茂っているが、現在でも窯の天井部が崩落し溝状に凹んでいるため、その存在を容易に確認することができる。本波氏宅畑地には、その窯で焼かれたと思われる陶器の破片や窯道具が多量に散布している。

閉伊Ⅰ遺跡は、JR八戸線が中央部を縦断しており、現況は鉄道路線、畑地及び山林である。遺物の分布密度は薄い、縄文時代の遺物散布地である。

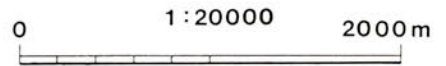
参考文献

『田中Ⅳ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第117集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1987年

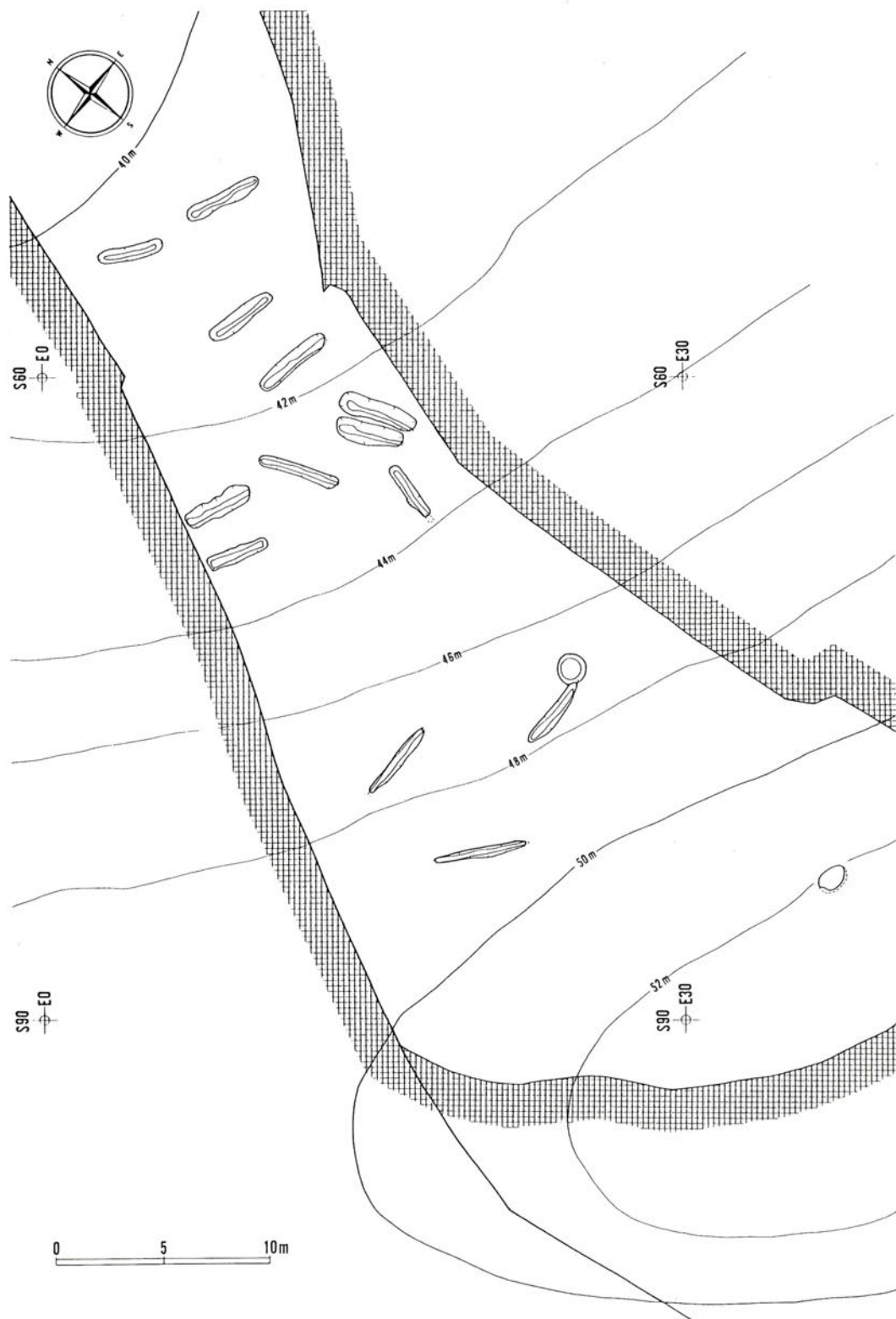
番号	遺跡名	県遺跡コード	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	田中Ⅰ遺跡	J G 10.1194	散布地	縄文土器(後期)	夏井町田中	
2	田中Ⅱ遺跡	J G 10.2114	散布地	縄文土器	夏井町田中	
3	田中Ⅲ遺跡	J G 10.2106	散布地	縄文土器	夏井町田中	
4	田中Ⅳ遺跡	J G 10.2116	散布地	縄文土器	夏井町田中	昭和61年度発掘調査
5	田中Ⅴ遺跡	J G 10.2105	散布地	縄文土器(前期)	夏井町田中	新発見
6	閉伊口館跡	J G 10.2103	城館跡	中～近世	夏井町田中	別称田中館跡
7	宇津目Ⅰ遺跡	J G 10.1077	散布地	縄文土器、土師器	夏井町	
8	宇津目Ⅱ遺跡	J G 10.1056	散布地	縄文土器	夏井町	
9	鼻館跡	J G 10.2128	城館跡、窯跡	縄文土器(後期)、土師器、陶器、塚	夏井町鼻館	
10	閉伊Ⅰ遺跡	J G 10.2167	散布地	縄文土器	夏井町	



第30図 田中・宇津目・閉伊口・鼻館地区遺跡分布図

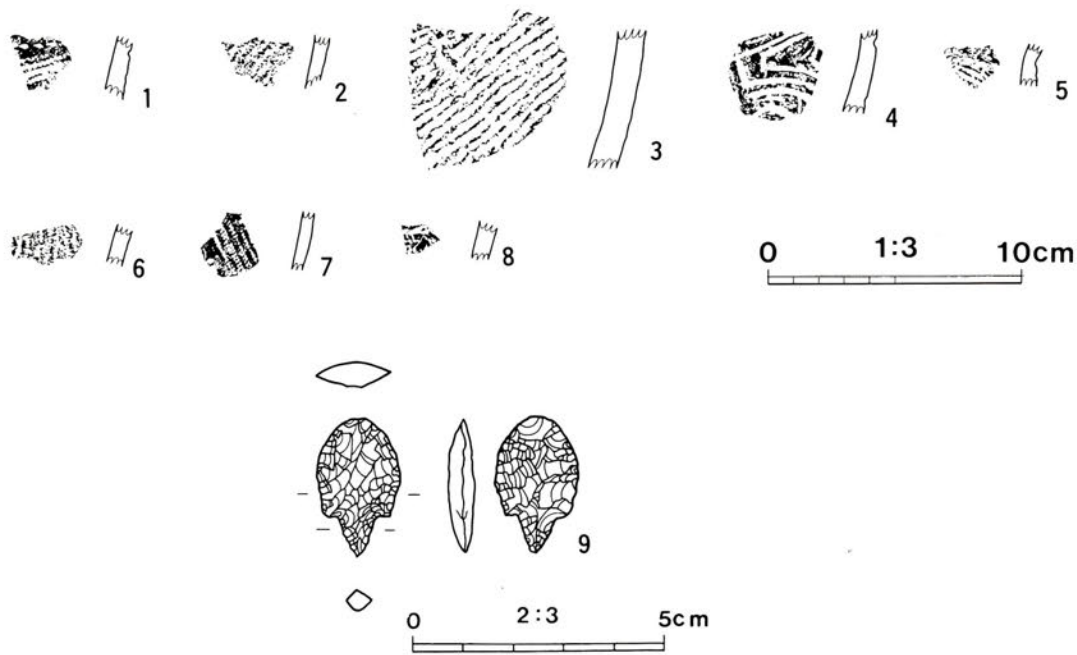


第8図版 田中・宇津目・閉伊口・鼻館地区航空写真



第31図 田中Ⅳ遺跡発掘調査区遺構配置図

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第117集
「田中Ⅵ遺跡発掘調査報告書」より転載(一部加筆)

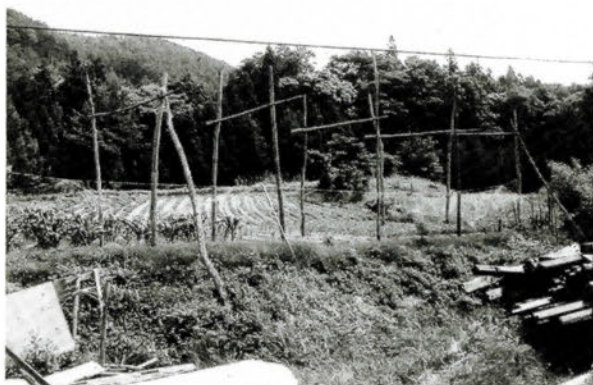


番号	遺跡名	器種	文様	備考
1	田中Ⅰ遺跡	深鉢	刺突文、RL単節	
2	田中Ⅳ遺跡	深鉢	刺突文、RL単節	
3	田中Ⅴ遺跡	深鉢	L無節	繊維含
4	鼻館跡	深鉢	沈線文	
5	鼻館跡	深鉢	原体圧痕、RL単節	
6	鼻館跡	深鉢	原体圧痕、RL単節	
7	鼻館跡	深鉢	原体圧痕、RL単節	
8	鼻館跡	深鉢	原体圧痕、RL単節	

()は欠損品の現存状況

番号	遺跡名	器種	形態	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量、単位g	石質	備考
9	鼻館跡	石織	平基有茎	3.2、1.6、0.5	1.8	硬質頁岩	

第32図 田中Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ遺跡、鼻館跡表採遺物

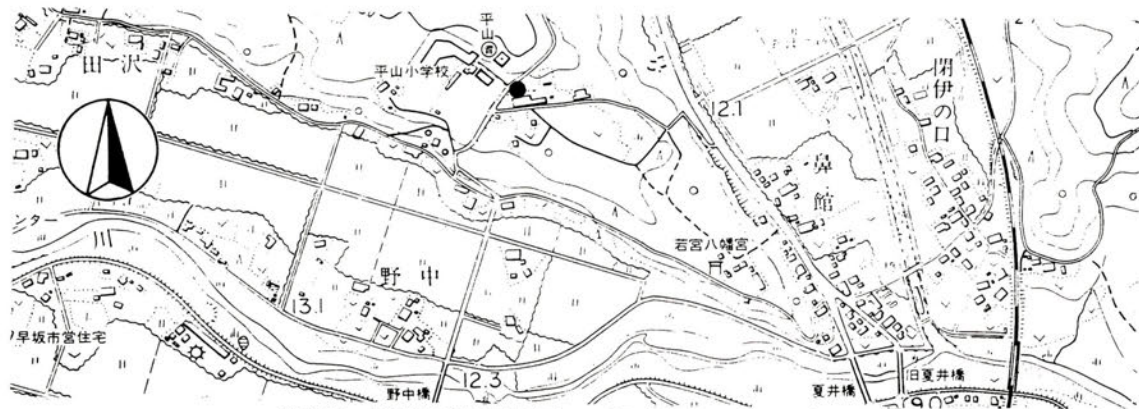


田中Ⅲ遺跡近景 (南西より)

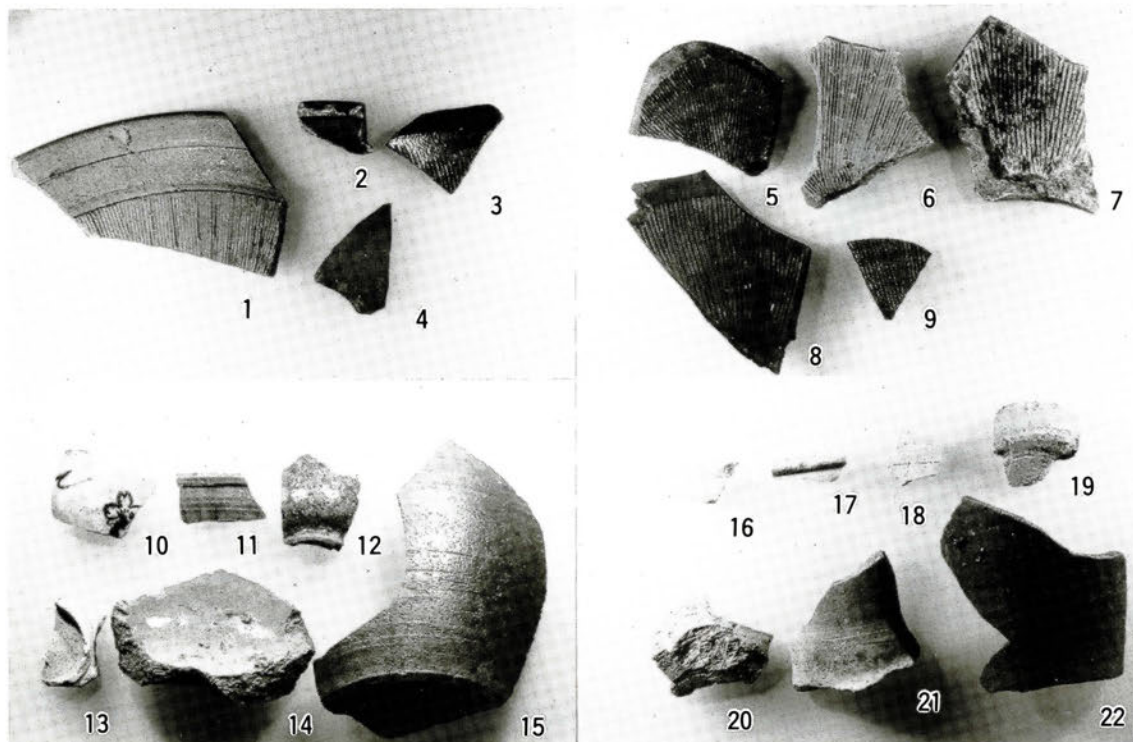


鼻館跡遠景 (南より)

第9図版 田中Ⅲ遺跡・鼻館跡

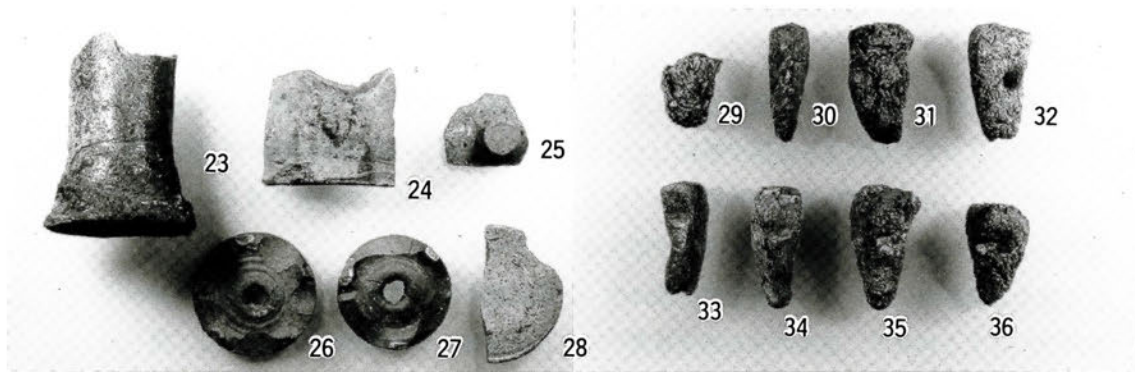


第33図 鼻館跡窯跡位置図 ●印 (S=1:10,000)



第10図版 鼻館跡窯跡出土遺物 (1)

番号	遺跡名	器種	文 様	備 考
1	鼻館跡	播鉢		
2	鼻館跡	播鉢		
3	鼻館跡	播鉢		
4	鼻館跡	播鉢		
5	鼻館跡	播鉢		
6	鼻館跡	播鉢		
7	鼻館跡	播鉢		
8	鼻館跡	播鉢		
9	鼻館跡	播鉢		
10	鼻館跡	播鉢		
11	鼻館跡	鉢		
12	鼻館跡	碗		
13	鼻館跡	碗		
14	鼻館跡	甕		
15	鼻館跡	壺		
16	鼻館跡	鉢		
17	鼻館跡	鉢		
18	鼻館跡	鉢		
19	鼻館跡	鉢		
20	鼻館跡	火舎		
21	鼻館跡	壺		
22	鼻館跡	甕		
23	鼻館跡	窯道具		
24	鼻館跡	窯道具		
25	鼻館跡	窯道具		
26	鼻館跡	窯道具		
27	鼻館跡	窯道具		
28	鼻館跡	窯道具		
29	鼻館跡	窯道具		
30	鼻館跡	窯道具		



第11図版 鼻館跡窯跡出土遺物（2）

番号	遺跡名	器種	文 様	備 考
31	鼻館跡	窯道具		
32	鼻館跡	窯道具		
33	鼻館跡	窯道具		
34	鼻館跡	窯道具		
35	鼻館跡	窯道具		
36	鼻館跡	窯道具		



北西より



南東より

第12図版 鼻館跡窯跡

6. 大崎・源道・旭町地区

夏井町大崎地区、源道地区、旭町地区は夏井川と久慈川に挟まれており、両河川に挟まれた西から東に延びる丘陵に主な遺跡が所在している。現在、丘陵と河川の間低位段丘は水田として利用され、丘陵裾部に集落が形成されている。この丘陵の尾根すじが夏井町と旧久慈町の境界となっており、北側が夏井町、南側が旧久慈町となっている。

丘陵の北側斜面においては明神遺跡の他は中～近世に属すると推定される夏井館跡・館の平館跡が所在する程度で、遺跡の分布密度は薄いが、丘陵頂部及び南側斜面においては、張り出し部や緩斜面において連続して遺跡が分布している。

明神遺跡は丘陵先端部付近の北側斜面に立地する。平成元年度に国道45号線久慈バイパス建設に伴い、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによって明神遺跡の発掘調査が8,300㎡にわたり実施され、縄文時代の陥し穴状遺構及び古代の集落跡が検出されている。

金比羅遺跡は丘陵の先端部に立地し、金刀比羅神社の境内となっている。境内において縄文時代に属する遺物が表採される。

新城館跡（別称大崎館跡）は、丘陵の頂上部に所在する。標高は約100～110mで、広く平坦面が認められる。規模は、東西約250m、南北約150mで、面積は約30,000㎡である。東西に長い長方形で東辺が突出した平面形を呈し、周囲には幅2.5～4mの帯郭が廻っている。北方向に夏井川、南方向に久慈川、東方向に久慈湾が一望できる。城主については諸説あり判然としないが、中世に属するものと推定されている。

また、本遺跡は以前開墾されており、縄文時代に属する多量の遺物が表採されたとのことであるが、現在は植林されているため遺物はわずかしか拾うことができない。

左峠館跡は、新城館跡の東方約70mの丘陵頂部に所在する。新城館跡東側の丘陵は痩せ尾根となっており、わずかに人一人が歩ける程度の小道が金刀比羅神社に通じているが、その途中に3重の空堀が認められ、小規模な平場が存在し、丘陵の南側及び北側は急傾斜している。現在、平場には稻荷神社が鎮座している。形成時期・城主等についての詳細は不明である。

源道遺跡は、丘陵南側裾部近くの緩斜面に立地する。昭和62・63年度に国道45号線久慈バイパス建設に伴い岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターにより発掘調査が8,219㎡にわたり実施され、縄文時代の陥し穴状遺構及び古代の集落跡が検出されている。

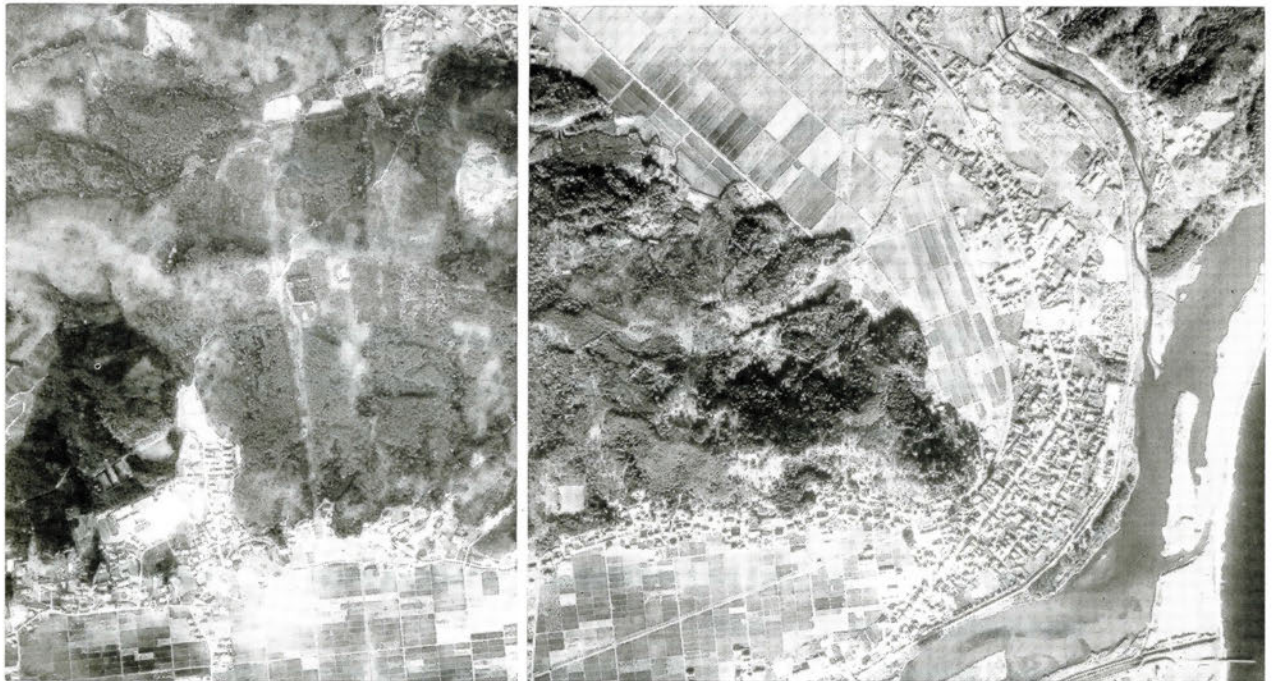
昼場沢遺跡は、源道遺跡とは沢を挟み西方約200mに位置する。現況は山林であるが林道に

番号	遺跡名	県遺跡コード	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	明神遺跡	J G 20.0196	集落跡	土師器	源道（明神）	平成元年度発掘調査
2	新城館跡	J G 20.0096	館跡	壺、縄文土器（前・中・後期）	夏井町字大崎	別称大崎館跡
3	金比羅遺跡	J G 20.1128	集落跡	縄文土器（早・前・後期）	源道	
4	左峠館跡	J G 20.1123	城館跡	三重堀切	夏井町字大崎	
5	源道遺跡	J G 20.1131	集落跡	土師器	源道	昭和62・63年度発掘調査
6	昼場沢遺跡	J G 20.1037	散布地	縄文土器（後期）、土師器	旭町	
7	旭町Ⅰ遺跡	J G 20.1144	散布地	縄文土器	旭町	
8	旭町Ⅱ遺跡	J G 20.1147	散布地	縄文土器	旭町	

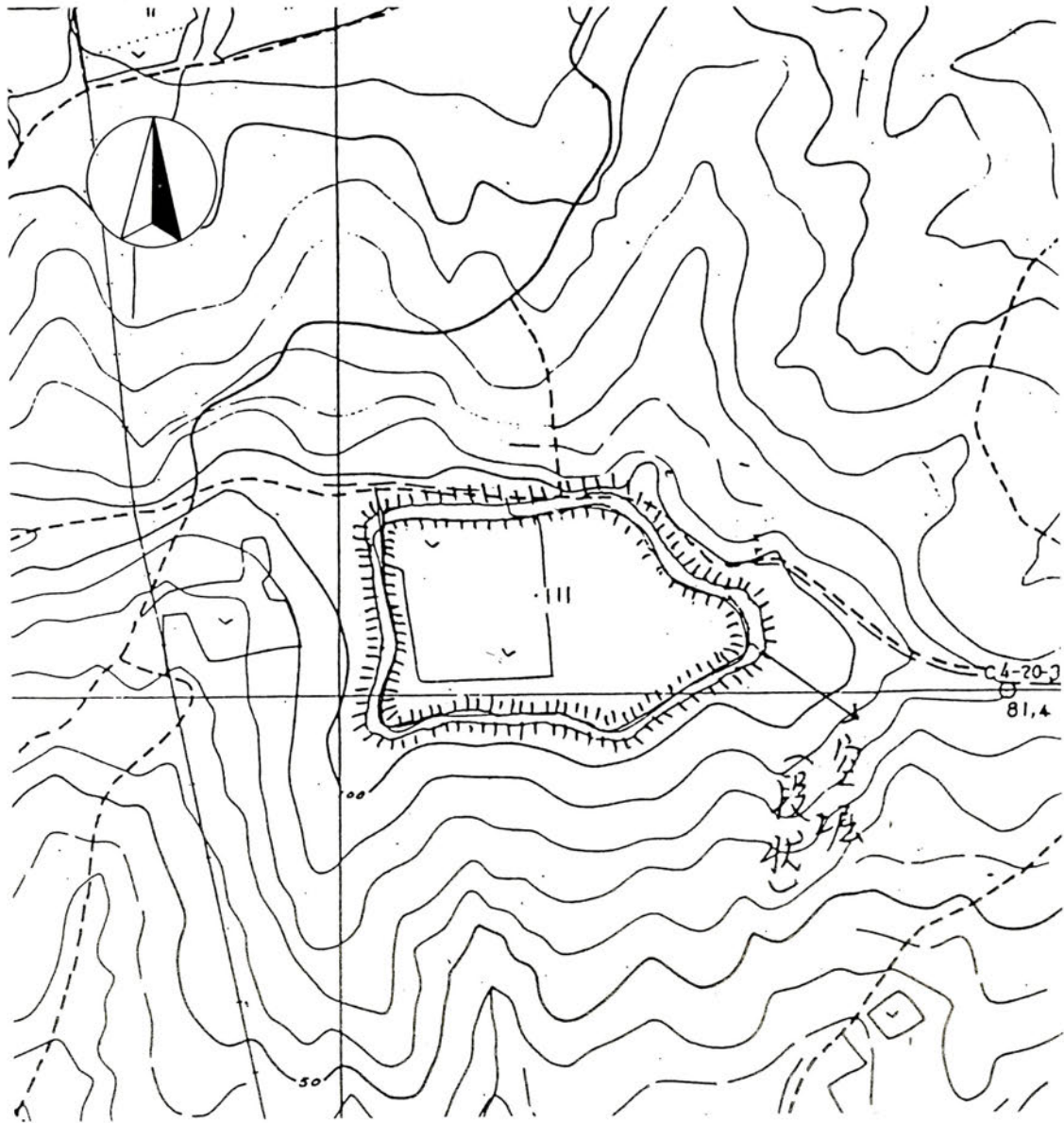


第34図 大崎・源道・旭町地区遺跡分布図

0 1:20000 2000m



第13図版 大崎・源道・旭町地区航空写真



第35図 新城館跡平面図 (S=1:5,000)

昭和59年岩手県中世城館跡総合調査カードより転載

において縄文土器及び土師器が表採される。遺跡付近には丘陵上部の新城館跡付近に源を発する沢が南流している。

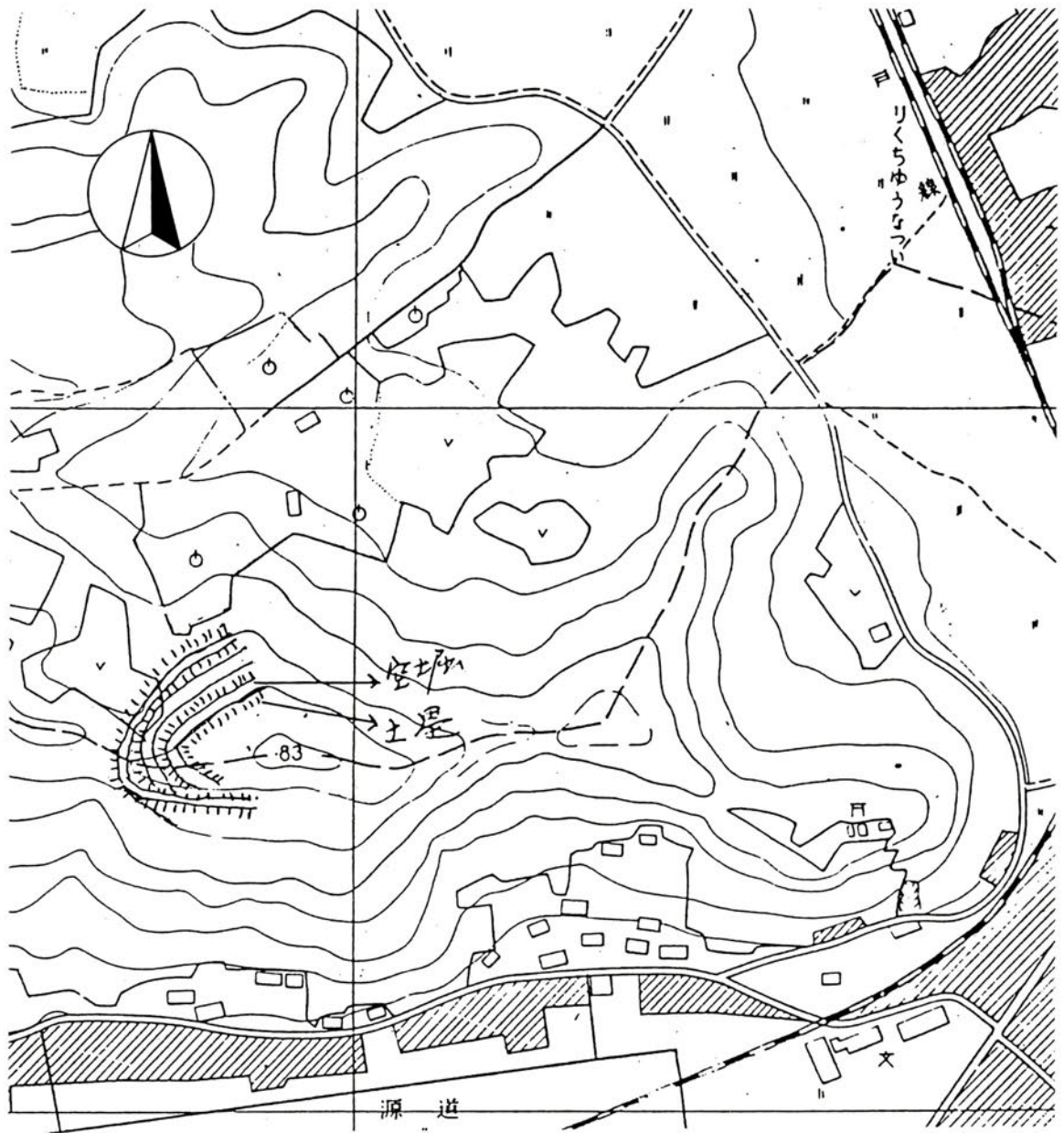
旭町Ⅰ・Ⅱ遺跡は、丘陵に裾部に立地している。現況は旭町Ⅰ遺跡は山林、旭町Ⅱ遺跡は畑地である。今回の分布調査では遺物は表採されなかったが、縄文時代に属する遺物の散布地として遺跡台帳に登録されている。

参考文献

『源道遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第138集 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1989年

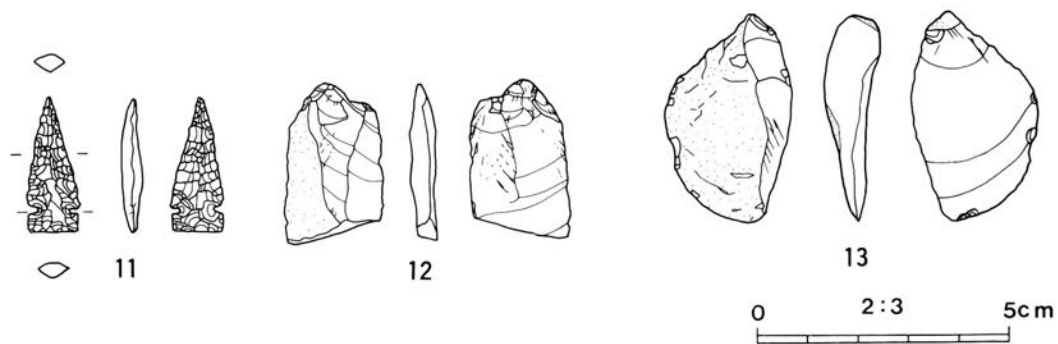
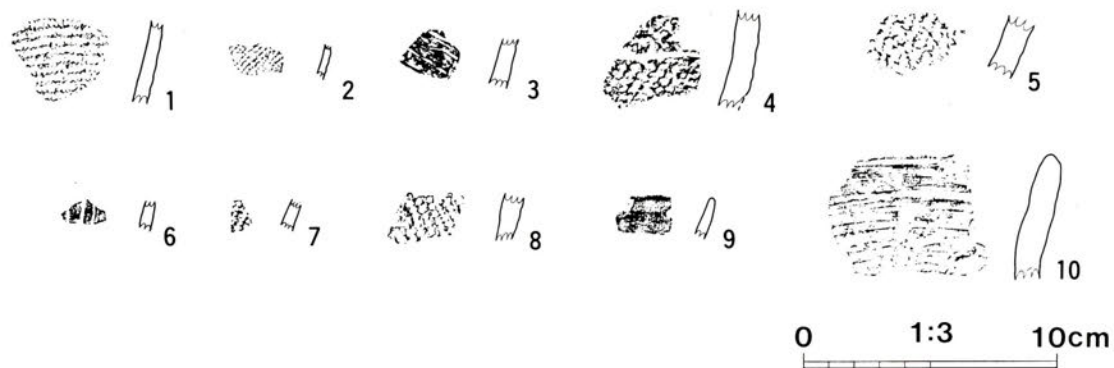
『久慈市明神遺跡現地説明会資料』(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1989年

『岩手県中世城館跡分布調査報告書』岩手県文化財調査報告書第82集 岩手県教育委員会 1986年



第36図 左峠館跡平面図 (S=1:5,000)

昭和59年岩手県中世城館跡総合調査カードより転載



番号	遺跡名	器種	文 様	備 考
1	新城館跡	深鉢	L R 単節	
2	新城館跡	鉢	R L 単節	
3	金比羅遺跡	深鉢	貝殻腹縁文	
4	金比羅遺跡	深鉢	R L 単節	
5	金比羅遺跡	深鉢	L R 単節	
6	金比羅遺跡	深鉢	沈線文	
7	金比羅遺跡	深鉢	R L 単節	
8	昼場沢遺跡	深鉢	R L 単節	
9	昼場沢遺跡	土師器坏	外面クロロ目、内面ヘラミガキ、内黒処理	
10	昼場沢遺跡	土師器甕	外面ナデ	

()は欠損品の現存値

番号	遺跡名	器種	形 態	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量、単位g	石 質	備 考
11	新城館跡	石 鎌	アメリカ式	2.7、1.0、0.4	0.8	硬質頁岩	
12	金比羅遺跡	フレイク		3.2、2.0、0.5	3.3	硬質頁岩	
13	旭町Ⅱ遺跡	フレイク		4.1、2.5、1.1	8.8	硬質頁岩	

第37図 新城館跡、金比羅遺跡、昼場沢遺跡、旭町Ⅱ遺跡表採遺物

B. 試掘調査結果

1. 麦生 I 遺跡

麦生 I 遺跡は、麦生小中学校より北西へ約400mに位置する。通称上村といわれる小規模な集落が形成されており、その集落の西側から南側にかけて弧状に遺跡が分布する。全体的には北から南に下る緩傾斜面である。標高は約90～110mで麦生段丘面に相当する。現況は畑地・荒地・山林である。

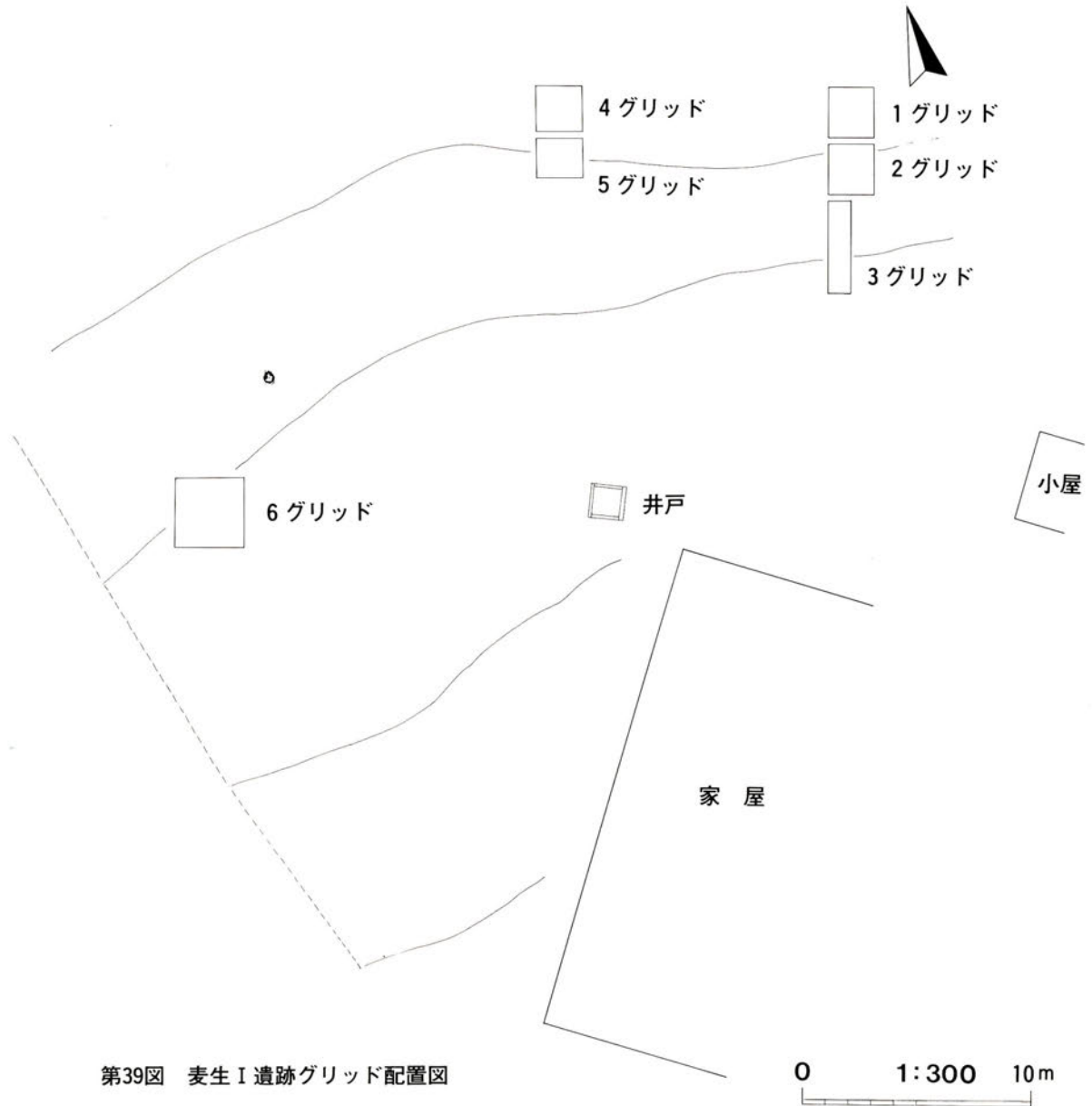
遺跡の南半部は遺物の散布密度は薄い、北半部では、北側の上位段丘（待浜段丘）から下った裾部において濃い密度で遺物が散布している。縄文時代前期初頭を主体とする遺物が散布し、それらと共に貝殻が多く散布していた。散布している貝殻が、縄文時代前期初頭に属するものであれば、当市において現在確認されている中では最も古い時期に属する貝塚となるため、貝層の存在の有無及びその範囲確認のため試掘調査を実施した。試掘調査箇所は、貝殻の散布密度の高い森岩勝也氏宅裏、舛森栄一郎氏所有の荒地を選定した。任意に6ヶ所のグリットを設定し調査を行なった。（第39図）

a. 1・2・3グリット（第40図）

1・2・3グリットは、貝層の散布密度が最も濃い北から南へ下る傾斜面に設定した。1グリットは、東西2m、南北2.2m、2グリットは東西2m、南北2.2m、3グリットは東西1m、南北4mに設定した。1・2グリットにおいては、地表面から5～40cmで地山が露れる状況で、遺構は検出されなかった。3グリットにおいては、RE501 竪穴状遺構が検出され、埋土中



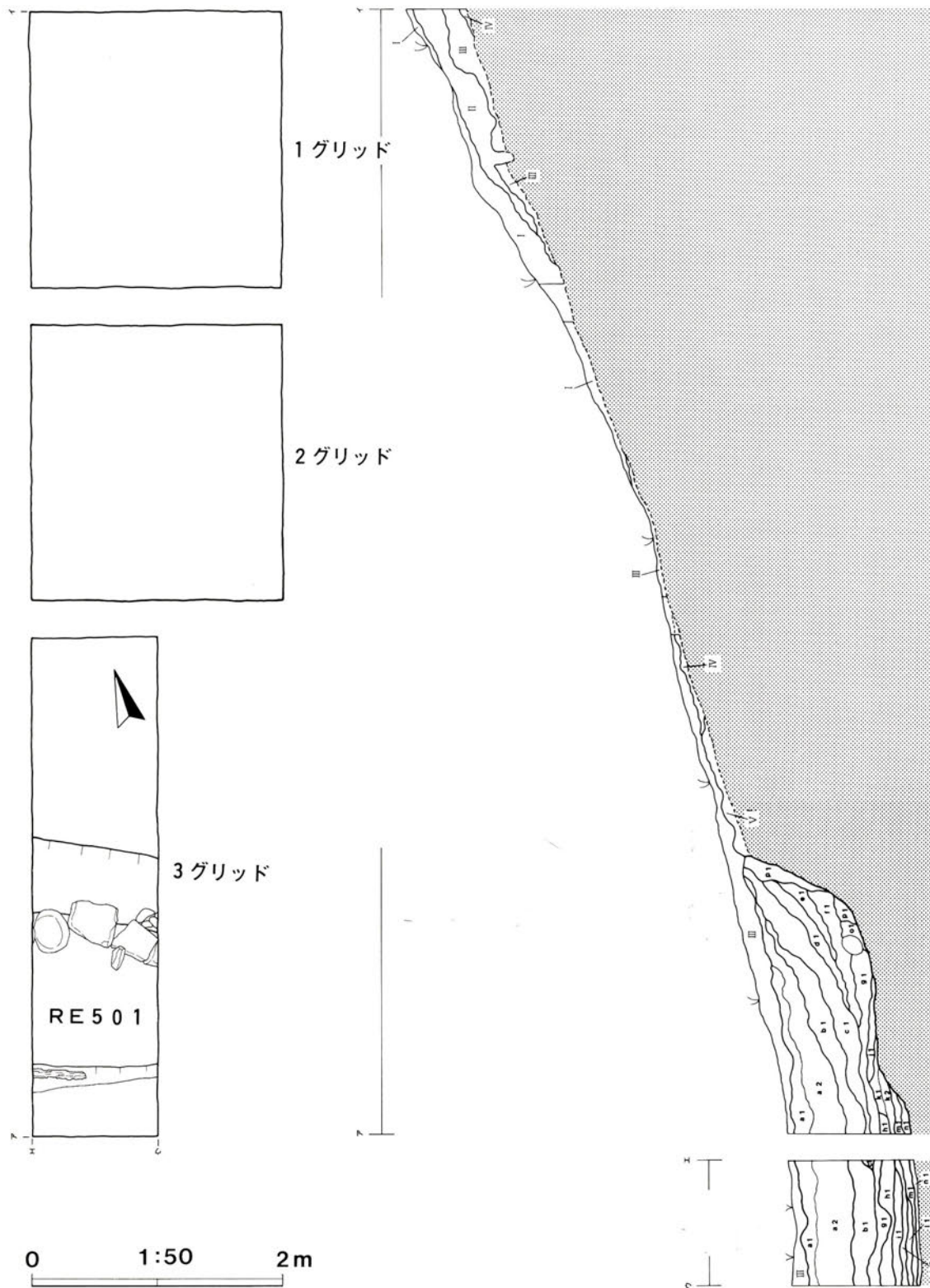
第38図 麦生 I 遺跡試掘調査区位置図 ●印 (S=1:25,000)



第39図 麦生I遺跡グリッド配置図

0 1:300 10m

層	土色	土性	密度	堅さ	混入物	備考
I	10YR 7/2 黒色	シルト	疎	軟	貝30%	
II	10YR 7/3 黒褐色	シルト	疎	軟	貝80%	
III	10YR 7/4 褐色	シルト	やや密	やや堅	貝20%	
IV	10YR 7/5 黄褐色	シルト	やや密	やや堅	10YR 7/5 褐色ブロック (φ10~30mm) 20%	
V	10YR 7/6 黄褐色	シルト	密	やや堅		
a 1	10YR 7/7 暗褐色	シルト	疎	軟	10YR 7/5 黄褐色粒 (φ1~3mm) 5%、貝10%	RE501埋土
a 2	10YR 7/8 暗褐色	シルト	やや密	やや堅	10YR 7/5 黄褐色粒 (φ1~3mm) 5%、貝25%	
b 1	10YR 7/1 黒褐色	シルト	やや疎	やや堅	10YR 7/5 黄褐色ブロック (φ10~30mm) 5%、貝80%	
c 1	10YR 7/2 黒褐色	シルト	やや疎	やや堅	10YR 7/5 黄褐色ブロック (φ10~50mm) 5%、貝30%	
d 1	10YR 7/3 黒褐色	シルト	やや疎	やや堅	10YR 7/5 黄褐色粒~ブロック (φ2~10mm) 5%、貝70%	
e 1	10YR 7/4 褐色	シルト	やや密	やや軟	10YR 7/5 黄褐色粒 (φ1~5mm) 10%、貝20%	
f 1	10YR 7/5 暗褐色	シルト	やや疎	やや堅	10YR 7/5 黄褐色粒~ブロック (φ1~10mm) 20%、貝30%	
g 1	10YR 7/6 黄褐色	シルト	やや密	やや堅	10YR 7/5 黄褐色粒 (φ1~5mm) 10%、貝30%	
h 1	10YR 7/7 黄褐色	シルト	密	堅	10YR 7/5 黄褐色粒~ブロック (φ1~10mm) 15%、貝50%	
i 1	10YR 7/8 黄褐色	シルト	密	堅	10YR 7/5 褐色ブロック (φ10mm) 5%、貝30%	
j 1	10YR 7/9 黄褐色	シルト	密	堅	10YR 7/5 黄褐色ブロック (φ10~30mm) 50%、貝10%	
k 1	10YR 7/1 黒褐色	シルト	やや密	軟	10YR 7/5 黄褐色粒 (φ1~5mm) 30%、貝20%、やや砂質	
k 2	10YR 7/2 黒褐色	シルト	やや密	軟	10YR 7/5 黄褐色粒 (φ1~5mm) 15%、貝15%、やや砂質、上位に焼土堆積	
l 1	10YR 7/3 黄褐色	シルト	密	堅	カーボン粒 (φ1~5mm) 5%、貝10%、粘性強	
m 1	10YR 7/4 黄褐色	砂質	密	軟	貝20%	
n 1	10YR 7/5 黒褐色	シルト	やや密	やや堅	カーボン粒 (φ1~3mm) 3%、貝50%	
o 1	10YR 7/6 褐色	シルト	やや密	やや軟	10YR 7/5 黄褐色ブロック (φ10~20mm) 60%、貝20%	
p 1	10YR 7/7 黄褐色	シルト	疎	軟	V層の崩壊土	



第40図 麦生I遺跡1~3グリッド

に貝層・混貝土層が形成されており、多量の貝が出土した。

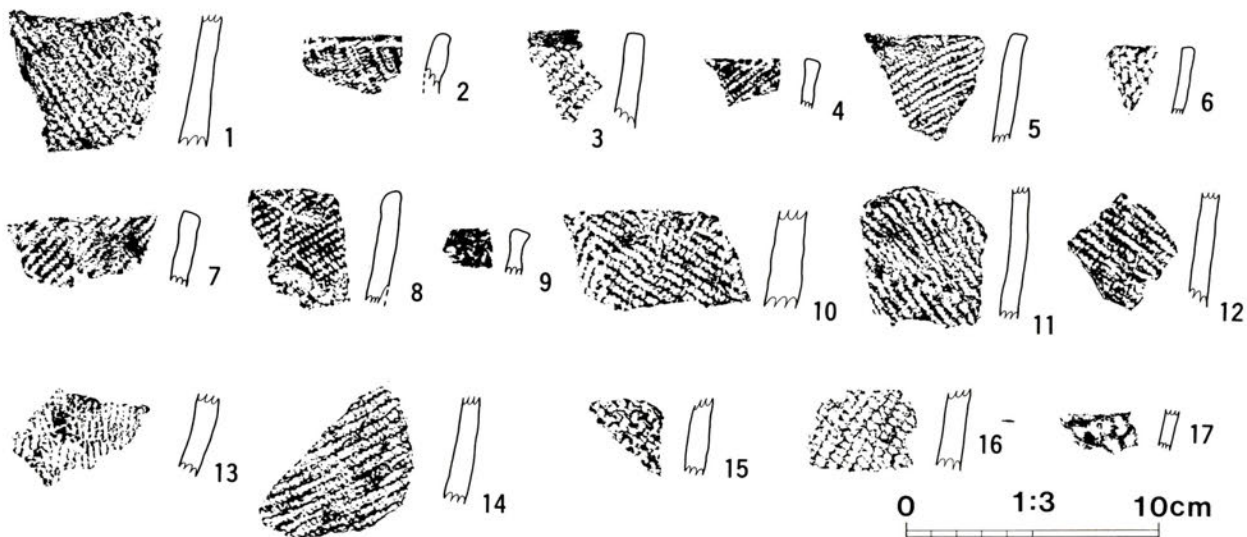
RE501 竪穴状遺構の平面形、規模等は部分的な調査のため不明である。壁は緩やかに外傾しながら立ち上がり、壁高は約100cmを測る。床面はほぼ平坦であるが、南側に段差が認められ、さらに20cm低くなる。床面の壁際には大形の礫が並べられ、すきまの一部には小礫が詰め込まれている。3グリットの東側及び西側に壁は延びるものと思われ、壁際の礫もそれに伴い配されるものと推定される。床面の低い段には焼土の堆積が認められ、また段の近くからは木が炭化した状況で出土した。

埋土中には貝層が形成されており、特にb₁層、d₁層においては混貝率が高い。しかしながら、それらの層からは、キセル、陶磁器片、不明鉄製品等が出土しており、縄文期に属する遺物は、流れ込みと思われる数点出土しただけであった。RE501 竪穴状遺構の時期は近世～近代にかけてと推定され、埋土の貝層はそれ以降に形成されたものである。

貝はアワビ、レイシ、チヂミボラ、クボガイ、イガイ等が認められる。

b. 4・5グリット (第42図)

4・5グリットは、北から南へ下る緩斜面に設定した。



№	器種	部位	出土地点	文様	図版番号	備考
1	深鉢	胴部	2グリット、I層	複節縄文		繊維含
2	深鉢	口縁部	3グリット、I層	口縁直下原体圧痕、RL単節		
3	深鉢	口縁部	3グリット、B1層	LR単節		繊維含
4	深鉢	口縁部	3グリット、B1層	LR単節		繊維含
5	深鉢	口縁部	3グリット、B1層	LR単節		繊維含
6	深鉢	口縁部	3グリット、d1層	LR単節		繊維含
7	深鉢	口縁部	3グリット、I層	LR単節		繊維含
8	深鉢	口縁部	3グリット、I層	LR単節		繊維含
9	深鉢	口縁部	3グリット、I層	RL単節		
10	深鉢	胴部	3グリット、I層	LR羽状縄文		繊維含
11	深鉢	胴部	3グリット、I層	LR羽状縄文		繊維含
12	深鉢	胴部	3グリット、I層	RL単節		
13	深鉢	胴部	3グリット、I層	R無節		繊維含
14	深鉢	胴部	3グリット、B1層	RL単節		繊維含
15	深鉢	胴部	3グリット、I層			繊維含
16	深鉢	胴部	3グリット、d1層	LR単節		繊維含
17	深鉢	胴部	3グリット、B1層	刺突文		繊維含

第41図 表生I遺跡2・3グリット出土遺物

4グリットは東西2m、南北2m、5グリットは東西2m、南北1.7mに設定した。

遺構は検出されなかったが、Ⅱ～Ⅲ層より比較的まとまって土器が出土しており、遺物包含層として捉えられる。5グリット両側において深掘りを行なったが、Ⅳ層位下においては遺物の出土は認められなかった。

出土した遺物は縄文時代前期初頭に属するものが主体を占める。

c. 6グリット (第47図)

6グリットは、北西から南東に下る緩傾斜面に設定した。

当初、東西2m、南北2mに設置したが、遺構が検出されたため、西方向と南方向に1m拡張し、最終的には3m四方のグリットとした。

I層表土下よりRE502 堅穴状遺構が検出された。平面形、規模は不明であるが北東コーナー部と推定される部分が検出された。コーナー部は丸みをもち、東壁はやや歪む。

床面は軟弱で、凹凸が認められる。壁は外傾しながら立ち上がる。壁高は最も高い西セクションライン部で約40cmを測る。遺構内よりピットが5基(ピット1～5)、遺構外よりピットが6基(ピット6～11)が検出された。ピット7は埋土の堆積状況より柱穴と推定されるが、RE502を切る。ピット8も柱穴と推定されるが、ピット7以外の遺構外のピットとRE502との時期関係は不明である。

遺物は北壁際に大形扁平礫が並んだ状態で検出された他、北東コーナー部より礫が4点、南セクション際より礫が2点出土している。いずれも自然礫である。また、東壁際に沿うように長さ45cmの木材が出土している。土器等時期決定資料は出土しなかったが、3グリットで検出されたRE501 堅穴状遺構と比較すると、遺構検出面や壁際に大形礫を並べて配することなど共通性が認められる。RE501 堅穴状遺構に近い時期と推定される。

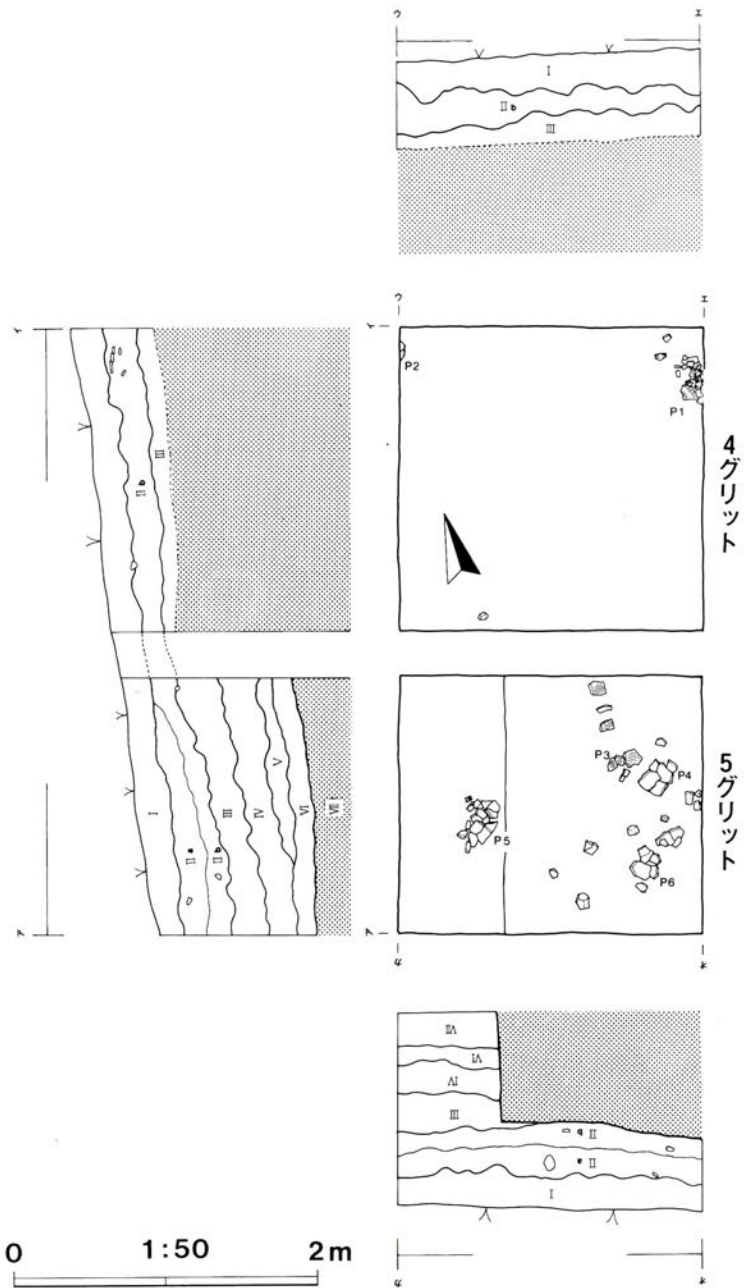
RE502 堅穴状遺構床面の下や遺構外より縄文時代の遺物が多く含まれているため、さらに掘り下げて調査を行なったところ、Ⅳ層下よりRA001 堅穴住居跡が検出された。平面形は不明であるが、東コーナー部、南壁の大半、北壁の一部が検出され、長方形の平面プランを呈するものと推定される。南北280cm、東西350cm以上を測る。床面はほぼ平坦で、中央部付近は硬化している。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は約20cmを測る。住居跡内より5基のピットが検出され、ピット1・2は柱穴と推定される。

遺物は縄文時代前期初頭に属する土器及び石器が出土している。

また、Ⅳ層上面においてRK001 焼土遺構が検出された。径45cmの円形を呈し、深さ10cmの皿状を呈する。縄文時代前期初頭の深鉢が出土している。

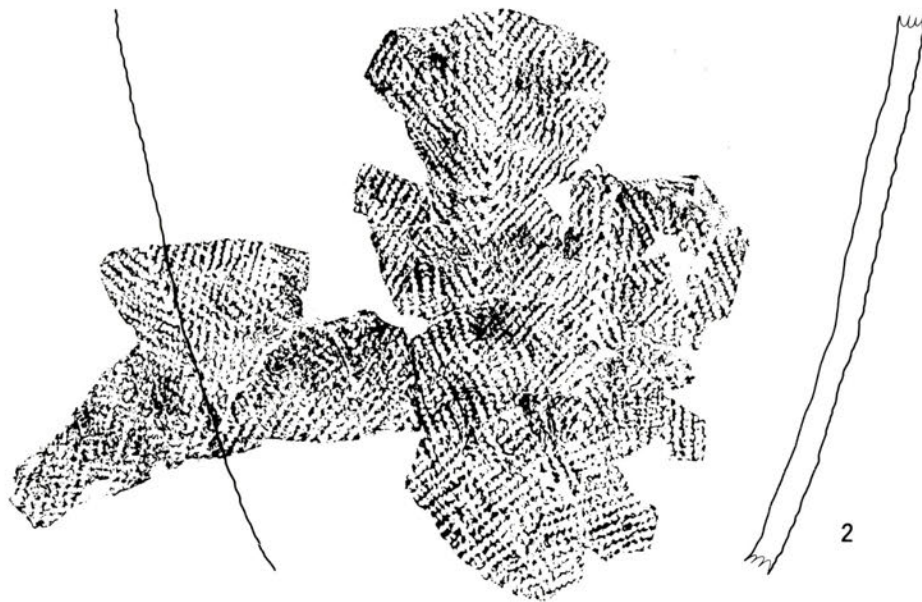
Ⅳ層下面においてRK002 焼土遺構が検出された。東西約50cmの不整形を呈する。焼土層の断ち割りは行なわなかったが、RA001と同じ検出面であることから、ほぼ同時期と推定される。

RA001 堅穴住居跡出土遺物を取り上げ調査を終了したが、RA001 堅穴住居跡遺構外にまだ遺物が含まれており、さらに古い時期の遺構が存在する可能性がある。



層	土色	土性	密度	堅さ	混入物	備考
I	10Y R 黒褐色	シルト	疎	軟		
II a	10Y R 黒褐色	シルト	やや密	やや堅	10Y R 黄褐色火山灰ブロック (φ 10~50mm) 40%、カーボン粒 (φ 1~2mm) 1%	
II b	10Y R 黒褐色	シルト	やや密	やや堅	10Y R 黄褐色粒 (φ 1~2mm) 2%、カーボン粒 (φ 1~2mm) 1%、焼土粒 (φ 1~2mm) 1%	
III	10Y R 黒色	シルト	密	堅	10Y R 黄褐色粒 (φ 1~2mm) 3%、焼土粒 (φ 1~2mm) 1%	
IV	10Y R 黒褐色	シルト	密	堅	10Y R 黄褐色粒 (φ 1~2mm) 5%	
V	10Y R 黒褐色	シルト	密	堅	10Y R 黄褐色粒 (φ 1~2mm) 2%	
VI	10Y R 黄褐色	シルト	密	堅		
VII	10Y R 黄褐色	シルト	密	堅		

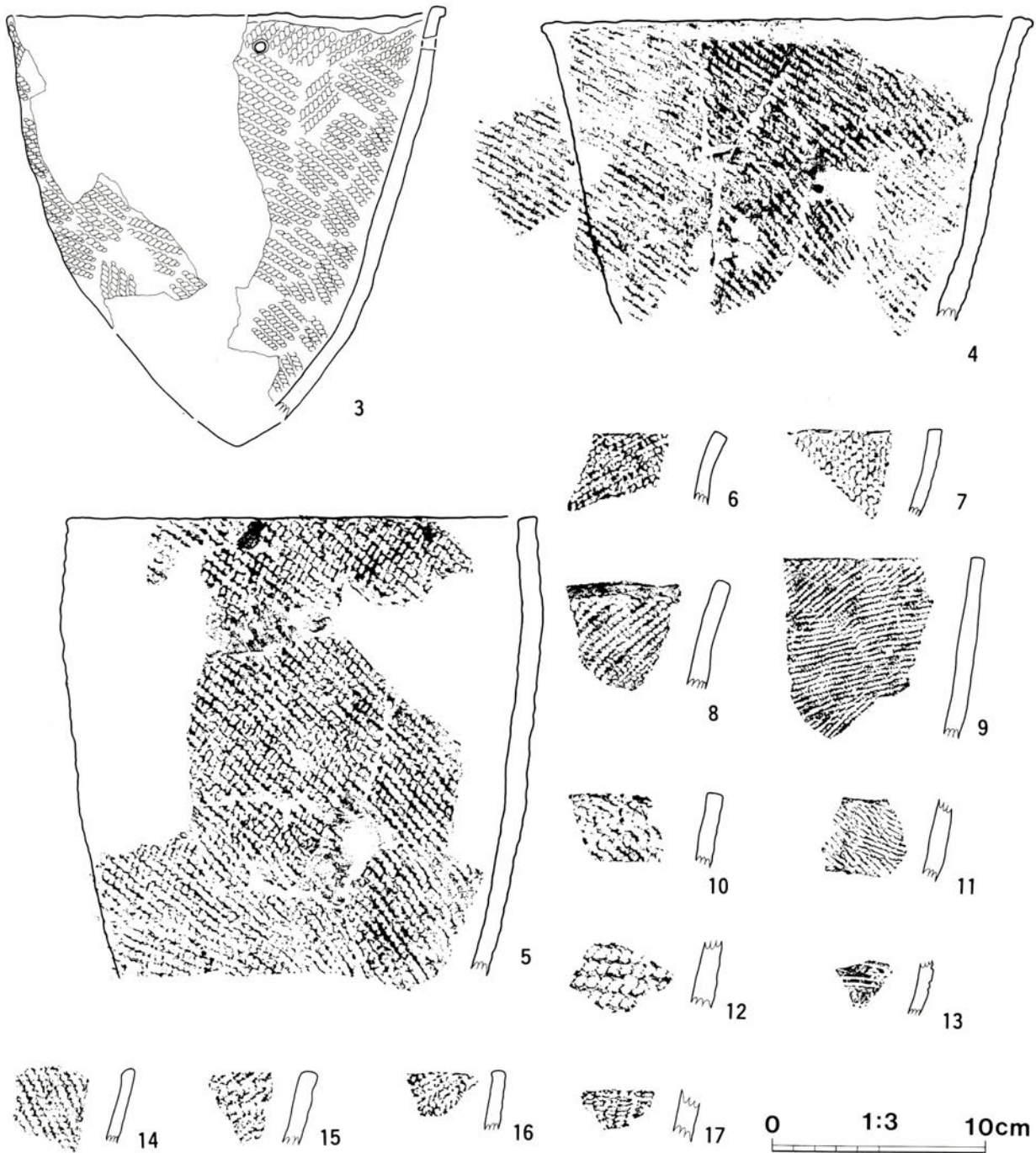
第42図 麦生I遺跡4・5グリッド



0 1:3 10cm

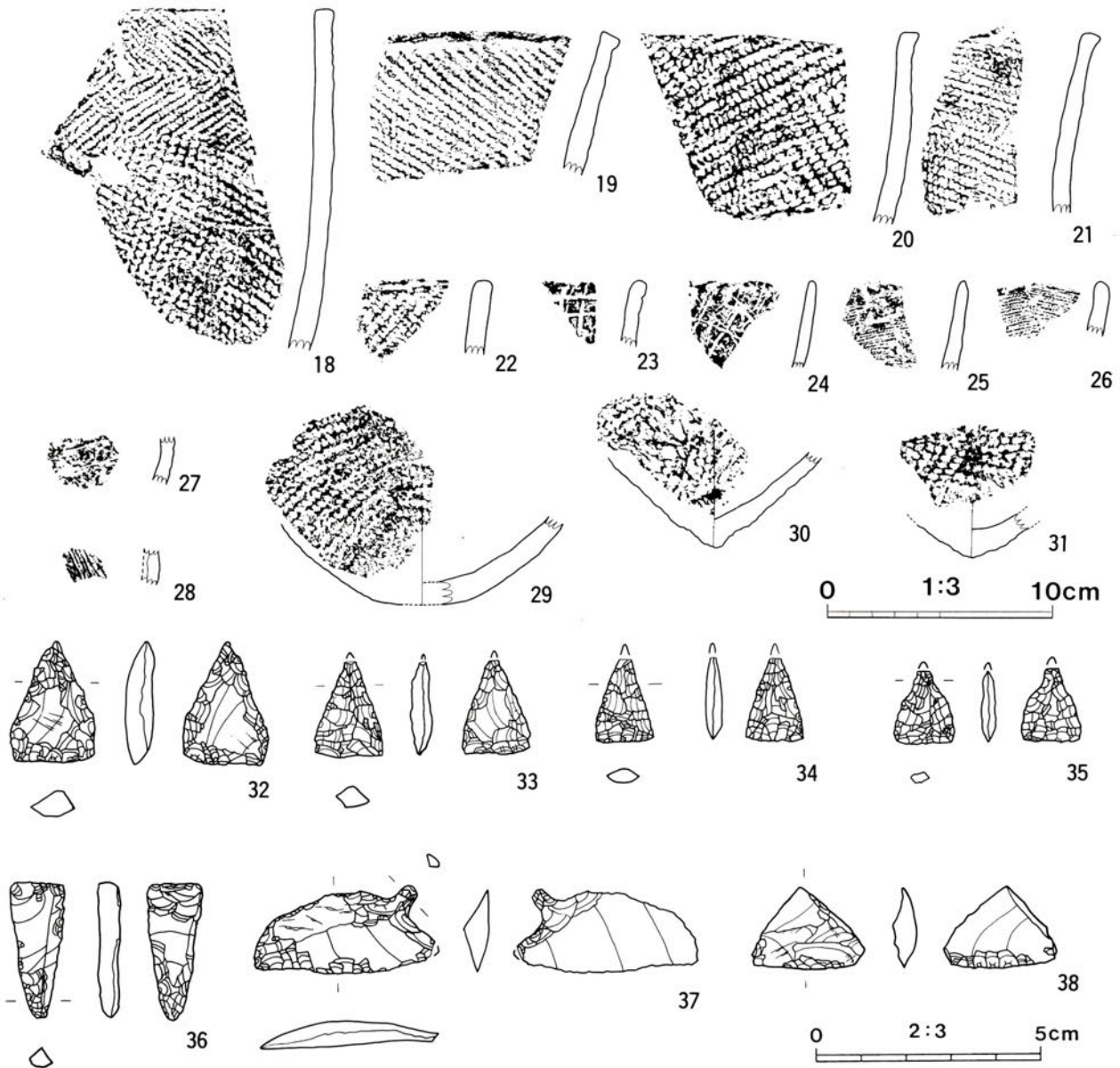
図	器種	部位	出土地点	文様	図版番号	備考
1	深鉢	口縁~胴部下位	4グリッド、Ⅱ層、P1	複節羽状縄文	第16図版、1・2	繊維含
2	深鉢	胴部	4グリッド、Ⅱ層、P2	L R羽状縄文	第16図版、3	繊維含

第43図 麦生I遺跡4グリッド出土遺物



№	器種	部 位	出土地点	文 様	図 版 番 号	備 考
3	深鉢	口縁～胴部下位	5グリッド、Ⅱb層、P3・4	L.R単節	第16図版、4	繊維含、補修孔有
4	深鉢	口縁～胴部	5グリッド、Ⅱb層、P5	R.L単節	第16図版、5	繊維含
5	深鉢	口縁～胴部	5グリッド、Ⅱb層、P6	R.L単節	第16図版、6	繊維含
6	深鉢	口縁部	4グリッド、Ⅱ層	R.L単節		繊維含
7	深鉢	口縁部	4グリッド、Ⅱ層	L.R単節		繊維含
8	深鉢	口縁部	4グリッド、Ⅱ層	R.L単節		繊維含
9	深鉢	口縁部	4グリッド、Ⅱ層	L.R単節		繊維含
10	深鉢	口縁部	4グリッド、Ⅱ層	ループ文、裏朱塗		繊維含
11	深鉢	胴部	4グリッド、Ⅱ層	L無節		繊維含
12	深鉢	胴部	4グリッド、Ⅱ層	複節縄文		繊維含
13	深鉢	胴部	4グリッド、表土	沈線文		繊維含
14	深鉢	口縁部	4グリッド、Ⅲ層	ループ文		繊維含
15	深鉢	口縁部	4グリッド、Ⅲ層	縄文		
16	深鉢	口縁部	4グリッド、Ⅲ層	L.R単節		
17	深鉢	胴部	4グリッド、Ⅲ層	R.L単節		繊維含

第44図 麦生I遺跡4・5グリッド出土遺物

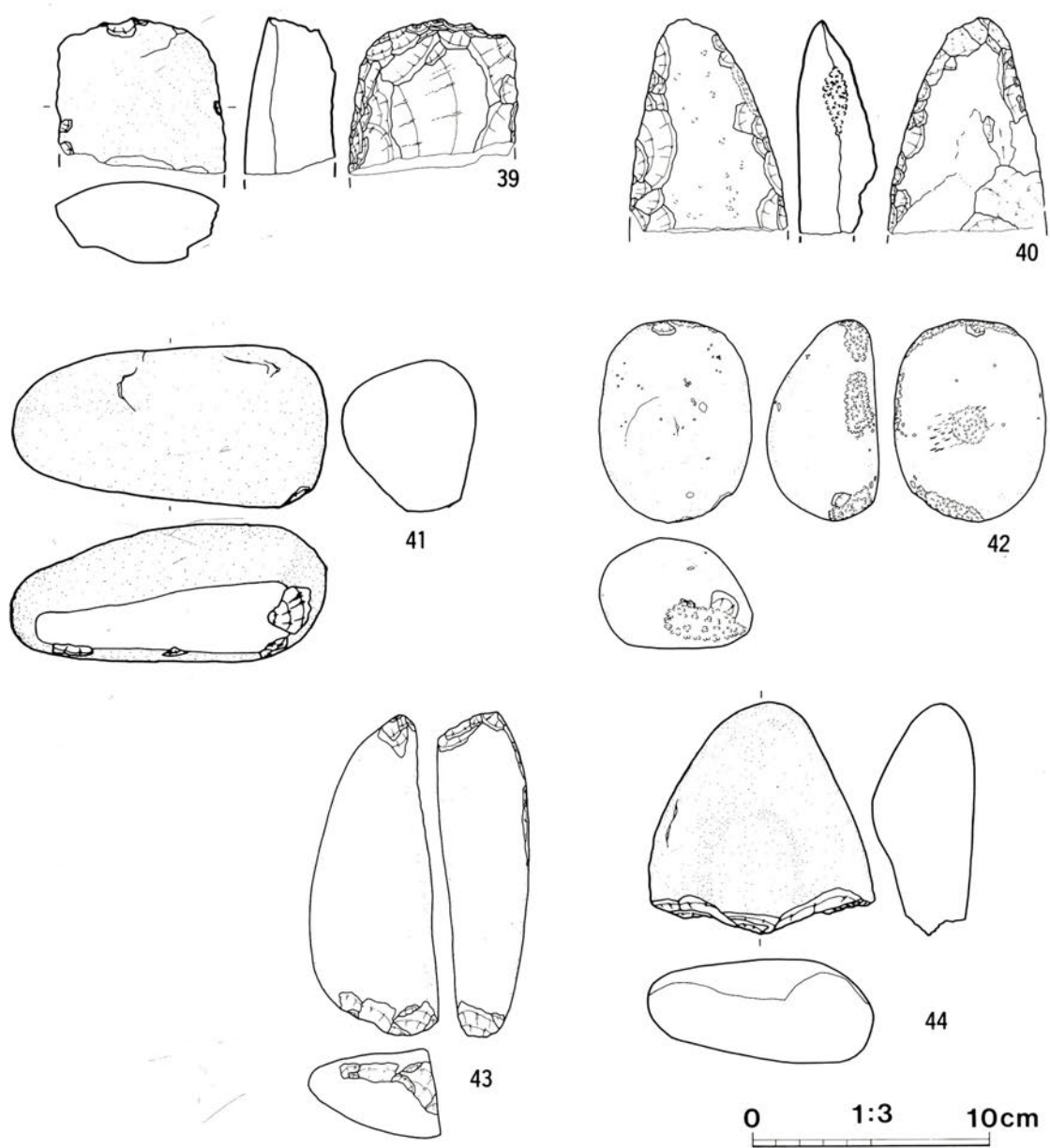


№	器種	部位	出土地点	文様	図版番号	備考
18	深鉢	口縁部	5グリッド、Ⅱ層、P7	口縁部羽状縄文、胴部縦羽状縄文		繊維含
19	深鉢	口縁部	5グリッド、Ⅱ層、P3	複節縄文		繊維含
20	深鉢	口縁部	5グリッド、Ⅱ層、	L R単節、羽状縄文		繊維含
21	深鉢	口縁部	5グリッド、Ⅱ層、P10	R L単節		繊維含
22	深鉢	口縁部	5グリッド、Ⅱ層、P8	L R L複節		繊維含
23	深鉢	口縁部	5グリッド、Ⅱ層	沈線文		繊維含
24	深鉢	口縁部	5グリッド、Ⅱ層	沈線文		繊維含
25	深鉢	口縁部	5グリッド、Ⅰ層	撚糸文		繊維含
26	深鉢	口縁部	5グリッド、Ⅱ層	撚糸文		繊維含
27	深鉢	底部近く	5グリッド、Ⅰ層	条線文		繊維含
28	深鉢	底部近く	5グリッド、Ⅱ層	条線文		繊維含
29	深鉢	底部	5グリッド、Ⅱ層	R L単節		繊維含
30	深鉢	底部	5グリッド、Ⅱ層	L R L複節	第16図版、7	繊維含
31	深鉢	底部	5グリッド、Ⅱ層	R L単節		繊維含

()は欠損品の現存値

№	器種	出土地点	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量、単位g	石質	備考	図版番号
32	石鏃	5グリッド、Ⅱ層	2.7、1.9、0.7	2.7	硬質頁岩	平基無茎	第16図版、10
33	石鏃	4グリッド、Ⅱ層	(2.2)、1.5、0.5	(1.3)	硬質頁岩	平基無茎	
34	石鏃	5グリッド、Ⅱ層S1	(1.9)、1.3、0.4	(0.8)	硬質頁岩	平基無茎	第16図版、8
35	石鏃	5グリッド、Ⅱ層	(1.6)、1.3、0.3	(0.7)	硬質頁岩	平基無茎	第16図版、9
36	石鏃	5グリッド、Ⅰ層	3.0、1.2、0.5	2.0	硬質頁岩		第16図版、12
37	石匙	5グリッド、Ⅱ層	1.9、(4.0)、0.6	(3.5)	チャート		第16図版、11
38	スクレイパー	4グリッド、Ⅱ層	1.8、2.5、0.5	2.5	頁岩		

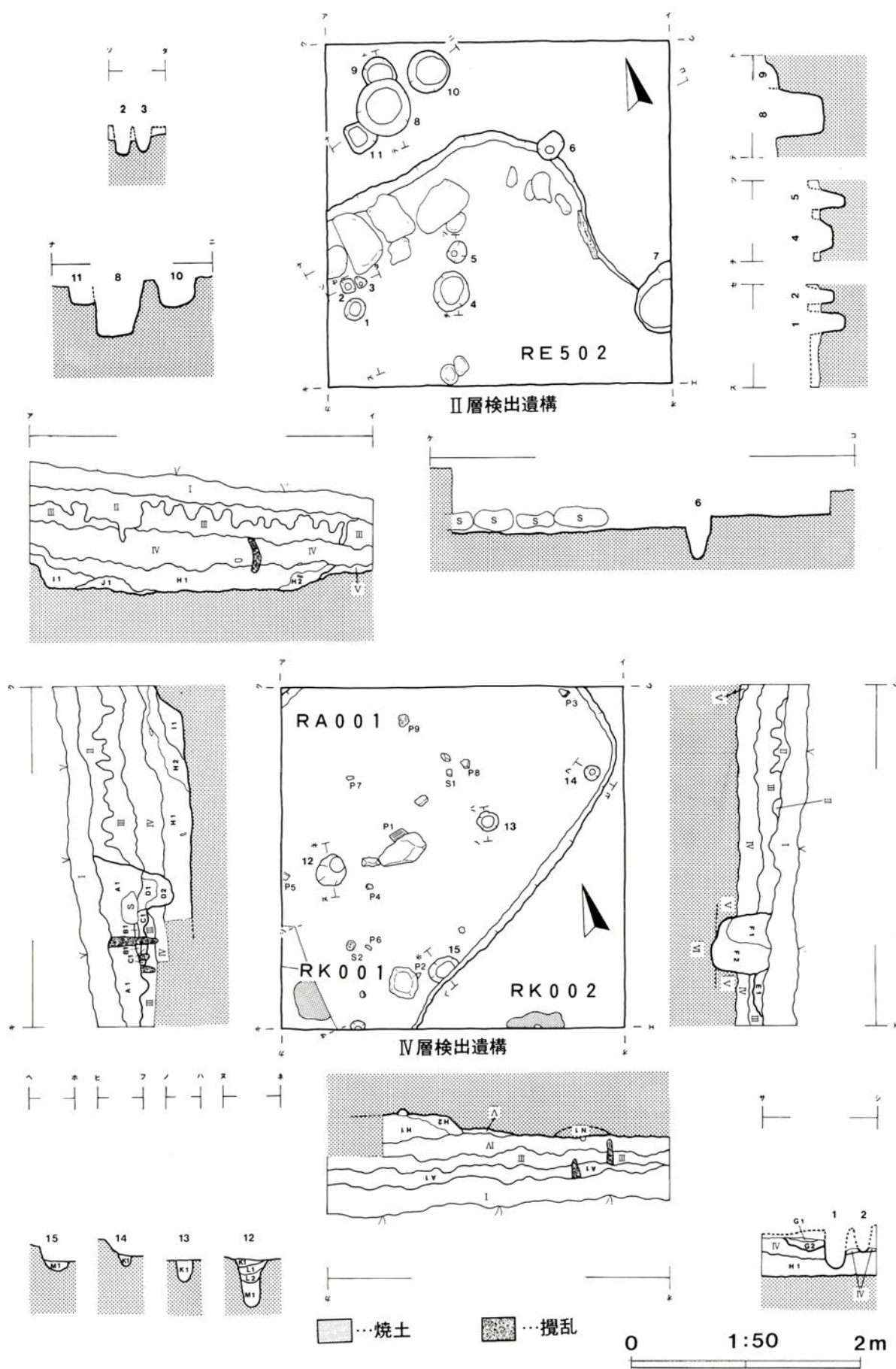
第45図 麦生I遺跡5グリッド出土遺物



()は欠損品の現存値

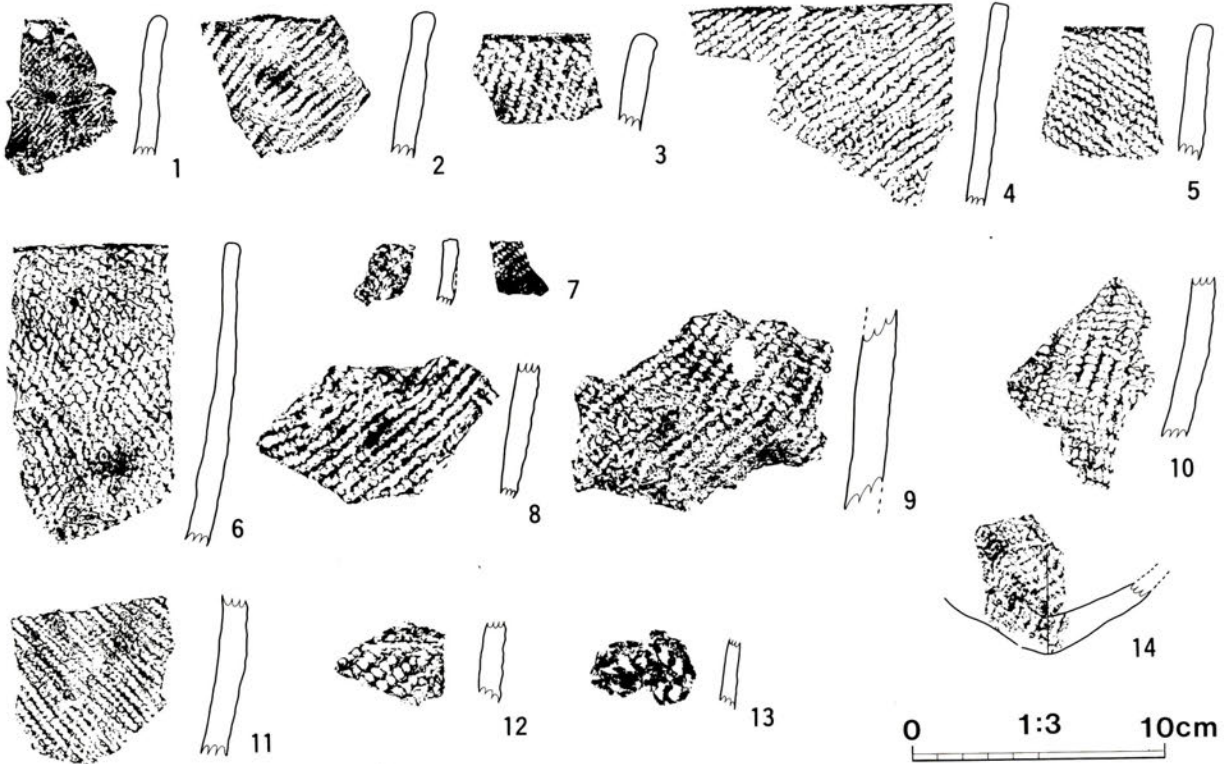
No.	器種	出土地点	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量、単位g	石質	備考	図版番号
39	打製石斧	5グリッド、Ⅱ層	(6.5)、(7.1)、(3.8)	(255.8)	硬砂岩		第16図版、13
40	打製石斧	5グリッド、Ⅰ層	(9.0)、(6.7)、(3.2)	(220.0)	硬砂岩		第16図版、14
41	磨石	5グリッド、Ⅱ層	6.9、13.2、5.9	803.5	花崗岩		第16図版、15
42	敲石	5グリッド、Ⅰ層	8.6、6.4、4.7	384.1	チャート		第16図版、16
43	礫石器	5グリッド、Ⅰ層	13.6、5.4、3.8	386.4	硬砂岩		第16図版、18
44	礫石器	5グリッド、Ⅱ層	9.8、9.5、4.4	580.0	硬砂岩		第16図版、17

第46図 麦生Ⅰ遺跡5グリッド出土遺物



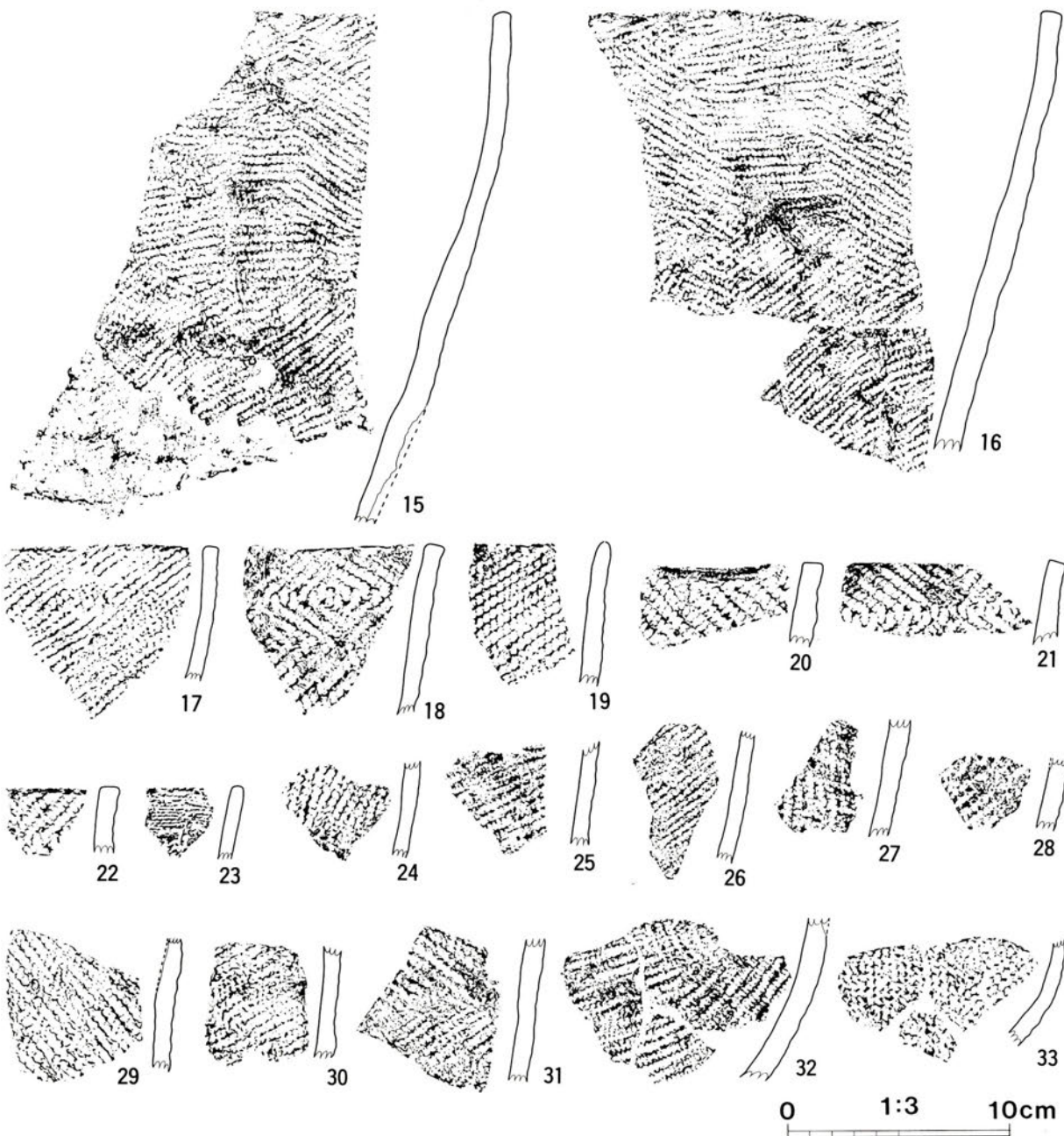
第47図 麦生I遺跡6グリッド

層	土色	土性	密度	堅さ	混入物	備考
I	10YR 2/黒褐色	シルト	疎	軟	耕作土	
II	10YR 2/黒色	シルト	やや疎	やや軟	10YR 2/暗褐色シルトブロック (φ10~30mm) 15%、旧耕作土	
III	10YR 2/暗褐色	シルト	やや密	やや堅	10YR 2/黄褐色火山灰ブロック (φ5~100mm) 30%、焼土粒 (φ1~3mm) 1%	
IV	10YR 2/黒褐色	シルト	密	堅	10YR 2/明黄褐色粒 (φ1~3mm) 3%、カーボン粒 (φ1~2mm) 1%、遺物多く含む。	
V	10YR 2/褐色	シルト	密	やや堅	10YR 2/にぶい黄褐色スコリア粒 (φ1~3mm) 5%、10YR 2/黒褐色ブロック (φ10~50mm) 30%、粘性強	
VI	10YR 2/黄褐色	シルト	密	やや堅	10YR 2/にぶい黄褐色スコリア粒 (φ1~3mm) 7%、粘性強	
A1	10YR 2/黒色	シルト	やや密	やや堅	10YR 2/黄褐色火山灰ブロック (φ10~20mm) 3%、カーボン粒 (φ1~2mm) 5%	RE502埋土
B1	10YR 2/黒褐色	シルト	やや密	やや軟	砂 (90%) 質土	RE502埋土
C1	10YR 2/黒褐色	シルト	密	やや堅	砂 (10%) 質土	RE502埋土
D1	10YR 2/黒褐色	シルト	疎	軟	10YR 2/黄褐色火山灰ブロック (φ2~10mm) 10%	RE502埋土・人為堆積
D2	10YR 2/暗褐色	シルト	疎	軟	10YR 2/黄褐色火山灰ブロック (φ2~30mm) 15%	RE502埋土・人為堆積
E1	10YR 2/黒色	シルト	疎	軟	ビット7を切る	
F1	10YR 2/黒褐色	シルト	やや疎	やや堅	10YR 2/黒褐色ブロック (φ10~50mm) 20% RA501を切る	ビット7埋土
F2	10YR 2/黒褐色	シルト	やや密	やや堅	10YR 2/黒褐色ブロック (φ10~20mm) 20%、10YR 2/明黄褐色火山灰ブロック (φ10~15mm) 7%	ビット7埋土・人為堆積
G1	10YR 2/暗褐色	シルト	密	やや堅	5YR 2/明赤褐色焼土粒 (φ1~2mm) 3%、カーボン粒 (φ1~2mm) 1% RA501に切られる	RK001
G2	5YR 2/明赤褐色	焼土	密	堅	10YR 2/暗褐色土15% RA501に切られる	RK001
H1	10YR 2/暗褐色	シルト	密	堅	10YR 2/黄褐色粒~ブロック (φ2~10mm) 7%、カーボン粒 (φ1~3mm) 3%、焼土粒 (φ1~2mm) 2%	RA001埋土
H2	10YR 2/暗褐色	シルト	密	堅	10YR 2/黄褐色粒~ブロック (φ2~20mm) 15%、カーボン粒 (φ1~3mm) 1%	RA001埋土
I1	10YR 2/にぶい黄褐色	シルト	密	堅	10YR 2/黄褐色粒~ブロック (φ2~30mm) 50%、10YR 2/にぶい黄褐色スコリア粒 (φ1~3mm) 5%	RA001埋土
J1	10YR 2/黒色	シルト	密	堅	10YR 2/黄褐色粒~ブロック (φ1~10mm) 5%、カーボン粒 (φ1~3mm) 3% 非常に堅い	RA001埋土
K1	10YR 2/暗褐色	シルト	密	やや堅	10YR 2/黄褐色粒~ブロック (φ2~10mm) 5%、カーボン粒 (φ1~2mm) 1%	RA001ビット埋土
L1	10YR 2/褐色	シルト	やや密	やや軟	10YR 2/黄褐色粒 (φ2~3mm) 5%、粘性強	RA001ビット埋土
L2	10YR 2/褐色	シルト	やや密	やや軟	10YR 2/黄褐色粒 (φ2~3mm) 3%、粘性強	RA001ビット埋土
M1	10YR 2/褐色	シルト	やや密	やや軟	粘性強	RA001ビット埋土
N1	5YR 2/明赤褐色	焼土	密	堅	10YR 2/暗褐色土15%	RK002



No.	器種	部位	出土地点	文様	図版番号	備考
1	深鉢	口縁部	6グリッド、III層	LR単節		繊維含
2	深鉢	口縁部	6グリッド、III層下位	LR単節		繊維含
3	深鉢	口縁部	6グリッド、III層下位	LR単節		繊維含
4	深鉢	口縁部	6グリッド、IV層	RLR複節		繊維含
5	深鉢	口縁部	6グリッド、RK001	RLR複節		繊維含
6	深鉢	口縁部	6グリッド、IV層	RL単節		繊維含
7	深鉢	口縁部	6グリッド、RE502埋土	口唇上縄文、裏面縄文RL		繊維含
8	深鉢	胴部	6グリッド、III層下位	LR単節		繊維含
9	深鉢	胴部	6グリッド、III層上位	LR単節		繊維含
10	深鉢	胴部	6グリッド、III層下位	RL単節		繊維含
11	深鉢	胴部	6グリッド、IV層	RL単節		繊維含
12	深鉢	胴部	6グリッド、III層下位	ループ文		繊維含
13	深鉢	胴部	6グリッド、III層下位	刺突文、爪形?		
14	深鉢	底部	6グリッド、IV層	RL単節		繊維含

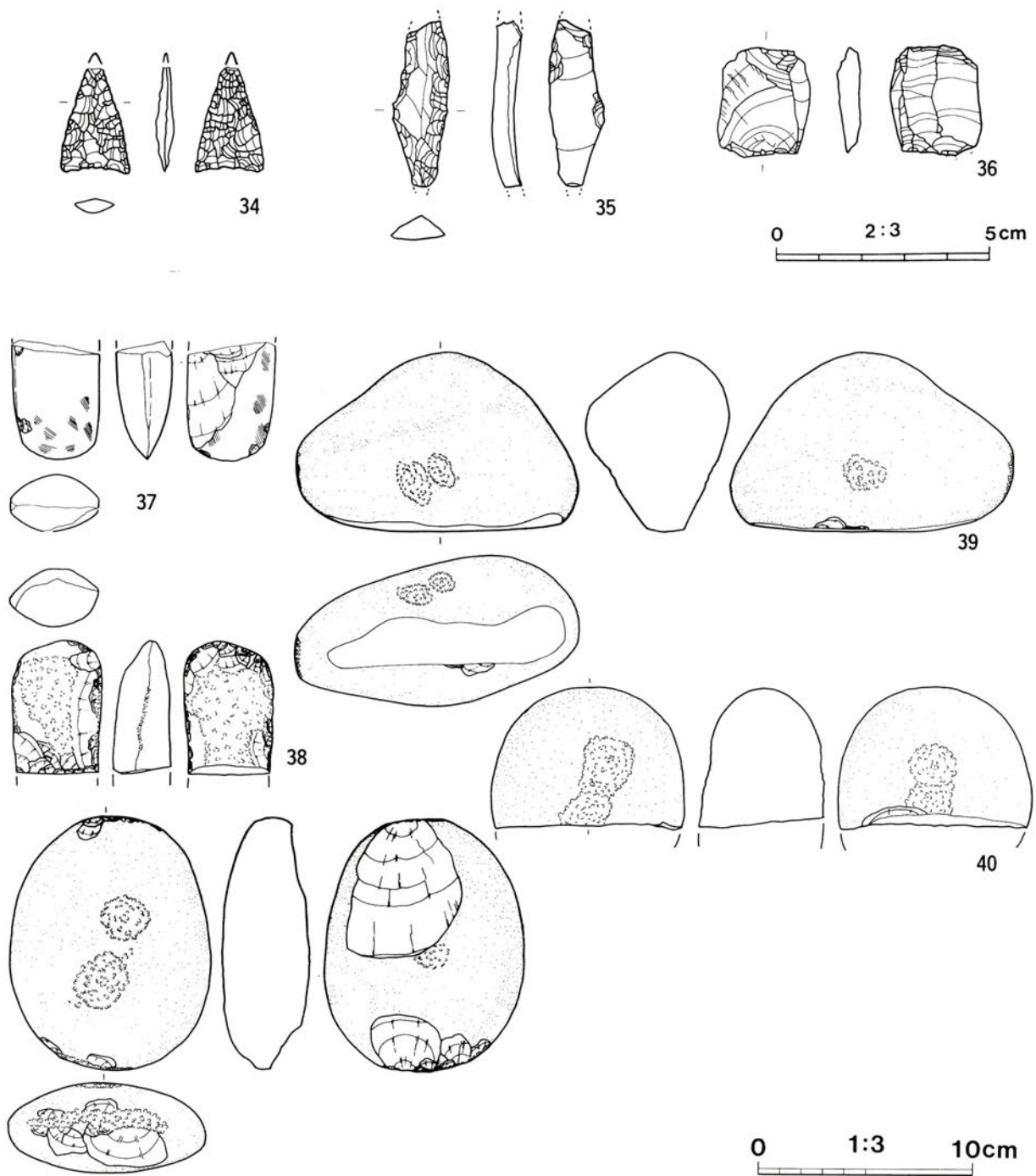
第48図 表生I遺跡6グリッド出土遺物



48

№	器種	部位	出土地点	文様	図版番号	備考
15	深鉢	口縁~胴部	6グリッド、Ⅳ層	LR単節、口唇部縄文	第17図版、1	繊維含 同一個体
16	深鉢	口縁~胴部	6グリッド、RA001 埋土下位、P1	LR単節、口唇部縄文	第17図版、2	繊維含
17	深鉢	口縁部	6グリッド、RA001 検出面	LRL複節		繊維含
18	深鉢	口縁部	6グリッド、RA001 埋土下位、P2	複節結束羽状、LRL複節		繊維含
19	深鉢	口縁部	6グリッド、RA001 検出面	LRL複節		繊維含
20	深鉢	口縁部	6グリッド、RA001 埋土	RL単節		繊維含
21	深鉢	口縁部	6グリッド、RA001 検出面	LR結束羽状		繊維含
22	深鉢	口縁部	6グリッド、RA001 埋土	LR単節		繊維含
23	深鉢	口縁部	6グリッド、RA001 埋土下位、P3	擦糸文		繊維含
24	深鉢	胴部	6グリッド、RA001 埋土中位、P4	LRL複節		繊維含
25	深鉢	胴部	6グリッド、RA001 床直、P5	LR単節		繊維含
26	深鉢	胴部	6グリッド、RA001 埋土上位、P6	LR単節		繊維含
27	深鉢	胴部	6グリッド、RA001 床ややうき、P7	LR単節		繊維含
28	深鉢	胴部	6グリッド、RA001 床直	LR単節		繊維含
29	深鉢	胴部	6グリッド、RA001 埋土下位、P8	LRL複節		繊維含
30	深鉢	胴部	6グリッド、北セク、H2層	LR単節		繊維含
31	深鉢	胴部	6グリッド、RA001 検出面	RL羽状		繊維含
32	深鉢	胴部	6グリッド、RA001 床ややうき、P9	RRL複節		繊維含
33	深鉢	胴部下位	6グリッド、RA001 検出面	LRL複節		繊維含

第49図 麦生I遺跡6グリッド・RA001出土遺物(1)



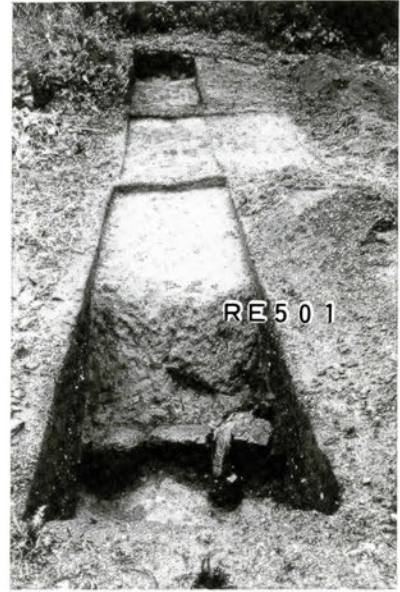
()は欠損品の現存値

図	器種	出土地点	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量、単位g	石質	備考	図版番号
34	石鏃	6グリッド、M層	(2.4)、1.6、0.4	(1.2)	硬質頁岩	凹基無基	第17図版、3
35	石匙?	6グリッド、Ⅲ層上位	(3.9)、1.3、(0.6)	(3.3)	硬質頁岩		第17図版、4
36	ピエスエスキュー	6グリッド、RA001埋土	2.6、2.2、0.5	4.1	硬質頁岩		第17図版、5
37	磨製石斧	6グリッド、I層	(5.5)、(4.1)、(2.1)	(73.5)	流紋岩		第17図版、6
38	打製石斧	6グリッド、RA001床やうきS1	(6.2)、(4.2)、(2.7)	(109.1)	流紋岩		第17図版、7
39	磨石	6グリッド、M層	8.4、13.1、7.1	870.5	珉岩	三ヶ所凹み有、端部敲打痕有	第17図版、10
40	凹石	6グリッド、RA001検出面	(6.5)、(9.0)、(5.8)	(525.8)	安山岩		第17図版、8
41	凹石	6グリッド、RA001床直S2	11.9、9.4、4.2	673.8	安山岩	敲打痕有	第17図版、9

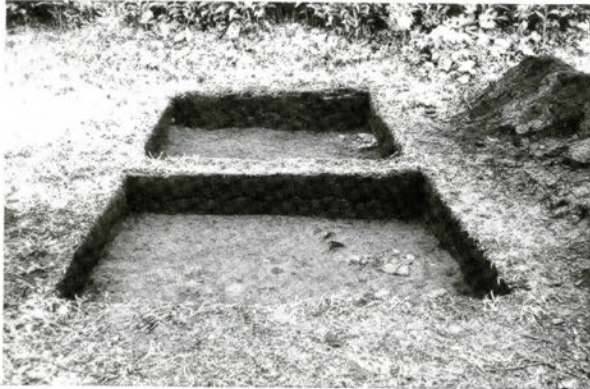
第50図 麦生I遺跡6グリッド・RA001出土遺物(2)



遺跡近景 (南西より)



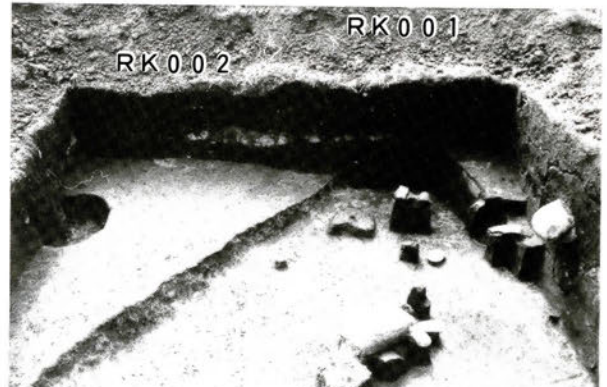
1・2・3グリッド (南より)



4・5グリッド (南より)



6グリッド RE502 検出状況 (東より)



6グリッド RA001 検出状況 (北より)



6グリッド RA001 検出状況 (南より)



6グリッド RA001 完掘状況 (南西より)

第14図版 麦生I遺跡試掘調査状況

2. 麦生XXI遺跡

昭和63年度、麦生小中学校建設用地候補地のひとつとして、現在の麦生小中学校より北西へ約900mの山林地が選ばれた。標高約130~150mの侍浜段丘面に相当する。東側及び西側に沢が流れており、その沢によって開析され南に張り出した地形を呈する。張り出し部上面はほぼ平坦である。当該地はそれまでは遺跡台帳に登録されていない箇所であるうえ、現況は山林で遺物の表採は不可能であった。

しかしながら、地形等からの判断すると、遺跡が存在する可能性が高い箇所であったため、平成元年度に遺跡の有無を確認するため試掘調査を実施した。

現況は山林であり、樹木が込み入っているため任意に3箇所においてグリットを設定し、試掘を行なった。(第52図)

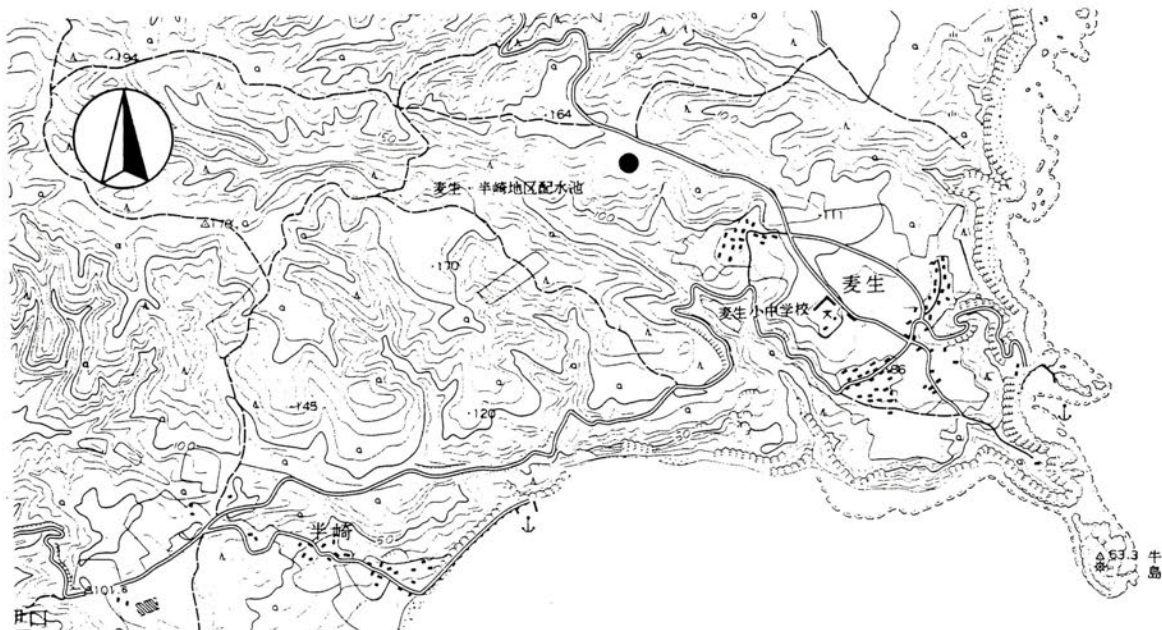
a. 1グリット (第53図)

1グリットは、張り出しの中央部のほぼ平坦地に3m×3mの方形に設定した。遺構は検出されず、遺物もI層表土から土器片1点が出土したのみである。

b. 2グリット (第53図)

2グリットは、張り出し西側、北東から南西にやや下る緩傾斜面に3m×3mの方形に設定した。

遺構は検出されなかったが、II層より遺物が比較的多く出土しており、付近に遺構が存在するものと推定される。縄文時代前期に属する遺物が主体を占める。

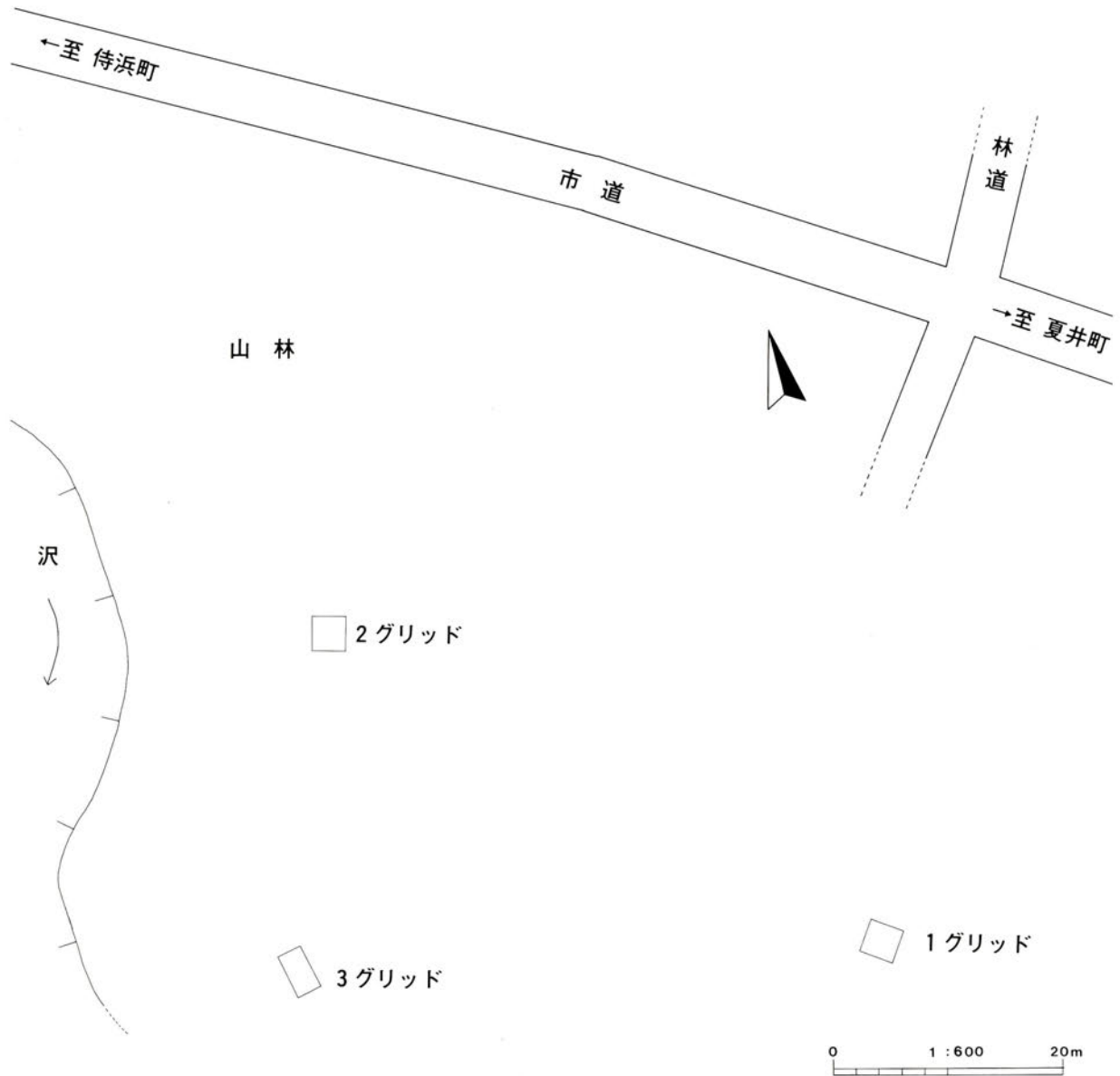


第51図 麦生XXI遺跡試掘調査区位置図 ●印 (S=1:25,000)

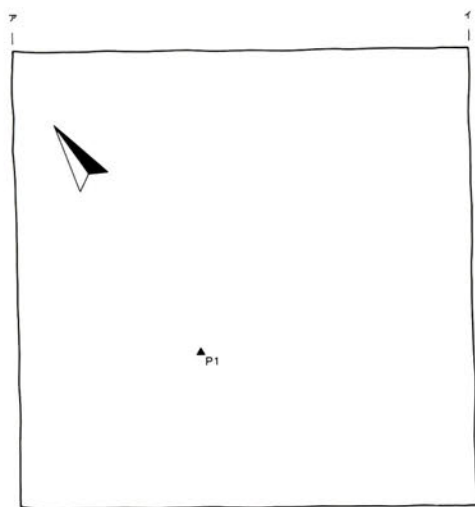
c. 3グリッド (第53図)

3グリッドは、張り出し部南西部、南から北へやや下る緩傾斜面に2m×2mの方形に当初は設定したが、遺構と思われる落ち込みが検出されたため、その後南東方向へ2m、北西方向へ0.2m拡張した。

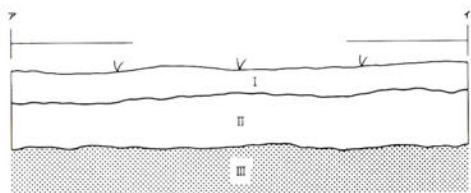
II層より多くの遺物が出土し、遺構の確認を行なったところ、平面形が円形ないしは楕円形を呈するものと推定されるプランの一部が検出された。調査は遺構検出面までで終了し、その時点で出土している遺物を取り上げた。壁際にサブトレンチを設け、壁が立ち上がることを確認したが、床面までは掘り下げてはいない。遺物の出土状況、推定される規模、平面形等から竪穴住居跡(RA001)と推定される。出土遺物より縄文時代晩期に属するものと推定される。



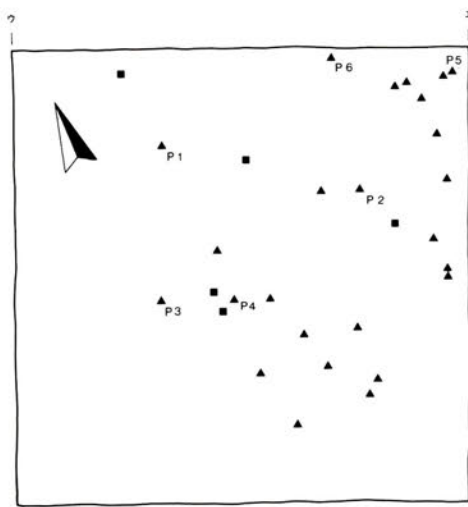
第52図 麦生XXI遺跡グリッド配置図



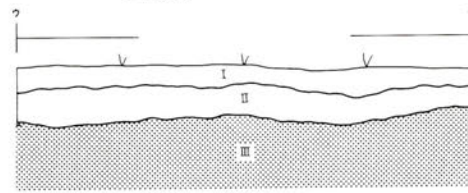
P1... I層出土



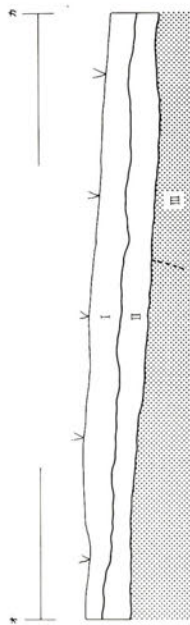
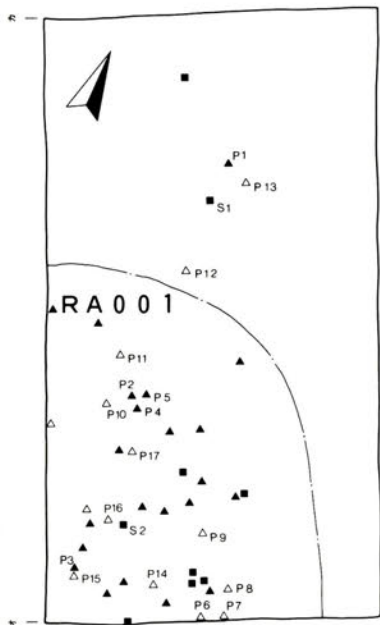
1 グリッド



▲土器
■石器 } 全てII層出土



2 グリッド



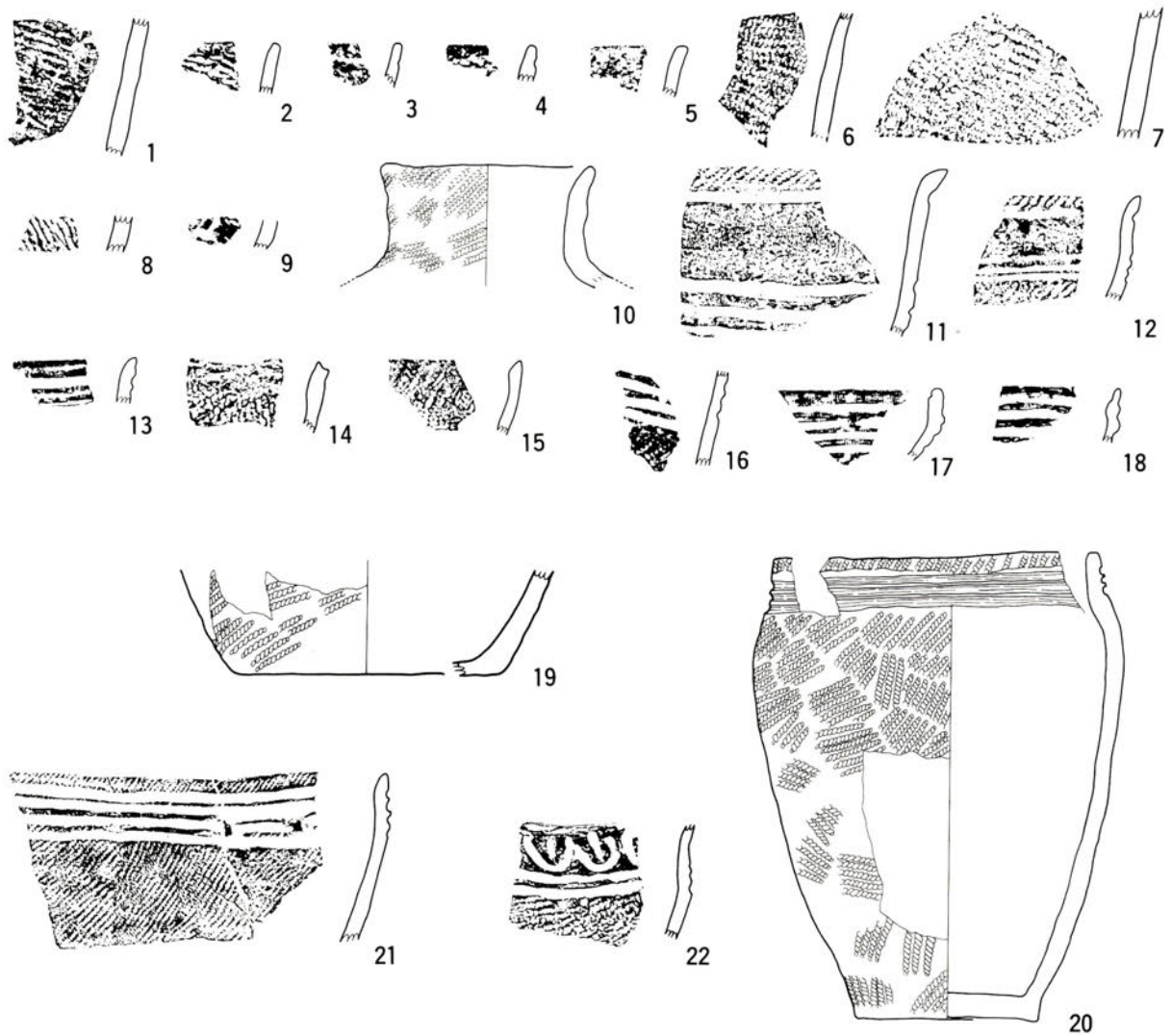
3 グリッド

▲土器
■石器
△同一個体(第54図、20)

0 1:50 2m

層	土色	土性	密度	堅さ	混入物	備考
I	10YR 7/黒色	シルト	疎	軟	表土	
II	10YR 7/黒褐色	シルト	やや疎	やや軟	10YR 7/褐色粒 (φ 1~5mm) 5%	
III	10YR 7/褐色	シルト	密	やや堅		

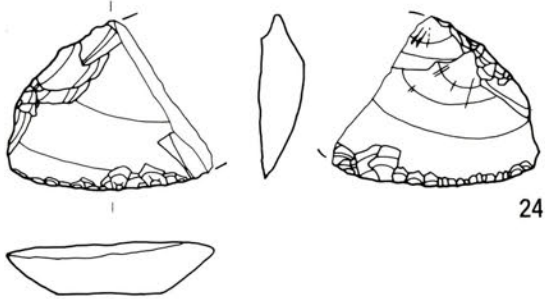
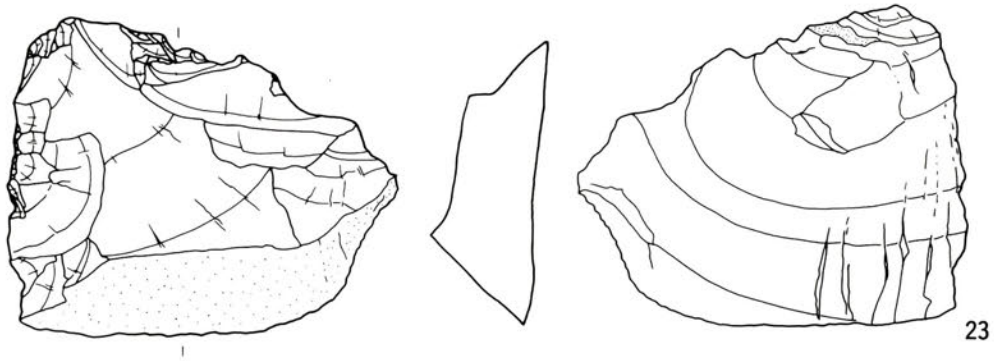
第53図 麦生XXI遺跡1~3グリッド



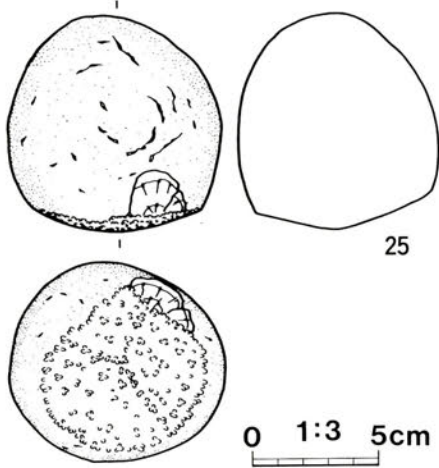
0 1:3 10cm

No.	器種	部 位	出土地点	文 様	図版番号	備 考
1	深鉢	胴部	1グリッド、I層、P1	R無節		
2	深鉢	口縁部	2グリッド、P1	口唇部下原体圧痕、L無節		
3	深鉢	口縁部	2グリッド、P2	口唇部下原体圧痕		
4	深鉢	口縁部	2グリッド、P3	口唇部下原体圧痕		
5	深鉢	口縁部	2グリッド、II層	無文		
6	深鉢	胴部	2グリッド、II層、P4	L R単節		
7	深鉢	胴部	2グリッド、II層、P5	L R単節		
8	深鉢	胴部	2グリッド、P6	L無節		
9	深鉢	胴部	2グリッド、II層	沈線文		
10	壺	口縁～肩部	3グリッド、II層、P1	L R単節	第17図版、12	
11	深鉢	口縁部	3グリッド、II層、P2		第17図版、13	
12	深鉢	口縁部	3グリッド、		第17図版、14	
13	深鉢	口縁部	3グリッド、II層	平行沈線文	第17図版、16	
14	深鉢	口縁部	3グリッド、II層	L R単節、波状口縁	第17図版、22	
15	深鉢	口縁部	3グリッド、II層	L R単節		
16	深鉢	口縁部付近	3グリッド、II層、P3	平行沈線文、L R単節	第17図版、20	
17	浅鉢	口縁部付近	3グリッド、II層	工字文、ミガキ調整	第17図版、17	
18	浅鉢	口縁部付近	3グリッド、II層、P4	平行沈線文、ミガキ調整	第17図版、18	
19	深鉢	底部	3グリッド、II層、P5	L R単節		
20	深鉢	口縁～底部	RA001 埋土、P6～14	平行沈線文、L R単節	第17図版、11	
21	深鉢	口縁部	RA001 埋土、P15、16	平行沈線文	第17図版、15	
22	深鉢	口縁部付近	RA001 埋土、P17	弧状沈線文、平行沈線文、L R単節	第17図版、21	

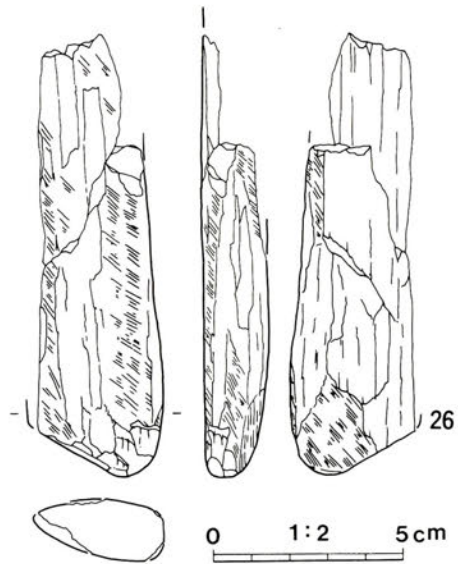
第54図 麦生XX I遺跡1～3グリッド出土遺物



0 2:3 5cm



0 1:3 5cm



0 1:2 5cm

()は欠損品の現存値

№	器種	出土地点	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量、単位g	石質	備考	図版番号
23	フレイク	3グリッド、Ⅱ層S1	6.3、7.7、2.3	100.1	頁岩		第17図版、24
24	スクレイパー	3グリッド、Ⅱ層	(3.4)、(4.0)、(1.0)	(10.2)	頁岩		第17図版、23
25	敲石	3グリッド、Ⅱ層S2	8.6、8.4、7.9	128.8	花崗閃緑岩		第17図版、26
26	石刀	3グリッド、Ⅰ層	(11.7)、(3.3)、(1.7)	(62.4)	珪化木		第17図版、25

第55図 麦生XXI遺跡3グリッド出土遺物



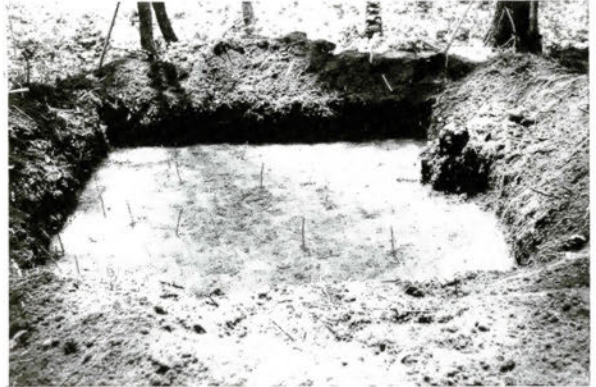
遺跡近景、左側山林が試掘箇所（東より）



試掘箇所近景（東より）



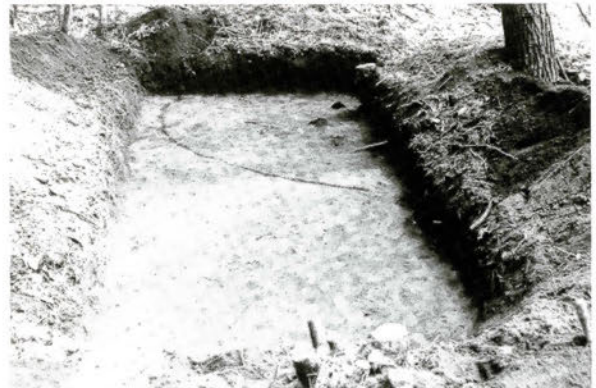
1 グリッド（北西より）



2 グリッド（北東より）



2 グリッド東コーナー部遺物出土状況（南西より）



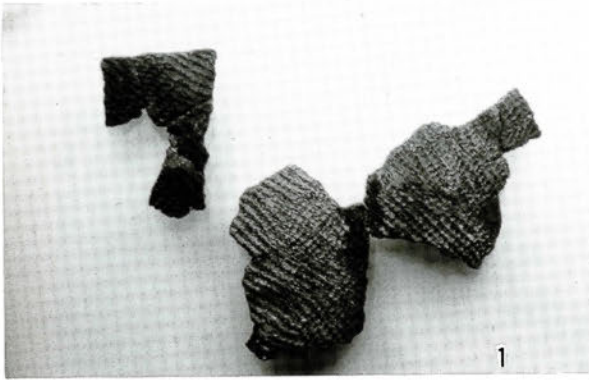
3 グリッド（北より）



3 グリッド RA001 確認状況（南より）



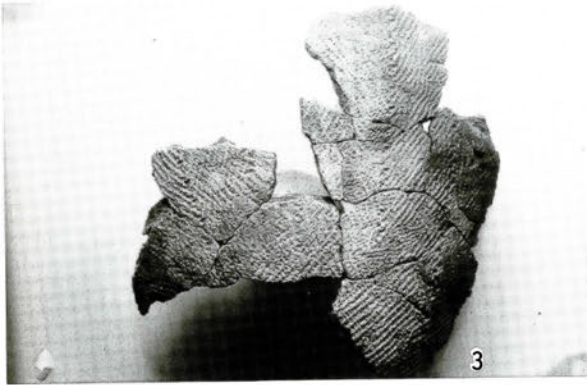
3 グリッド RA001 遺物出土状況（南東より）



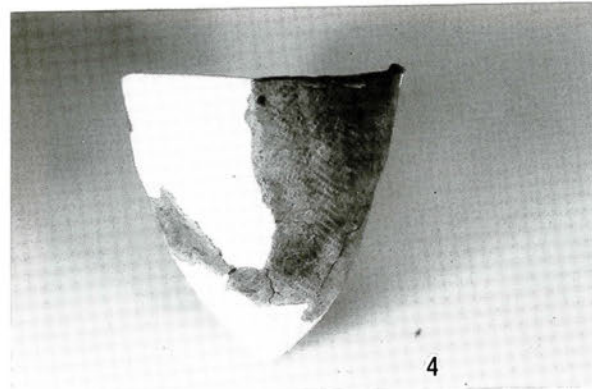
4 グリッド出土遺物 (右写真と同一個体)



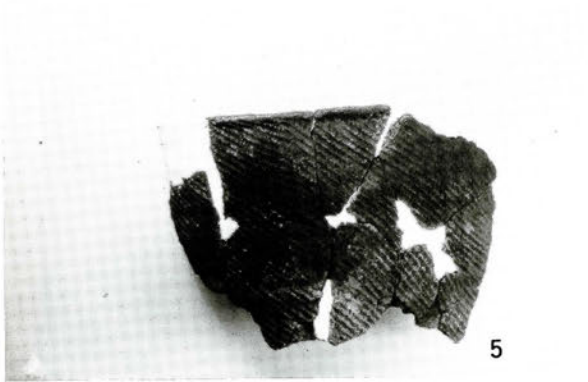
同左 (左写真と同一個体)



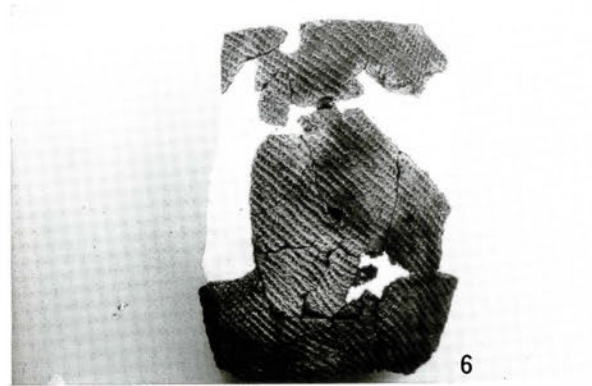
4 グリッド出土遺物



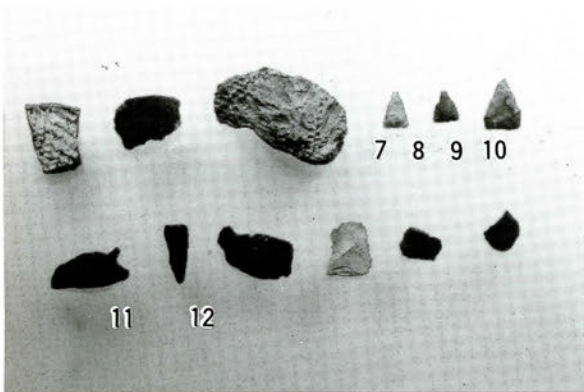
5 グリッド出土遺物



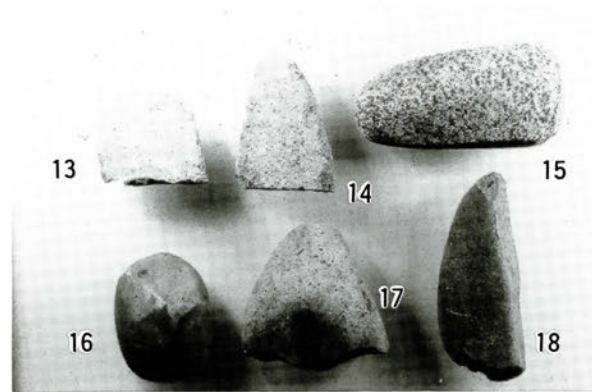
5 グリッド出土遺物



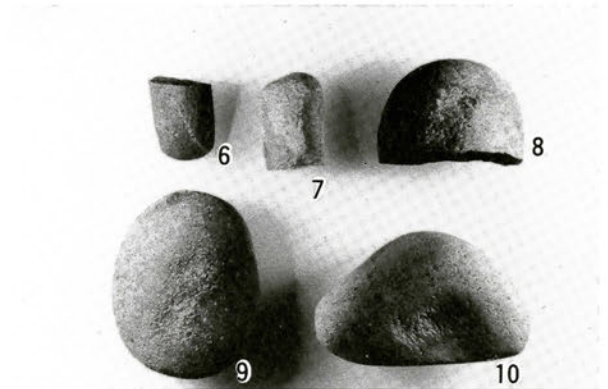
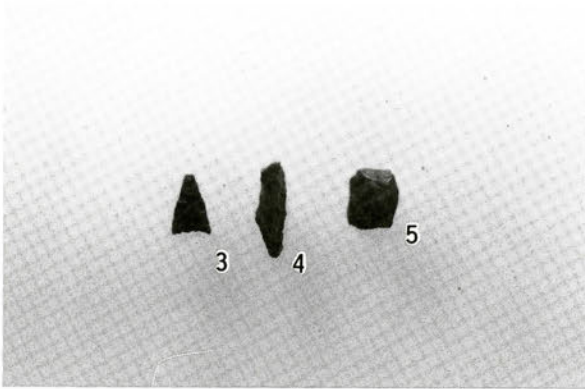
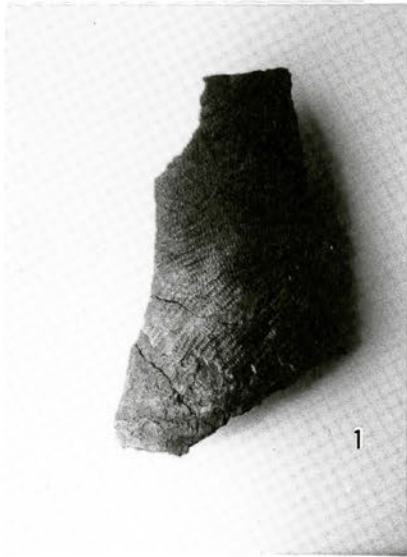
5 グリッド出土遺物



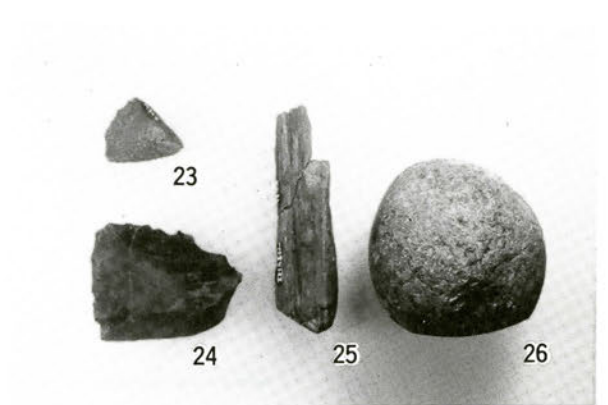
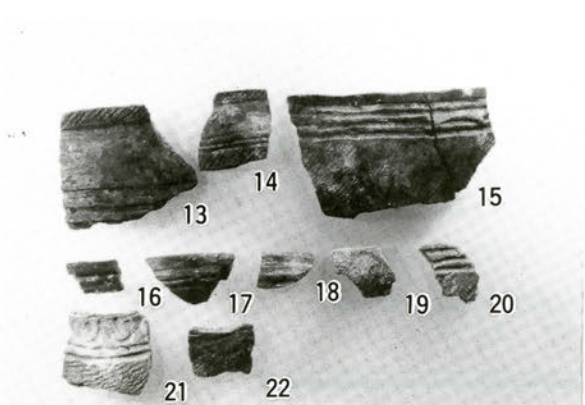
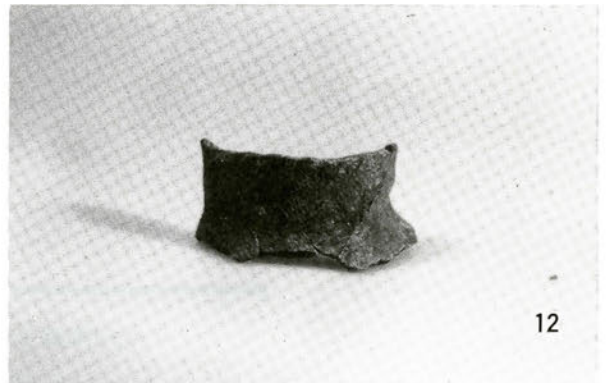
5 グリッド出土遺物



5 グリッド出土遺物



麦生 I 遺跡 6 グリッド出土遺物



麦生 XX 遺跡 3 グリッド出土遺物

久慈市埋蔵文化財調査報告書 第12集

久慈市内遺跡詳細分布調査報告書 I

平成2年3月発行

発行 久慈市教育委員会

〒032 岩手県久慈市川崎町1-1
TEL (0194) 52-2111

印刷 有限会社 九戸印刷

〒032 岩手県久慈市長内町24-10-13
TEL (0194) 52-1113

